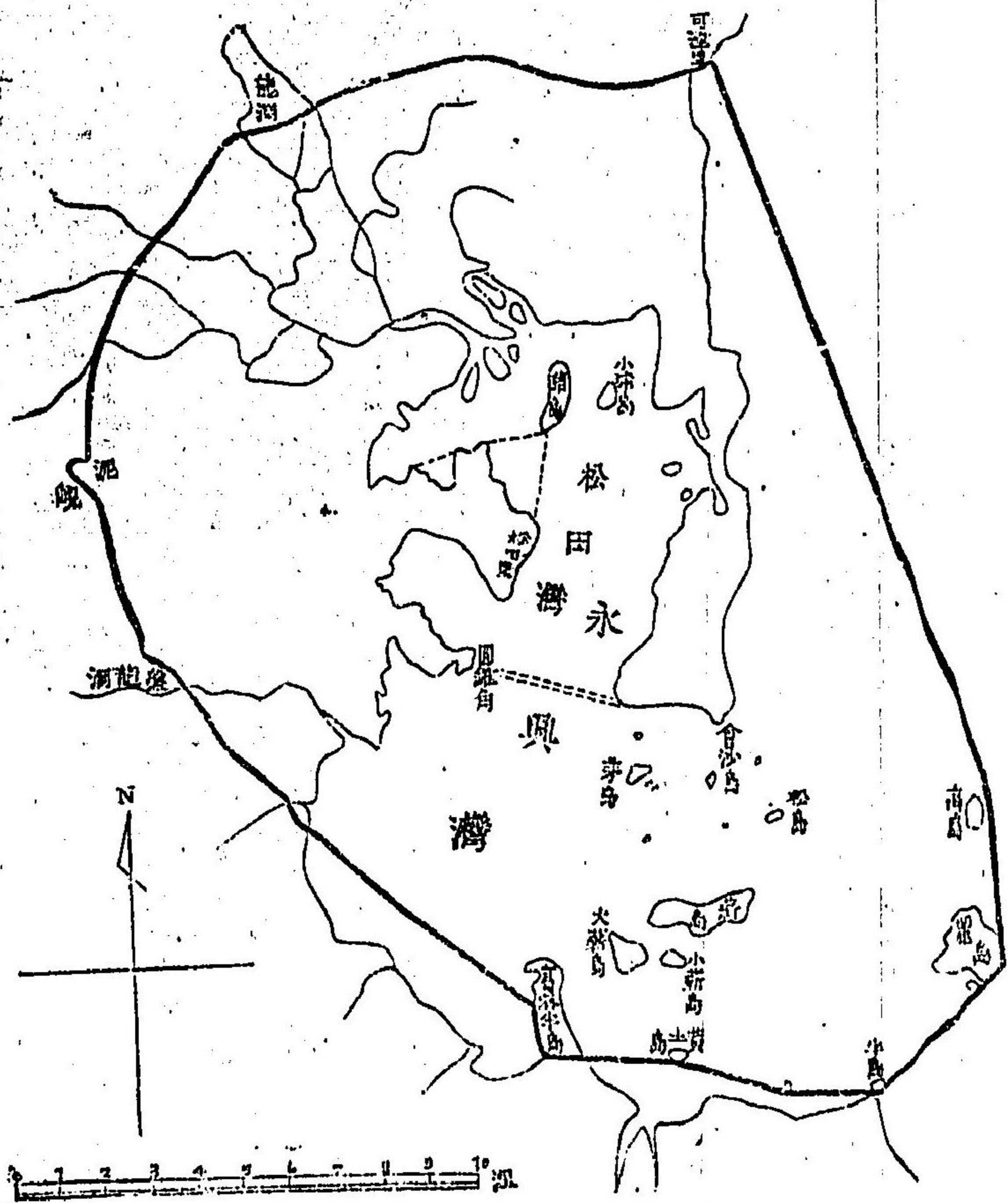


永興要港境域圖



○海軍省令第十四號
海軍出身志願者身體檢査格例中左ノ通改正ス

明治四十三年十二月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第一條 身體強健精神異常ナク全身ノ發育對稱完全ニシテ海軍軍人ノ服務ニ適スルモノヲ合格トス

第二條 第一號中「百七十一」ヲ、第二號中「鍛冶」及「百八十三」ヲ、第三號中「百八十三」ヲ、第四號中「百七十一」「百七十七」及「百八十三」ヲ、第十四號中「呼吸短促、聲音嘶啞」ヲ削除シ第十號中「二十」「二十一」「二十二」「二十三」「二十四」「二十五」「二十六」「二十七」「二十八」「二十九」「三十」「三十一」「三十二」「三十三」「三十四」「三十五」「三十六」「三十七」「三十八」「三十九」「四十」「四十一」「四十二」「四十三」「四十四」「四十五」「四十六」「四十七」「四十八」「四十九」「五十」「五十一」「五十二」「五十三」「五十四」「五十五」「五十六」「五十七」「五十八」「五十九」「六十」「六十一」「六十二」「六十三」「六十四」「六十五」「六十六」「六十七」「六十八」「六十九」「七十」「七十一」「七十二」「七十三」「七十四」「七十五」「七十六」「七十七」「七十八」「七十九」「八十」「八十一」「八十二」「八十三」「八十四」「八十五」「八十六」「八十七」「八十八」「八十九」「九十」「九十一」「九十二」「九十三」「九十四」「九十五」「九十六」「九十七」「九十八」「九十九」「百」ニ依リ視力「一」〇ニ矯正シ得ルモノハ「二」第十一號中「鼓室」ヲ「中耳及内耳」ニ、第十二號中「鼻茸、鼻粘膜」ヲ「高度ノ鼻茸、高度ノ鼻粘膜」ニ、第十三號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第十四號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第十五號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第十六號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第十七號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第十八號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第十九號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第二十號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第二十一號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第二十二號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第二十三號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第二十四號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第二十五號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第二十六號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第二十七號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第二十八號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第二十九號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第三十號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第三十一號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第三十二號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第三十三號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第三十四號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第三十五號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第三十六號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第三十七號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第三十八號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第三十九號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第四十號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第四十一號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第四十二號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第四十三號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第四十四號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第四十五號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第四十六號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第四十七號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第四十八號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第四十九號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第五十號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第五十一號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第五十二號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第五十三號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第五十四號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第五十五號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第五十六號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第五十七號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第五十八號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第五十九號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第六十號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第六十一號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第六十二號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第六十三號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第六十四號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第六十五號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第六十六號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第六十七號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第六十八號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第六十九號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第七十號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第七十一號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第七十二號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第七十三號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第七十四號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第七十五號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第七十六號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第七十七號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第七十八號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第七十九號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第八十號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第八十一號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第八十二號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第八十三號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第八十四號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第八十五號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第八十六號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第八十七號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第八十八號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第八十九號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第九十號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第九十一號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第九十二號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第九十三號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第九十四號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第九十五號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第九十六號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第九十七號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第九十八號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、第九十九號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、百號中「大齒」ニ在テハ「三齒以上」ニ、

第三條 第二項ヲ左ノ如ク改ム
前條ニ掲ケルモノノ内輕症ニシテ風土氣候ニ關セズ海軍軍人ノ服役ニ堪フル見込アルモノハ傷
減疾病畸形等ノ程度及高等武官、各候補生、學生、生徒共ノ他兵種ノ職務ヲ參酌シテ合格ト爲スコ
トアルヘシ

明治四十三年十二月 省令 海軍省第十四號

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

海軍省令第一號海軍出身志願者身體検査特例(明治三十五年一月十三日)抄録

第一條 海軍出身志願者身體検査ニ於テ合格トス(キモノ左ノ如シ)

一 甲種 身體強健精神異常ナク全身ノ發育對稱完全ニシテ海軍軍人ノ服役ニ適スルモノ

一 乙種 甲種ニ亞クモ

第三條第一項

前條ニ掲クルモノ、内體症ニシテ風土氣候ニ關セス海軍軍人ノ服役ニ堪ユル見込アルモノハ合格トナスコトアルヘシ

第四條 高等武官、各候補生、學生、經理學校生徒志願ノモノニ在テハ第二條第六號以下ノ諸狀況アルモ其ノ程度ノモノハ暇務ヲ兼耐シテ合格ト爲スコトアルヘシ

○文部省令第三十三號

上田蠶絲專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究生及選科生ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治四十三年十二月十四日

文部大臣 小松原英太郎

上田蠶絲專門學校規程

第一條 上田蠶絲專門學校ノ修業年限ハ三箇年トス

第二條 上田蠶絲專門學校ノ學科ハ養蠶科及製絲科トス

第三條 上田蠶絲專門學校各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ必要ノ場合ニ於テハ教授定時間外又ハ休業期間ニ於テ臨時講演ヲ聽カシメ又ハ實習ヲ課スルコトアルヘシ

養蠶科

講義ノ部(每週教授時數)

學科	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	二	二	二	二	二	二	二	二	二
算術及測量									
動物學									
植物學									
物理學									
化學									
生理化學									
法制及經濟									
農蠶業經濟									
土壤學及肥料學									
昆蟲學 <small>(蠶、桑、蛾、蝶、蜂、蚊、蠅、蜘蛛、甲蟲、魚、鳥、獸、植物、生理、解剖、衛生、衛生學、衛生學)</small>									
微生物學									
農學大意									
蠶業汎論									
養蠶學 <small>(野蠶、家蠶)</small>									

科目	第一年			第二年			第三年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
蠶種學									
桑樹栽培									
蠶體生理論及蠶體解剖論			二						
蠶體病理論及消毒論									
蠶維論									
製絲法、殺蛹、乾繭及貯藏論			二						
國語	三								
外國語	三	四							
體操	二	二	四	二	三				
計	一六	三〇	三〇	一五	三〇	三〇	三〇	一三	一六

備考 每週教授時數ハ實習ノ禁閉ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ但シ修身ノ每週教授時數ハ之ヲ減スルコトヲ得ス

實習ノ部

科目	第一年			第二年			第三年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
蠶兒飼育	無定時			同	上		同	上	
顕微鏡使用法	無定時			同	上		同	上	
蠶體解剖及病理			無定時	同	上		同	上	
製絲、殺蛹、乾繭、貯藏	無定時			同	上		同	上	
蠶種調査	無定時			同	上		同	上	

科目	第一年			第二年			第三年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
繭並生絲密查	無定時			同	上		同	上	
桑樹栽培	無定時	同	上	同	上		同	上	
消毒法	無定時			同	上		同	上	
野蠶飼育				無定時			同	上	
動植物實驗		無定時		同	上		同	上	
化學及物理實驗		無定時	同	同	上		同	上	
器具製造	無定時	同	上	同	上		同	上	
卒業論文				同	上		無定時		同

備考 蠶兒飼育ノ實習ハ第一學年ハ春夏、第二學年ハ春夏及秋、第三學年ハ春夏、夏及秋置トス

講義ノ部(每週教授時數)

科目	第一年			第二年			第三年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一
數學	四	四	四						
物理學		三			二				
應用力學			三		二				
化學		二			三				
機械工學大意		二			二				
製絲機械論			二		二				二

科目	第一學期			第二學期			第三學期			計
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
法制及經濟概論			二			二			二	二
製絲業經濟										
工場管理及衛生										
商學大要										
蠶業汎論										
蠶桑論			二			三			三	二
殺菌乾燥貯藏						三			三	二
製絲學						二			二	二
纖維學						二			二	二
撚絲及紡績						二			二	二
色染						三			三	二
機織						二			二	二
圖畫(主トシテ機械製圖)			二			二			二	二
外國語			三			四			二	二
體操			二			二			二	二
計	一六	二九	三〇	二二	三〇	二八	一四	一三	二二	二二

備考 毎週教授時數ハ實習ノ期間ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ但シ修身ノ毎週教授時數ハ之ヲ減スルコトアルヘシ

實習ノ部

科目	第一學期			第二學期			第三學期		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
顯微鏡使用	無定時								
繭及生絲審查	無定時	上							
殺菌乾燥貯藏	無定時	上							
化學實驗			無定時						
附水質検査			無定時						
製絲	無定時	上							
撚絲			同						
紡績			同						
束裝及荷造	無定時	上							
色染			同						
機織			無定時						
屑物整理	無定時	上							
製繭			同						
蠶兒飼育	無定時	上							
物理實驗			同						
工場管理		無定時							
計									

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
機械工學					六	
電氣工學					六	
機械及電氣工學 實驗						
工場建築						
工業法令						
經濟傳記						
工場衛生預防						
製圖	六	六	九	九	九	二
體操	二	二	二	二	二	二
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九

冶金學科

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
修身	一	一	一	一	一	一
英語	四	四	二	二	二	二
數學	五	四				
物理學	四	五				
同實驗	三	三				

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
化學						
分析	六	六	六	九	九	二
吹管分析						
礦物學及地質學	四	四				
同實驗	一	一	三			
採礦學大意			二	二		
冶金學製造冶金			四	二		
同實驗			四	二	六	六
振盪學					一〇	一〇
試金術			二	二		
同實驗			四	二		
土木工學大意			四	二		
機械工學			六	六		
電氣工學			六	六		
機械及電氣工學 實驗					三	三
工場建築					一	一
工業法令					二	二

經濟傳記	工場衛生預防	急務	製	體操	計
			六	二	三九
			六	二	三九
			六	二	三九
			三	二	三九
			三	二	三九
			三	二	三九
			六	二	三九
			六	二	三九
			四	二	三九
			二	二	三九

實習又ハ實驗等ノ爲必要アルトキハ修身ヲ除ク外學校長ニ於テ臨時前項ノ每週教授時數ヲ増減スルコトヲ得

第四條 卒業者ニシテ既修ノ學科目ニ就キ研究セントスル者ハ研究生トシテ二箇年以内在學セシムルコトヲ得

第五條 各學科ノ中ニ就キ特修センコトヲ願出ツル者アルトキハ詮議ノ上選科生トシテ入學ヲ許可スルコトヲ得

○文部省令第三十五號

東北帝國大學理科大學ハ明治四十四年一月一日ヨリ開設ス

明治四十三年十二月二十三日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省令第三十六號

九州帝國大學工科大學ハ明治四十四年一月一日ヨリ開設ス

明治四十三年十二月二十三日

文部大臣 小松原英太郎

○農商務省令第二十六號

家畜市場法施行規則左ノ通相定ム

明治四十三年十二月一日

家畜市場法施行規則

農商務大臣 男爵大浦兼武
陸軍大臣 子爵寺內正毅

第一條 家畜市場ヲ分テ常設家畜市場、定期家畜市場及臨時家畜市場トス

常設家畜市場トハ毎年百日以上開催スルモノヲ謂ヒ定期家畜市場トハ毎年定期ニ開催シ其ノ開催日數百日ニ達セサルモノヲ謂ヒ臨時家畜市場トハ常設家畜市場及定期家畜市場ニ該當セサルモノヲ謂フ

第二條 常設家畜市場又ハ定期家畜市場ヲ開設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ニ家畜市場開設者ノ履歷書、用地ノ面積、建物ノ名稱、構造設備、坪數ヲ記入シタル圖面及市場附近ノ見取圖ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

一 家畜市場ノ名稱及位置

二 入場家畜見込頭數

三 資本金額及收支計算

四 開設期間

家畜市場開設者カ法人ナルトキハ前項書類ノ外尙其ノ定款及事業報告書ヲ差出スヘシ

第三條 臨時家畜市場ヲ開設セムトスル者ハ前條第一項第一號、第二號及第四號ヲ記載シタル願書ニ家畜市場開設者ノ履歷書及市場附近ノ見取圖ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第四條 市場業務規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 事務所ノ位置

二 家畜ノ種類

三 開場ノ日時

四 市場ニ於テ徵收スル料金及其ノ種類並徵收方法

五 仲立業者ノ手数料

六 取引ノ方法手續

七 違約者處分ノ方法

八 其ノ他業務執行上必要ナル事項

第五條 家畜市場ノ名稱中ニハ其ノ種別ヲ示スヘキ文字ヲ用フヘシ

第六條 家畜市場ニ非スシテ其ノ名稱中ニ家畜市場タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第七條 家畜市場開設者市場管理者ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ届出ヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第八條 家畜市場開設者ハ、臺帳ヲ調製シ入場シタル家畜ヲ一頭毎ニ其ノ種類産地飼養地性毛色高サ(羊豚ニ在リテハ重量)年齢及用途ヲ記入スヘシ賣買交換シタル家畜ニ在リテハ尙賣買若ハ交換當事者ノ氏名又ハ名稱及住所並其ノ家畜ノ價額ヲ記入スヘシ

第九條 常設家畜市場ニ於テ賣買交換シタル家畜及其ノ代金ハ市場業務規程ノ定メタル日ニ於テ家畜市場開設者ヲ經テ之ヲ授受スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ家畜市場開設者ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 前項但書ノ場合ニ於テ賣買若ハ交換當事者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ家畜市場開設者其ノ責任スヘシ

第十一條 家畜市場ニ於テハ獸醫ヲシテ市場若ハ其ノ附屬地ニ準入ルル家畜ノ健康検査ヲ行ハシム

第十二條 常設家畜市場ニ於テハ家畜ノ衛生事務ニ従事セシムル爲獸醫ヲ置クヘシ

第十條 家畜市場法第七條第一項但書ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ定メタル行政廳ニ願出ヘシ

第十一條 家畜市場法第八條ノ規定ニ依ル常設家畜市場ノ區域内ニ於テ開設スルコトヲ得ル市場左ノ如シ

一 品評會共進會博覽會又ハ競馬會ノ開設スル臨時家畜市場

二 産牛馬組合法又ハ産業組合法ニ依リ設置シタル組合ノ家畜市場

三 家畜市場法施行前ニ開設ノ許可若ハ認可ヲ得タル家畜市場

第十二條 家畜市場及其ノ附屬建築物ノ位置ハ公衆及家畜衛生上妨ケナキ場所ナルコトヲ要ス

第十三條 常設家畜市場ニ於テハ検査所賣場繋場畜舎隔離所及汚物溜ヲ設ケ其ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

一 検査所ハ家畜ノ健康検査及治療ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

二 賣場ハ屋根ヲ設ケ石材煉瓦厚板又ハ不滲透質ノ材料(コンクリート、アスファルト、漆喰、瀝青等)ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ但シ繋場若ハ畜舎ニ於テ賣買交換スル場合ハ賣場ヲ設ケサルコトヲ得

三 繋場ハ石材煉瓦厚板又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ汚水溝ヲ設クヘシ

四 畜舎及隔離所ハ石材煉瓦厚板又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ其ノ内壁ハ石材煉瓦金屬板其ノ他不滲透質ノ材料若ハ厚板ヲ以テ四尺以上ノ腰張ヲ爲シ適當ノ窓ヲ設ケ欄房ノ前後ニ各三尺以上ノ通路ヲ附シ欄房ハ牛馬一頭毎ニ攪動羊豚ハ適宜ニ之ヲ區劃シ尿溜ヲ設クヘシ但シ家畜ヲ宿泊セシメサル市場ニ於テハ畜舎ヲ設ケサルコトヲ得

五 汚物溜及尿溜ハ不渗透質ノ材料ヲ以テ造リ覆蓋ヲ設ケ雨水ノ侵入ヲ防クヘシ
定期家畜市場及臨時家畜市場並其ノ附屬建設物ノ構造設備ハ土地ノ狀況ニ依リ前項各號ノ規定
ヲ斟酌シ地方長官之ヲ定ム

第十三條 家畜市場ノ仲立業者タルムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ家畜市場ノ仲立業者タルコトヲ得ス
一 未成年者

二 一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後滿三箇年ヲ經サル者但シ特ニ改
俊ノ狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

三 家畜市場法本則又ハ牛馬商取締規則ノ規定ニ違背シテ處罰ヲ受ケ其ノ情狀重キ者

四 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサ
ル者

五 三箇年以上畜産業又ハ牛馬商ニ從事シタル經驗ナキ者

六 業行不貞ニシテ公益ヲ害スル虞アル者

第十四條 仲立業者ハ家畜市場開設者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ市場ニ於テ仲立スルコトヲ得
ス

第十五條 仲立業者ハ其ノ業務ヲ行フ家畜市場ニ於テハ自己ノ計算ヲ以テ家畜ヲ賣買交換スルコ
トヲ得ス

第十六條 家畜市場ニ於テハ市場ノ名稱、家畜市場開設者及市場管理者ノ氏名ヲ榜示シ市場業務
規程ヲ場内ニ備付ケ且其ノ摘要ヲ場内ニ揭示スヘシ

第十七條 常設家畜市場開設者ハ其ノ市場ニ於テ賣買交換セル家畜ノ頭數價額及其ノ平均、最高、
最低價格ヲ種類、牝牡幼壯別ニ分チ其ノ當日又ハ翌日場内ニ揭示スヘシ

第十八條 地方長官ハ家畜市場ノ開設ヲ許可シタルトキハ其ノ許可年月日、許可期間、市場ノ名稱
及位置、開設者ノ氏名ヲ記載シタル書面ニ市場業務規程ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

市場業務規程ノ變更ヲ認可シタルトキ亦前項ニ同シ
地方長官家畜市場法第十六條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ都度之ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

第十九條 第六條ノ届出ヲ爲ササル者ハ科料ニ處ス

第二十條 第七條、第八條第一項、第九條、第十四條、第十五條、第十六條又ハ第十七條ニ違背シタル
者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條第一項ニ依リ認可ヲ受ケシテ家畜市場ノ仲立業者タル者又ハ第十七條ニ掲グル
事項ニ付虚偽ノ揭示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

附則

本則ハ家畜市場法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第二十七號

牛馬商取締規則左ノ通相定ム

明治四十三年十二月一日

農商務大臣 男爵大浦兼武
陸軍大臣 子爵寺內正毅

牛馬商取締規則

第一條 牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ノ營業ヲ爲サトスル者ハ住所所在地ノ地方長官ニ願
出テ牛馬商ノ免許ヲ受クヘシ

地方長官前項ノ免許ヲ與ヘタルトキハ別記雛形ノ免許鑑札ヲ下付スヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ牛馬商ノ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一 一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後滿三箇年ヲ經サル者但シ特ニ改

一 免許ヲ取消サレタル後滿一箇年ヲ經サル者
 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
 三 家畜市場法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違背シテ處罰ヲ受ケタル後滿一箇年ヲ經サル者
 四 素行不良ニシテ公益ヲ害スル虞アル者
 五 一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレタルトキ
 六 一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレタルトキ
 七 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 八 家畜市場法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違背シ處罰ヲ受ケタルトキ
 九 牛馬商ハ免許鑑札ヲ携帶スヘシ
 十 牛馬商ハ産牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合ノ定款ノ規定ニ依リ組合市場ニ附スヘキ義務ノ履行ヲ終ラサル組合員ノ體又ハ駒ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲スコトヲ得ス但シ組合ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
 十一 牛馬商ハ免許鑑札ヲ携帶シテ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲レタル年月日、牛馬ノ別種類産地、性年齢、毛色、代價及賣買若ハ交換當事者ノ住所氏名ヲ記入スヘシ
 十二 牛馬商ハ免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ住所、族籍、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其ノ再渡又ハ書換ヲ地方長官ニ願出ヘシ
 十三 牛馬商ハ住所ヲ他ノ道府縣内ニ移轉シタルトキハ當初免許ヲ受ケタル地方長官ニ之ヲ届出テ且住所所在地ノ地方長官ニ免許鑑札ノ書換ヲ願出ヘシ

第八條 牛馬商ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ牛馬商ノ免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得
 一 牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ強請シタルトキ
 二 牛又ハ馬ノ種類産地、血統若ハ年齢ヲ偽リ又ハ疾病惡癖ヲ隠蔽シテ之カ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲シタルトキ
 三 獸疫ノ疑アリ若ハ所有者ノ分明ナラサル牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲シタルトキ
 四 其ノ他營業上不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ
 第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ牛馬商ハ遲滞ナク免許鑑札ヲ返納スヘシ
 一 第三條ノ規定ニ依リ免許ノ效力ヲ失ヒタルトキ
 二 免許ヲ取消サレタルトキ
 三 廢業シタルトキ
 第十條 牛馬商ニシテ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ免許鑑札ヲ返納スヘシ
 第十一條 詐偽ノ所爲ヲ以テ免許ヲ受ケ又ハ免許ヲ受ケスシテ牛馬商ヲ營ミタル者若ハ第八條第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十二條 第四條、第五條、第六條、第七條又ハ第九條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス
 附則
 本則ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス
 牛馬商ニシテ本則施行前地方長官ノ免許ヲ得タル者ハ本則ニ依リ免許セラレタルモノト看做ス
 (別記雛形) 木製

表
分三寸二

第 號	住所 族籍	氏 名
年 月 日	生年月日	
牛馬商免許證札		
裏		
印 格 廳 府 縣		

○逓信省令第百一十一號

明治四十三年三月逓信省令第十一號清韓郵便規則中左ノ通改正ス
本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年十二月二十日

逓信大臣 男爵後藤新平

- 題名ヲ「日清郵便規則」ニ改ム
- 第一條第十六條及第十九條中「韓國」ヲ削ル
- 第一條第二條及第十六條中「清韓」ヲ「日清」ニ改ム
- 第三條中「韓國」ヲ「朝鮮」ニ改ム
- 第七條 削除
- 第九條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ
- 一 帝國及在清國帝國郵便官署區内又ハ關東都督府管内間
二百匁迄 四百匁迄 六百匁迄 八百匁迄 一貫匁迄
一匁二匁 一匁四匁 一匁六匁

三十錢	四十錢	四十五錢	五十錢	五十五錢	六十錢	六十五錢	七十錢
二 在清國帝國郵便官署區内及關東州租借地間							
二百匁迄	四百匁迄	六百匁迄	八百匁迄	一貫匁迄	一匁二匁	一匁四匁	一匁六匁
三 在清國帝國郵便官署區内及關東都督府管内(關東州租借地ヲ除ク)間並に在清國帝國郵便官署區内相互間							
百二十匁迄	二百四十匁迄	四百八十匁迄	七百二十匁迄	一貫三百二十匁迄	一貫六百匁迄	一貫六百匁迄	一貫六百匁迄
十五錢	二十錢	三十錢	四十錢	五十錢	八十錢	八十錢	八十錢
四 在清國帝國郵便官署區内							
四百八十匁迄	二百四十匁迄	二百四十匁迄	二百四十匁迄	二百四十匁迄	二百四十匁迄	二百四十匁迄	二百四十匁迄
在清國帝國郵便官署區内ト雖當該官署所在地ト之ニ鄰接セサル地トノ間ニ發著スル小包郵便物ニ付テハ前項第三號ノ料金ヲ徵收ス							
第十六條中「及第七條」ヲ削ル							
第十八條 郵便物ノ取戻若ハ名宛變更代金引換ノ取消若ハ金額變更又ハ現金取立ノ取消ノ電信ニ依ル請求ニ關スル料金ハ左ノ如シ							
郵 便 物 ノ 發 著 區 間							
帝國(朝鮮)ト關東都督府管内又ハ芝罘、牛莊、天津及北京ノ各郵便局(附屬)區内トノ間	朝鮮ト關東都督府管内トノ間	朝鮮又ハ關東都督府管内トノ間	芝罘、牛莊、天津及北京ノ各郵便局(附屬)區内トノ間	芝罘、牛莊、天津及北京ノ各郵便局(附屬)區内トノ間	芝罘、牛莊、天津及北京ノ各郵便局(附屬)區内トノ間	芝罘、牛莊、天津及北京ノ各郵便局(附屬)區内トノ間	芝罘、牛莊、天津及北京ノ各郵便局(附屬)區内トノ間
四	五	五	十	十	十	十	十
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
郵便物ノ取戻又ハ代金引換ノ取消若ハ現金取立ノ取消ノ金額變更ノ代金引換ノ金額變更							
四	十	十	十	十	十	十	十
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
備 考							
牛莊、天津及北京ノ各郵便局(附屬)區内トノ間ハ郵便物ニ依リ發著ス							
芝罘、牛莊、天津及北京ノ各郵便局(附屬)區内トノ間ハ郵便物ニ依リ發著ス							

明治四十三年十二月省令 逓信省第百一十一號

帝國又ハ關東都督府管内ト在清國帝國郵便官署(芝罘)及牛莊(各埠)區内トノ間及在清國帝國郵便官署區内相互間(芝罘及牛莊ノ各埠)ノ間

郵便物ノ名宛地宛歐
文私報ニ要スル料金
郵便物ノ名宛地宛歐
文私報ニ要スル料金
實費額

第二十二條中又ハ韓國ヲ削ル
第二十三條中若ハ韓國ヲ削ル

〔參照〕

遞信省令第十一號清韓郵便規則(明治四十三年三月二十八日)抄錄

第七條 小包郵便物ハ重量一貫五百匁ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

- 一 帝國、韓國及在清國帝國郵便官署區内又ハ關東都督府管内ノ相互間
 - 二百匁迄 四百匁迄 六百匁迄 九百匁迄 一貫二百匁迄 一貫五百匁迄
 - 三百匁 三十五錢 四十錢 五十錢 六十錢 七十錢
- 二 在清國帝國郵便官署區内及關東都督府管内ノ相互間
 - 二百匁迄 四百匁迄 六百匁迄 九百匁迄 一貫二百匁迄 一貫五百匁迄
 - 三十錢 三十五錢 四十錢 五十錢 六十錢 七十錢
- 三 在清國帝國郵便官署區内及關東都督府管内(朝鮮半島)ノ相互間
 - 二百匁迄 四百匁迄 六百匁迄 九百匁迄 一貫二百匁迄 一貫五百匁迄
 - 二十錢 二十五錢 三十錢 四十錢 五十錢 六十錢
- 四 在清國帝國郵便官署區内
 - 二百匁迄 四百匁迄 六百匁迄 九百匁迄 一貫二百匁迄 一貫五百匁迄
 - 十五錢 二十錢 三十錢 四十錢 五十錢 六十錢
- 五 在清國帝國郵便官署區内ト關東都督府管内(朝鮮半島)ノ相互間
 - 二百匁迄 四百匁迄 六百匁迄 九百匁迄 一貫二百匁迄 一貫五百匁迄
 - 十錢 十五錢 二十錢 三十錢 四十錢 五十錢

在清國帝國郵便官署區内ト雖當該官署所在地トニ郵接セサル地トノ間ニ發着スル小包郵便物ニ付テハ前項第三號ノ料金ヲ徵收ス

第十六條 內國郵便物、外國郵便物又ハ清韓郵便物ハ第二條乃至第四條及第七條ニ定ムル條件ヲ具備スルモノニ限リ帝國、韓國、關東州租借地及在清國帝國郵便官署區内又ハ關東都督府管内(朝鮮半島)ノ相互間ニ轉送又ハ還付スルコトヲ得但シ內國普通小包郵便物ハ轉送又ハ還付セズ

第十八條 郵便物ノ取戻若ハ名宛變更、代金引換ノ取消若ハ金額變更又ハ現金取立ノ取消ノ電信ニ依ル請求ニ關スル料金ハ左ノ如シ

郵便物ノ取戻又ハ代金引換若ハ現金取立ノ取消	郵便物ノ名宛地宛歐又ハ代金引換ノ金額變更	郵便物ノ名宛地宛歐又ハ代金引換ノ金額變更
一圓五十錢	二圓七十錢	九錢
五錢	十錢	十錢

牛莊ト天津及北京ノ各郵便局(各埠)區内トノ間ハ郵便ニ依リ接続ス
牛莊ト天津及北京ノ各郵便局(各埠)區内トノ間ハ郵便ニ依リ接続ス

遞信省令第百一十二號

內地臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ發着スル郵便物ニ關シテハ明治四十三年三月遞信省令第十一號日清郵便規則中帝國(朝鮮)及關東都督府管内(關東州租借地)ノ間發着ノ郵便物ニ關スル規定ヲ準用ス
明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

遞信省令第百一十三號

電話規則中左ノ通改正ス
本令ハ明治四十三年十二月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年十二月二十一日

第十一條ノ二 電話ヲ開通シタルトキハ當該電話取扱局ニ於テ一加入毎ニ一箇ノ電話番號ヲ定ム但シ共同線加入ノ電話番號ハ工事上ノ必要アル場合ヲ除クノ外其ノ相手方ト又連接加入ノ電話

番號ハ本加入ト同一番號ヲ附ス

〔參照〕

逓信省令第二十五號電話規則(明治三十九年六月四日)抄錄
第十一條ノ二、電話ヲ開通シタルトキハ該電話取扱局ニ於テ一加入毎ニ一箇ノ電話番號ヲ定ム、共同線加入ノ電話番號ハ其ノ相手方ト又連接加入ノ電話番號ハ本加入ト同一番號ヲ附ス

○逓信省令第百十四號

明治四十三年九月逓信省令第八十三號中「丹波丸郵便局」ノ次ニ「亞米利加丸郵便局」ヲ加フ
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年十二月二十三日

逓信大臣 男爵後藤新平

〔參照〕

明治四十三年九月逓信省令第八十三號ハ本邦通貨ノ外北米合衆國通貨ヲ以テ郵便切手類ノ賣捌ヲ爲ス郵便局名ナリ
○逓信省令第百十五號

明治三十二年六月逓信省令第二十六號中「茨城縣那珂郡湊町長、青森縣三戸郡湊村長及岡山縣淺口郡玉島町長」ヲ削除シ左ノ通追加ス

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年十二月二十六日

逓信大臣 男爵後藤新平

- 長崎縣 北松浦郡山口村長
- 鳥取縣 氣高郡賀路村長
- 山口縣 吉敷郡井關村長
- 和歌山縣 西牟婁郡串本町長

〔參照〕

明治三十二年六月 逓信省令第二十六號ハ船員法ニ依リ管海官廳ノ事務ヲ行ハシムヘキ市町村長及之ニ準スヘキ者指定ノ件ナリ

○逓信省令第百十六號

電氣計器試驗規則左ノ通り定ム

明治四十三年十二月二十七日

逓信大臣 男爵後藤新平

電氣計器試驗規則

第一條 電氣測定法附則第四項ノ電氣計器ノ試驗ハ本令ニ依リ之ヲ行フ

第二條 前條ノ試驗ヲ受ケムトスル者ハ其ノ電氣計器ノ型式ニ付豫メ試驗ヲ受ケ承認ヲ經ルコトヲ要ス但シ逓信大臣ノ既ニ承認セル型式ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 電氣計器ノ試驗ヲ受ケムトスルモノハ第一號又ハ第二號書式ニ依ル申請書ニ電氣計器ヲ添ヘ之ヲ電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ但シ型式ノ試驗ヲ受ケムトスルモノハ同種ノ計器五箇

並其ノ説明書及構造明細圖ヲ提出スヘシ

第四條 前條ノ電氣計器ニハ其ノ外函其ノ他適當ノ箇所ニ製造者名、製造番號、電流ノ種類、電氣方式、電壓及容量(又ハ電流)並交流ノ場合ニ在リテハ周波數ヲ表示スヘシ

第五條 第一條ノ試驗ノ爲提出スル電氣計器ハ鉛ヲ以テ封印シ得ル構造ヲ有スル外函ヲ具備シ且封印ヲ剝離セシテ電路ニ接續シ得ル機裝置シタルモノタルヘシ

第六條 第一條ノ試驗ニ於テ電氣計器ノ公差ハ百分ノ四ヲ限度トス

第七條 第一條ノ試驗ニ合格セル電氣計器ニハ封印ヲ爲シ其ノ申請者ニ合格證明書ヲ交付ス

第八條 前條ノ試驗合格ノ有効期間ハ證明書發行ノ日ヨリ五年トス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ期間内ト雖試驗合格ハ其ノ效力ヲ失フ

一 封印ヲ失ヒ又ハ毀損シタルトキ

二 公差ノ限度ヲ超過シタルトキ

第十條 合格證明書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ其ノ複本ノ下付ヲ申請スルコトヲ得

第十一條 電氣計器ノ試驗手数料及試驗合格證明書ノ複本作製手数料ハ左ノ區別ニ依リ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

一 電氣計器ノ試驗手数料

基本手数料 計器一箇ニ付

金三圓

計器ノ最大電流ニ依リ一箇ニ付左ノ手数料ヲ附加ス

五「アムペア」未滿

金一圓

五「アムペア」以上

金一圓五十錢

十「アムペア」未滿

金二圓

十「アムペア」以上

金三圓

二十「アムペア」未滿

金四圓

二十「アムペア」以上

金五圓

五十「アムペア」未滿

金七十五圓

五十「アムペア」以上

金二十五圓

百「アムペア」未滿

金七十五圓

百「アムペア」以上

金二十五圓

附則
本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第一號書式

電氣計器試驗申請書

収入印紙

金何圓何十錢

貼付シタル収入印紙ノ額
一 計器ノ型 電氣計器ノ種類ニ依リ
二 計器ノ種類 電氣計器ノ種類ニ依リ
三 計器ノ定數 電氣計器ノ定數ニ依リ
四 計器ノ製造者名 電氣計器ノ製造者名ニ依リ
五 計器ノ製造番號 電氣計器ノ製造番號ニ依リ
六 計器ノ番號 電氣計器ノ番號ニ依リ
右試驗申請候也

年月日

住所

氏名印(或ハ會社名)

逓信大臣宛

第二號書式

電氣計器型式試驗申請書

収入印紙

金何圓何十錢

貼付シタル収入印紙ノ額
一 計器ノ型 電氣計器ノ種類ニ依リ
二 計器ノ種類 電氣計器ノ種類ニ依リ
三 計器ノ定數 電氣計器ノ定數ニ依リ
四 計器ノ製造者名 電氣計器ノ製造者名ニ依リ

五、計器ノ製造番號
六、計器ノ箇數
右試驗申請候也

年月日
住所
氏名印(或ハ會社名)
逓信大臣宛

○逓信省令第百十七號

電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法並同法第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位左ノ通定ム

明治四十三年十二月二十七日

逓信大臣 男爵後藤新平

第一條 電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱左ノ如シ

- 「メグオーム」 「オーム」ノ百萬倍
- 「マイクロオーム」 「オーム」ノ百萬分ノ一
- 「キロアムペア」 「アムペア」ノ千倍
- 「ミリアムペア」 「アムペア」ノ千分ノ一
- 「マイクロアムペア」 「アムペア」ノ百萬分ノ一
- 「キロヴォルト」 「ヴォルト」ノ千倍
- 「ミリヴォルト」 「ヴォルト」ノ千分ノ一
- 「マイクロヴォルト」 「ヴォルト」ノ百萬分ノ一
- 「ワット」ノ千倍
- 「マイクロワット」 「ワット」ノ百萬分ノ一
- 「マイクログラード」 「グラード」ノ百萬分ノ一
- 「ミリヘンリー」 「ヘンリー」ノ千分ノ一

「マイクロヘンリー」 「ヘンリー」ノ百萬分ノ一
「ワット時」 「ワット時」ノ千倍

第二條 不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法左ノ如シ

- 一 不變電流以外ノ場合ニ於ケル實効電流ノ不變電流ニ對スル等價ハ其ノ瞬時値ノ自乗ノ平均ノ平方根ヲ以テ定ム
- 二 不變電流「アムペア」ニ相當スル實効電流ヲ「實効「アムペア」ト稱シ、不變電壓「ヴォルト」ニ相當スル實効電壓ヲ「實効「ヴォルト」ト稱ス
- 三 電力ハ其ノ瞬時値ノ平均ヲ以テ定ム

第三條 電氣測定法第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位左ノ如シ

- 一 電量ハ「クーロム」ヲ以テ單位トス
「クーロム」ハ「アムペア」ノ電流ニ依リ一秒間ニ輸送サルル電量ヲ謂フ
- 二 電氣容量ハ「ファラッド」ヲ以テ單位トス
「ファラッド」ハ「クーロム」ノ電量ニ依リ「ヴォルト」ノ電位ニ充電サルル蓄電器ノ電氣容量ヲ謂フ
- 三 電氣仕事ハ「ジュール」ヲ以テ單位トス
「ジュール」ハ「アムペア」ノ電流「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ヲ通過スルトキ一秒間ニ爲ス仕事ヲ謂フ
- 四 電氣誘導ハ「ヘンリー」ヲ以テ單位トス
「ヘンリー」ハ每秒「アムペア」ノ割合ヲ以テ變化スル電流ニヨリ「ヴォルト」ノ電壓ヲ發生スル電路ノ電氣誘導ヲ謂フ

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

法令全書

府令

○統監府令第一號(官報一月十八日)

明治三十九年統監府令第二十三號統監府及所屬官署職員ノ襟章中左ノ通改正ス

明治四十三年一月八日

統監 子爵曾禰荒助

統監府裁判所ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

統監府監獄

典獄

看守長 通譯生

葉深茶色花銀色ノ桐章トス餘ハ同上

襟章圖中

統監府職員

理事廳職員

統監府裁判所職員

ヲ

統監府職員

理事廳職員

統監府司法廳職員

統監府監獄職員

ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第一號(官報一月三十一日)

明治四十二年九月勅令第二百十七號ハ明治四十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年一月十八日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

〔参照〕

明治四十二年九月勅令第二百十七號ハ臺灣街庄社ニ區長及區書記ヲ置クノ件ナリ

○臺灣總督府令第二號(官報一月三十一日)

明治四十二年十月律令第五號ハ明治四十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年一月十八日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

明治四十三年一月 府令 統監府第一號 臺灣總督府第一號 第二號

〔參照〕

明治四十二年十月廿八日 律令第五號ハ保甲條例中改正ナリ

○臺灣總督府令第三號(官報一月三十一日)

地方法院及其ノ出張所管内登記所管轄區域ニ指定シタル各支廳ノ管轄區域ニ變更アリタルトキハ登記所管轄區域ハ各其ノ變更ノ區域ニ依ル

附則

本令ハ明治四十二年十月府令第七十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年一月二十一日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

〔參照〕

明治四十二年十月二十五日 臺灣總督府令第七十八號ハ地方法院及出張所管内登記所名稱位置管轄區域ナリ

○臺灣總督府令第四號(官報二月一日)

明治三十七年五月府令第五十號銃砲火藥取締規則施行細則中左ノ通改正ス

明治四十三年一月二十二日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第十七條 銃砲製造業者 銃砲商及火藥商ノ定員ハ臺北廳管内七名臺南廳 嘉義廳管内各四名阿緬廳管内三名臺中廳新竹廳管内各二名其ノ他ノ廳管内ハ各一名トス
前項各營業者ノ營業所ハ一箇所ニ限ル

〔參照〕

臺灣總督府令第五十號銃砲火藥取締規則施行細則(明治三十七年五月二十七日抄録)

第十七條 銃砲製造業者 銃砲商及火藥商ノ定員ハ各廳管内各一人トス但シ臺北廳基隆廳 臺南廳管内ニ限リ特ニ三人迄増加スルコトヲ得

前項各營業者ノ營業所ハ一箇所ニ限ル

○臺灣總督府令第五號(官報二月八日)

明治三十三年二月府令第百二十號臺灣總督府鐵道部運輸規程中左ノ通改正ス

明治四十三年一月二十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第十九條第二項中「肢體ヲ車外ニ出スヘカラス」ヲ「昇降床ニ立出テ若ハ肢體ヲ車外ニ出スヘカラス」ニ改ム

〔參照〕

臺灣總督府令第百二十號臺灣總督府鐵道部運輸規程(明治三十三年一月二十九日抄録)

第十九條第二項

車外ニ出スヘカラス

二 端舟其ノ他權限ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ權限ヲ以テ運轉スル舟

第四條 第二條ニ依リ船舶原簿ノ登録及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請セムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ差出シ其ノ船舶ノ積量ノ測定ヲ受クヘシ

前條ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第二號書式ノ申請書ヲ差出スヘシ

第五條 船舶法、船舶法施行細則、船鑑札規則及登録稅法第四條ノ規定ハ之ヲ第一條ニ該當スル船舶ニ準用ス

第六條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登録ヲ爲サシメタル者ハ一年以下ノ徵役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂罪ノ例ニ依リ處斷ス

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ受有セスシテ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ航行シタルトキ

二 法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキ

前項ノ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ之ヲ適用ス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 法令ノ定ムル所ニ從ヒ船舶ノ名稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其ノ他ノ事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ

二 許可ヲ得スシテ船舶ノ名稱ヲ變更シタルトキ

三 修繕ノ爲メ船舶ノ積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムル場合ニ於テ改測ノ申請ヲ爲ササルトキ

四 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ之カ變更ノ登録ヲ爲ササルトキ

五 船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ毀

損シタル場合ニ於テ之カ書換ヲ申請セサルトキ

六 船舶國籍證書又ハ船鑑札カ滅失シタル場合ニ於テ之カ再交付ノ申請ヲ爲ササルトキ

七 抹消ノ登録ヲ爲シ船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ返還スヘキ場合ニ於テ其ノ義務ヲ怠リタルトキ

前項ノ規定ハ船舶管理人又ハ法人ノ代表者若ハ清算人ニ之ヲ適用ス

附 則

本則ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ニ該當スル船舶ニシテ本則施行ノ際現在セルモノノ所有者ハ本則施行ノ日ヨリ六箇月内ニ第二條又ハ第三條ノ申請ヲ爲スヘシ

(第一號書式)

積量測定申請書

一 船舶	何処
二 積量	總噸數何噸又ハ積石數何石
三 造船者	何処何某又ハ何會社
四 製造地	何処
五 建造ノ年月日	明治又ハ西曆何年何月何日
六 汽機製造者	何処何某又ハ何會社
七 汽機製造ノ年月日	明治又ハ西曆何年何月何日
八 汽機製造者	何処何某又ハ何會社
九 汽機製造ノ年月日	明治又ハ西曆何年何月何日
十 原名	何処
十一 所有者(共有ノ場合ハ其ノ持分)	何処何會社
十二 船舶管理人	何処何某
十三 測定ヲ受ケムトスル場所	某所

右者今般新造致シ(又ハ何國人何業ヨリ買受ケ等)貴管内ニ船籍港ヲ定メ候ニ付 積量測度相成度關係書類何通相添此段及申請候也

明治 年 月 日

住所

代表者 氏

名印

(理事廳名)

御中

備考

- 一 船名、船籍港、氏名及名稱ニハ擬假名ヲ附記シ外國ノ名稱ナルトキハ外國文字ヲ附記スヘシ
 - 二 原名ト稱スルハ國籍取得前ニ於ケル最近ノ船名ヲ謂フ
 - 三 前記件名中船舶ノ種類ニ依リ事項ナキモノハ之ヲ省略スヘシ
 - 四 關係書類トハ左ニ掲ケル書類ヲ謂フ
 - 製造ニ依リ船舶ヲ取得シタル場合又ハ製造後未タ積量ノ測度ヲ申請セサル船舶ヲ取得シタル場合ニ在リテハ造船者ニ於テ製造地、進水ノ年月日ヲ記スル書面及機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機、汽鍋、汽鐘ノ製造者ニ於テ汽機、汽鐘製造ノ年月日ヲ記スル書面
 - 前項以外ノ原因ニ依リ船舶ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ在リテハ前項ニ掲ケタル事項ノ外前項者、造船者、汽機及汽鐘ノ製造者此船舶ノ原名ヲ記スル書面
 - 船舶規則第二條但書ニ掲ケタル船舶ノ積量總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ト爲リタル場合ニ在リテハ現ニ受有スル船籍札ヲ申請書ニ添付スヘシ
- (第二號書式)
- 船籍札交付申請書
- 一 船舶(汽機船舶)別位(汽機)船名
 - 二 船籍港
 - 三 進水年月
 - 四 尺度(船體ノ最大ノ長、幅、深)
 - 五 測度ヲ受ケムトスル場所
 - 六 申請ノ事由(新造、外國船購入等)

右船舶ニ對シ船籍札交付相成度此段申請候也

明治 年 月 日

住所

代表者 氏

名印

(理事廳名)

御中

○統監府令第四號(官報三月十九日)

船舶検査規則左ノ通定ス

明治四十三年三月十二日

統監 子爵會禰荒助

船舶検査規則

- 第一條 日本船舶ニシテ韓國ノ沿岸ノミヲ航行シ又ハ韓國ヲ起點トシテ外國ニ航行スルモノハ左ニ掲ケルモノヲ除クノ外本則ニ依リ検査ヲ受クヘシ
 - 一 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書ヲ受有シ且其ノ航行期間滿了セサル船舶
 - 二 航行ノ用ニ供セサル船舶
 - 三 總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ帆船
 - 四 端舟其ノ他格權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ格權ヲ以テ運轉スル舟
 - 五 平水航路ノミヲ航行スル帆船
- 前項ニ於テ平水航路トハ河川、港内及別ニ指定セル區域内ノ航路ヲ謂フ
- 第二條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ初メテ航行ノ用ニ供セムトスルトキ、航行期間滿了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ船舶所有者又ハ船長ノ申請ニ依リ之ヲ行フ
- 政府ニ於テ検査ノ必要アリト認メタルトキハ前項ノ申請ヲ待タズシテ之ヲ行フ
- 第三條 船舶ノ検査ハ仁川、釜山及特ニ指定シタル開港ニ於テ其ノ地ヲ管轄スル理事廳之ヲ行フ

第四條 船舶所有者又は船長ハ相當ノ事由アル場合ニ限り前條ノ場所以外ニ於テ検査ヲ受クルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ船舶検査申請者ハ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スヘシ
 第五條 船舶検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ適當ナリト認メタルトキハ航路制限、旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ當該理事廳ヨリ船舶検査證書ヲ交付スヘシ
 航行期間内ト雖船舶検査官吏ニ於テ船舶カ航行ニ不適當ナリト認メタルトキ若ハ船舶検査證書ニ記載ノ事項ニ適合セスト認メタルトキハ當該理事廳ハ其ノ船舶検査證書ヲ返還セシメ若ハ其ノ記載事項ヲ變更スルコトヲ得
 第六條 船長ハ正當ノ理由アル場合ヲ除クノ外船舶検査證書ヲ受有スルニ非サレハ其ノ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ス
 第七條 船舶検査官吏検査ヲ終了シタルトキハ船舶検査手帖及安全鑰匙ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ
 船舶検査手帖及安全鑰匙ハ船長ニ於テ之ヲ船内ニ保管スヘシ
 船舶検査手帖ノ封緘ハ検査官吏ノ外之ヲ開クコトヲ得ス
 安全鑰匙ノ封緘ハ正當ノ事由アル場合ノ外之ヲ開クコトヲ得ス
 安全鑰匙又ハ其ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ正當ノ事由ニ依リ安全鑰匙ヲ開封シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全鑰匙ノ封鎖ヲ申請スヘシ
 第八條 船舶ノ検査ニ對シ不服アルトキハ其ノ所有者又ハ船長ハ其ノ事由ヲ具シ統監府ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ再検査決定前船舶ノ原状ヲ變更スルコトヲ得ス
 第九條 船舶検査證書ニ記載シタル航路制限若ハ航行期間ヲ超エテ船舶ヲ回航セムトスルトキハ所有者又ハ船長ヨリ事由ヲ具シ當該理事廳ニ申請シ認可ヲ受クヘシ
 理事廳ハ前項ノ申請カ正當ノ事由アルモノニシテ且其ノ船舶ハ回航ニ適スルモノト認ムルトキハ回航認可證書ヲ交付スヘシ

第十條 船長ハ船舶検査證書又ハ回航認可證書ヲ船内最見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ
 第十一條 船舶検査證書、回航認可證書又ハ船舶検査手帖ヲ滅失若ハ紛失シタルトキハ船長ハ遅滞ナク其ノ事由ヲ具シ當該理事廳ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ
 第十二條 船舶検査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遅滞ナク當該理事廳ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ船舶検査證書ヲ毀損シタルトキ亦同シ
 第十三條 船舶検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若検査ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキハ其ノ航行ノ停止ヲ命スルコトヲ得
 第十四條 軍隊ノ輸送又ハ臨時ニ多數ノ漁夫、移民若ハ出稼人ヲ運送セムトスルトキハ所有者又ハ船長ハ當該理事廳ノ認可ヲ受ケ定員外ニ旅客ヲ搭載スルコトヲ得
 第十五條 船舶ノ航行期間内ニ於テ左ニ掲クル事故アルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ具シ當該理事廳ニ届出ツヘシ
 一 船舶ヲ入渠又ハ上架セムトスルトキ
 二 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル器具ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ修繕變更セムトスルトキ
 三 汽機若ハ汽鐘ヲ取放サムトスルトキ又ハ螺旋軸ヲ拔出サムトスルトキ
 第十六條 船舶検査證書又ハ回航認可證書ノ交付書換若ハ再交付ヲ受ケムトスル者ハ汽船ニ在リテハ二圓、帆船ニ在リテハ一圓ノ手数料ヲ納付スヘシ
 船舶検査手帖ノ再交付ヲ受ケムトスル者ハ汽船ニ在リテハ五圓、帆船ニ在リテハ三圓ノ手数料ヲ納付スヘシ
 前二項ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ
 官有ノ船舶ニハ本條ノ規定ヲ適用セス

第十七條 船舶検査官吏ハ船舶ノ所有者又ハ船舶職員ニ對シ検査ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條 左ノ場合ニ於テハ船舶検査證書ヲ當該理事廳ニ返還スヘシ

- 一 船舶ノ航行期間満了シタルトキ
- 二 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ
- 三 船舶カ本則ノ規定ニ依リ検査ヲ受クルコトヲ要セザルモノト爲リタルトキ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 正當ノ事由ナクテ船舶検査證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ
- 二 船舶検査證書ニ記載シタル事項ニ違反シタルトキ
- 三 船舶検査官吏ノ臨視ヲ拒ミ若ハ航行停止ノ命令ニ違反シタルトキ

再検査決定前ニ船舶ノ原状ヲ變更シタルトキ其ノ申請者ノ罰亦前項ニ同シ

- 第二十條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第五條第二項ノ規定ニ基キ發スル命令ヲ拒ミタルトキ
- 二 第七條ノ規定ニ違反シ船舶検査手帖又ハ安全鍵ヲ船内ニ保管セス又其ノ封緘ヲ開キ若ハ安全鍵ノ封鎖ヲ申請セザルトキ
- 三 第十條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 四 第十一條ノ規定ニ違反シ船舶検査證書、回航認可證書若ハ船舶検査手帖ノ再交付ヲ申請セズ又ハ第十二條ノ規定ニ違反シ船舶検査證書ノ書換ヲ申請セザルトキ
- 五 船舶検査證書ヲ返還スルノ義務ヲ怠リタルトキ
- 六 第十五條ノ規定ニ依ル届出ノ義務ヲ怠リタルトキ

第十七條ノ規定ニ基キ發スル命令ニ違反シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第二十一條 詐偽ノ所爲ヲ以テ船舶検査證書若ハ回航認可證書ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ所爲ヲ爲シタル法定代理人ニ之ヲ適用ス

第二十二條 本則中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十三條 船舶検査申請書、船舶検査證書及回航認可證書ハ第一號乃至第三號書式ニ依ル

附則

本則ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

日本臣民ニ於テ外國船舶ヲ借入レ韓國各港ノ間又ハ韓國ト外國トノ間ニ使用スル者ハ本則ニ依リ検査ヲ受クヘシ

本則施行ノ際現在セル船舶ノ所有者又ハ船長ハ本則施行ノ日ヨリ六箇月内ニ第一條ニ依ル船舶ノ検査ヲ申請スヘシ

本則施行前理事廳ヨリ交付シタル船舶検査證書ハ本則ニ依リ交付シタルモノト見做ス

(第一號書式)

船舶検査申請書

- 一 船種船名
- 一 總噸數(若ハ積石數)
- 一 所有者
- 一 船籍港
- 一 船長ノ氏名及其ノ海技免狀ノ種類
- 一 航行セムトスル航路
- 一 検査ヲ受ケムトスル期日
- 一 検査ヲ受ケムトスル場所
- 一 検査申請ノ事由

明治四十三年三月 府令 統監府第四號 船舶検査規則

右検査相成度此段申請候也

明治 年 月 日

(理事廳名)

御中

申請者 氏 名印

(第二號書式)

第 號

竪九寸横一尺三寸

船舶検査證書

本船番 船名	船籍	船主 所有者	航路				航期	旅客定員		
			往	來	往	來		一等	二等	三等

右検査ヲ送ケ船舶検査規則第五條ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

明治 年 月 日

理事廳名印

割印

(第三號書式)

竪九寸三分横六寸六分

回航認可證書

船主所有者住所(所在地)
氏 名(名稱)

右所有(汽又ハ帆)船 丸船舶検査規則第九條ニ依リ(旅客、貨物ノ搭載ヲ許シタルトキ又ハ之ヲ禁シタルトキハ其ノ旨ヲ記入ス)ヨリ、マテ航行スルコトヲ認可シ此ノ證書ヲ交付ス

但シ此ノ證書ハ明治 年 月 日限り無効トス

明治 年 月 日

理事廳名印

割印

○統監府令第五號(官報 三月三十日)

明治四十二年統監府令第六十九號郵便振替貯金規則中左ノ通改正ス

明治四十三年三月十九日

統監 子爵曾禰荒助

一第三條第一項中「郵便貯金局及同大阪郵便貯金支局」ヲ「郵便貯金局、大阪郵便貯金支局及臺灣總督府民政部通信局」ニ改メ

一第六十一條中「又同大阪郵便貯金支局」ヲ「大阪郵便貯金支局」ニ改メ「大阪郵便局ニ於テ」ノ下ニ「又臺灣總督府民政部通信局ニ屬スル加入者ハ臺北郵便局ニ於テ」ヲ加フ

附 則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年三月 府令 統監府第五號

〔參照〕

統監府令第六十九號郵便振替貯金規則(明治四十二年十二月二十一日官報)抄録
第六十一條 統監府通借管理局ニ屬スル加入者ハ京城郵便局ニ於テ郵便貯金局ニ屬スル加入者ハ東京郵便局ニ於テ又同大
阪郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ大阪郵便局ニ於テ指定受取人ヲシテ即時現金ノ拂渡ヲ受ケシムヘキ局待拂掛出書ヲ據
出スコトヲ得

○臺灣總督府令第九號(官報三月三日)

明治三十七年十一月府令第八十五號電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス
本令ハ明治四十三年二月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

西螺打狗間	二十五錢	大目降橋仔頭間	二十五錢
西螺嘉義間	三十錢	大目降橋仔坑間	二十五錢
北港打狗間	四十五錢	大目降打狗間	三十錢
店仔口嘉義間	十五錢	大目降蘇寮間	三十五錢
大目降嘉北間	九十錢	大目降阿猴間	三十五錢
大目降關帝廟間	十錢		

○臺灣總督府令第十號(官報三月八日)

明治四十二年十月府令第七十五號廳位置管轄區域中奉鄉掃叭社ノ下馬於文社ヲ舞鶴庄ニ改ム
明治四十三年二月二十七日
臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第十一號(官報三月八日)

明治三十九年六月府令第四十五號中電話交換料ノ部蘇頭庄ノ次ニ左ノ如ク加フ
明治四十三年二月二十七日
臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

地 名	電話交換料 料金年額
溪洲庄	三十六圓

○臺灣總督府令第十二號(官報三月八日)

明治三十七年十一月府令第八十五號電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス
本令ハ明治四十三年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

溪洲庄基隆間	七十五錢	溪洲庄北斗間	十錢
溪洲庄臺北間	六十五錢	溪洲庄北斗六間	二十五錢
溪洲庄葫蘆墩間	三十五錢	溪洲庄林地埔間	二十五錢
溪洲庄臺中間	三十五錢	溪洲庄五間厝間	三十錢
溪洲庄彰化間	十五錢	溪洲庄南港間	三十五錢
溪洲庄鹿港間	十五錢	溪洲庄莊南間	四十五錢
溪洲庄員林間	十五錢	溪洲庄打狗間	六十錢

○臺灣總督府令第十三號(官報三月八日)

明治三十七年十一月府令第八十五號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正ス
本令ハ明治四十三年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

鹿港北斗間	十五錢	臺灣總督 伯爵佐久間左馬太
	十錢	臺灣總督 伯爵佐久間左馬太
	十五錢	臺灣總督 伯爵佐久間左馬太
	十錢	臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第十四號(官報三月十六日)

臺灣工業用酒精戻稅規則施行規則左ノ通相定ム
明治四十三年三月九日
臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣工業用酒精戻稅規則施行規則
第一條 酒精ヲ左ノ物品製造ニ使用シタル中ハ工業用ニ供シタルモノトシ臺灣工業用酒精戻稅規則第一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲スコトヲ得
火藥、ニス、依的兒、石鹼、單寧酸、龍腦、食醋、セルロイド、外國ニ輸出スル香水

酒精ヲ左ノ用途ニ供シタルトキ亦前項ニ同シ
蒸汽汽罐燃料、セルロイド加工用

第二條 酒精ヲ政府ノ阿片、食鹽若ハ樟腦製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタル者ハ臺灣工業用酒精稅規則第二條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三條 臺灣工業用酒精稅規則第一條ニ依リ酒精使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ造石稅納付證據ヲ添附シ所轄關ニ提出スヘシ

一 使用スヘキ數量及純酒精ノ容量
二 使用ノ目的及使用ノ方法
三 使用ノ場所

四 使用日時

五 引取先

第六條 使用者ノ住所氏名又ハ名稱
第四條 前條ノ申請アリタルトキハ當該官吏ハ酒精ノ使用前其ノ數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定シ使用ノ承認ヲ與フヘシ但シ申請ノ場所及日時ニ於テ其ノ目的ニ從ヒ使用セスト認ムルトキハ其ノ承認ヲ取消スコトヲ得

當該官吏ハ前項ニ依リ承認ヲ與ヘタル酒精ヲ使用スル場所ニ就キ酒精、酒精ト混和スヘキ物品使用ノ方法、製品、廢渣、器具、器械及帳簿書類ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ト認ムル方法ヲ施スコトヲ得

營業者前項ノ檢査又ハ處分ヲ拒ムトキハ當該官吏ハ既ニ與ヘタル承認ヲ取消スコトヲ得
第五條 酒精ヲ第一條ノ工業用ニ使用スルニ際シ作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ所轄關ニ申告シ其ノ數量及含有純酒精ノ容量ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ分離シタル酒精ノ數量ヲ控除シタルモノヲ以テ使用數量トス

第六條 臺灣工業用酒精稅規則ニ依リ造石稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル申請書ハ所轄關ニ、出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル申請書ハ稅關ニ之ヲ提出スヘシ

酒精ヲ外國ニ輸出スル香水ノ製造用ニ供シタル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ添附スヘシ

第七條 臺灣工業用酒精稅規則ニ依リ酒精ノ使用又ハ供給ヲ爲ス者ハ帳簿ヲ備ヘ少クトモ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 酒精ノ數量及含有純酒精ノ容量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二 使用シタル酒精ノ數量、含有純酒精ノ容量、使用ノ目的及使用ノ日

三 政府ニ供給シタル酒精ノ數量、含有純酒精ノ容量、供給ノ日及官衙名

四 製品アルトキハ其ノ種類、數量及製造ノ日

五 作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ其ノ數量及含有純酒精ノ容量

前項ノ帳簿ハ記載ヲ終リタル日ヨリ起算シ三年間之ヲ保存スヘシ

第八條 前條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三十圓以上ノ科料ニ處ス

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第十五號(宣稱三月十六日)
臺灣酒造稅規則施行規則左ノ通改正ス
明治四十三年三月十日
臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣酒造稅規則施行規則
第一章 酒類ノ製造及販賣

明治四十三年三月 府令 臺灣總督府第十五號 臺灣酒造稅規則施行規則

二

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル免許申請書ニ製造場ノ土地建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ之ヲ製造場所轄廳ニ提出スヘシ

一 製造場ノ位置

二 製造スヘキ酒類ノ種別

三 住所氏名又ハ名稱

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ廳ハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一 取締上不適當ト認ムル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ

二 建物ノ構造ニ於テ取締上不適當ト認ムルトキ

三 臺灣酒造稅規則第四十一條ノ二又ハ此ノ規則第五十五條ニ依リ免許ヲ取消サレタル者又ハ其ノ戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者又ハ取締上不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條 酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハズ總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ但シ製造場ニ連續スルモノニ在リテモ小賣場ハ之ヲ製造場ト認ムルノ限ニ在ラス

第四條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ製造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前所轄廳ニ提出スヘシ但シ酒類ノ種別變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ其ノ目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造場建物ノ構造ヲ變更セムトスルトキハ更ニ其ノ圖面ヲ提出シテ承認ヲ受クヘシ

第五條 酒類製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告アリタルトキハ廳ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ廳ハ之ニ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙印スヘシ

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ其ノ容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 酒類製造者ハ毎酒造年度ノ事業ニ關シ左ノ事項ヲ詳記シ豫メ所轄廳ニ申告スヘシ

一 使用スヘキ白油、紅油、麴ノ自製ト他ヨリ引取トノ區別自製ノ場合ニ在リテハ製造方法及製造見込高

二 製造スヘキ酒類ノ名稱、製造方法、仕込數及其ノ製造見込石數

三 酒類ノ製造期間

四 仕込用容器ノ數及其ノ使用順序

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ

酒類ノ製造方法及製造期間ノ變更ニ關シテハ其ノ申告ニ對シ承認アリタル後ニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七條 酒類製造者其ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄廳ニ申告スヘシ

第八條 酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄廳ニ届出ツヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外酒類ノ製造ヲ承繼セムトスル者ハ第一條ニ依リ免許申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ臺灣酒造稅規則第五條ニ依リ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第九條 酒類製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄廳ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 酒類製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第十一條 酒類ヲ販賣セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シ所轄廳ニ申告スヘシ

一 營業場ノ位置

二 酒類ノ名稱

三 一定ノ營業場ナキトキハ其ノ旨
四 住所、氏名又ハ名稱

前項ノ申告事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ販賣ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨所轄廳ニ申告スヘシ
第十二條 臺灣酒造稅規則第九條ニ因ル事由ノ證明ハ酒造年度終了後二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ
第十三條 臺灣酒造稅規則第十一條ニ依リ造石稅ノ徵收猶豫ヲ請ハムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シ
タル申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

一 査定濟又ハ査定ヲ受クヘキ酒類ノ種別、査定濟ノ日又ハ査定ヲ受クヘキ期間、査定濟又ハ査
定ヲ受クヘキ石數及其ノ稅額

二 擔保物ノ種類、數量、價格及所在

三 猶豫ヲ請ハムトスル期間

四 擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱

五 前各號ノ外必要ナル事項

廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケ徵收猶豫ヲ許可シタルトキハ擔保額及其ノ猶豫スヘキ期間ヲ定メ之
ヲ擔保提供者ニ告知スヘシ

第十四條 擔保物ノ種類ハ左ニ列記スルモノニ限ル

一 土地

二 金錢

三 有價證券

第十五條 土地以外ノ擔保物ハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ所轄廳ニ提出スヘシ但シ廳所在地ニ金庫
ナキトキハ之ヲ供託セスシテ提供スルコトヲ得
前項但書ニ依リ廳ニ於テ擔保ノ提供ヲ受ケタルトキハ當該官吏ハ擔保領收證ヲ提供者ニ交付シ

擔保物ハ之ヲ供託スヘシ

第十六條 擔保物ノ價格減少シタルトキハ廳ハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公
賣スヘシ
公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、土地ノ座落、地番、地目、甲數等則證券ノ種類、金額、公
賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

公賣執行前ニ於テ公賣ノ費用及造石稅ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ
擔保物ヲ公賣ニ付シタル場合ニ於テ提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第十七條 臺灣酒造稅規則第十四條ニ依リ檢定ヲ受ケタル酒類ハ製造場内ニ於テ他ノ酒類ト區別
シテ藏置スヘシ
第十八條 酒類ノ造石數ハ左ノ製成區分ニ依リ容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定
ス

一 釀造酒中濾過ヲ要スルモノハ原料一仕込毎ニ濾過ヲ了シタルトキ、濾過ヲ要セサルモノハ
原料一仕込毎ニ熟成ノトキ但シ濁酒ノ荒漉ハ之ヲ濾過ト認ムルノ限ニ在ラス

二 蒸餾酒ハ一仕込ノ蒸餾ヲ了シタルトキ
三 再製酒中碾碎又ハ濾過ヲ要スルモノハ原料一仕込毎ニ碾碎又ハ濾過ヲ了シタルトキ其ノ他
ハ原料一仕込毎ニ熟成又ハ混和ヲ了シタルトキ

收稅官吏ニ於テ載仕込ノ原料合併製成ヲ承認シタルトキハ其ノ合併全部ノ製成ヲ了シタルトキ
造石數ヲ査定スヘシ但シ五仕込以上ノ合併製成ヲ承認スルコトヲ得ス

第十九條 酒類製造者酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量、時期等ヲ所轄廳ニ申告ス
ヘシ

酒類ノ粕瀝ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第二十條

左ノ場合ニ於テハ酒類製造者ハ其ノ旨直ニ所轄廳ニ申告スヘシ
一 酒母、醱酒、酒清又ハ原料用酒類ヲ他人ニ讓渡シ、公賣セラレ、飲料ニ供シ又ハ酒類製造用外ニ供セムトスルトキ

第二十一條

臺灣酒造稅規則第十九條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ
前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ廳ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認メタルトキ又ハ酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルトキハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ
廢敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ヲ以テ蒸餾酒ノ製造用ニ供セムトスルモノハ稅金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十二條

酒類ヲ外國ニ輸出ノ爲メ臺灣酒造稅規則第十九條ノ二及第十九條ノ三ニ依リ承認ヲ請ハムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル申請書ヲ其ノ酒類製造場所轄廳ニ提出スヘシ
一 輸出スヘキ酒類ノ種別、酒名、石數、所在、容器ノ種類、筒數、造石數、査定ノ日、納稅ノ濟否及其ノ酒類製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十三條

臺灣酒造稅規則第十九條ノ二ニ依リ酒類ヲ工業用ニ使用若ハ供給シ其ノ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ造石數及出港石數、査定ノ日ヲ附記シタル申請書ニ使用若ハ供給ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添附シ之ヲ製造場所轄廳ニ提出スヘシ
臺灣工業用酒精稅規則施行規則ノ規定ハ前項ノ申請者ニ之ヲ準用ス

第二十四條

臺灣酒造稅規則第十九條ノ二ニ依リ酒類ヲ外國ニ輸出シ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ其ノ酒類製造場所轄廳ニ提出スヘシ
一 輸出承認書
二 輸出免狀
三 外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第二十五條

臺灣酒造稅規則第十九條ノ三ニ依リ酒類ヲ外國ニ輸出シ造石稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ前條ノ書類及納稅證明書ヲ添附シ輸出港稅關ニ提出スヘシ

第二十六條

酒類製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
三 酒名ノ異ナル毎ニ竝ニ一仕込毎ニ仕込ノ方法及仕込ノ日
四 酒類製成ノ日及其ノ數量
五 他ニ引渡シタル酒類又ハ原料ノ名稱、數量、價格、引渡ノ日及其ノ引渡先
六 藏出發酒類ニ割水ヲ爲シタルトキハ其ノ數量及割水ノ日
七 自己ノ小賣場ニ移出シタル酒類ノ名稱、數量及移出ノ日

第二十七條

酒類製造者ニ於テ白糊、紅糊若ハ麴ヲ製造スルトキハ其ノ製造用原料品ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及引取先ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第二十八條

酒類販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 引取リタル酒類ノ名稱、數量、價格、引取ノ日及引取先
二 販賣シタル酒類ノ名稱、數量、價格、販賣ノ日及其ノ賣渡先

第二十九條

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス
内地ヨリ移入シ又ハ外國ヨリ輸入シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ關シテハ第一項ノ事項

第三十條

酒類製造者ニ於テ白糊、紅糊若ハ麴ヲ製造スルトキハ其ノ製造用原料品ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及引取先ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三十一條

酒類販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 引取リタル酒類ノ名稱、數量、價格、引取ノ日及引取先
二 販賣シタル酒類ノ名稱、數量、價格、販賣ノ日及其ノ賣渡先

第三十二條

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス
内地ヨリ移入シ又ハ外國ヨリ輸入シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ關シテハ第一項ノ事項

ハ別口座又ハ別帳ニ記載スヘシ

第二十八條 酒類製造者ハ酒母、醱酒、清酒又ハ酒清ニ就キ一仕込毎ニ左ノ事項ヲ明瞭ニ其ノ容器又ハ仕込ヲ分界スル箇所ニ標記スヘシ

一 製造方法ノ記號

二 仕込順號及仕込ノ日

三 容器ノ配合番號又ハ組號

四 醱酵状態ノ不良ナルモノハ其ノ區分

前項ニ依リ標記區分シタルモノヲ彼是混淆セムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第二十九條 酒類製造者ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一 白細ノ使用量ヲ一時増減セムトスルトキ

二 醱酵補助ノ爲仕込準備中ノ糖蜜汁、糖蜜水其ノ他ノ糖汁ニ他ノ仕込ニ屬スル酒清又ハ酒清ヲ混和セムトスルトキ

三 仕込半ノ酒清又ハ酒清ニ他ノ仕込ニ屬スル酒清又ハ酒清ヲ混和セムトスルトキ

四 合併製成ヲ爲サムトスルトキ

五 酒粕ヲ酒清又ハ酒清ニ混シテ蒸餾セムトスルトキ

六 受入レ又ハ製造シタル白細、紅細其ノ他ノ原料品ヲ他人ニ引渡シ製造場外ニ移出シ又ハ廢棄セムトスルトキ

七 原料用酒類ノ容器ヲ變換セムトスルトキ

八 原料用酒類ノ用途ヲ變更セムトスルトキ

九 製造場内ニ於テ酒造用外ノ麹ヲ製造セムトスルトキ

十 酒造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

十一 前各號ノ外收稅官吏カ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第三十條 酒類製造者ハ其ノ製造場内ニ藏置スル酒類ニ就キ査定ノ既未濟ヲ標記區分スヘシ

第三十一條 酒類製造者ハ其ノ製造シタル酒類ノ藏出前ニ於テハ之ニ割水ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 酒粕ハ其ノ濾過シタル酒類ノ造石査定ノトキ之ヲ検査スヘシ

酒類製造者ハ前項検査後ニ非サレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ、使用シ、消費シ又ハ他ノ酒粕ト混合スルコトヲ得ス

第三十三條 酒類製造者ハ左ノ酒造用原料品ニ限リ其ノ使用前ニ於テ收稅官吏ノ検査ヲ受クヘシ

一 蒸餾酒原料用酒粕

二 砂糖、糖蜜其ノ他ノ糖汁

三 前各號ノ外收稅官吏ニ於テ検査ヲ受クヘキコトヲ命シタル物品

第三十四條 收稅官吏ハ隨時酒類ノ製造場又ハ其ノ販賣場ニ就キ酒類、其ノ原料、容器、器具、器械又ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ

第三十五條 收稅官吏ハ榨器、蒸餾器械ノ使用停止中ニ封緘ヲ施スヘシ

收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ酒粕、蒸餾粕、酒類、其ノ原料又ハ其ノ容器ニ封緘其ノ他監督上必要ナル方法ヲ施スヘシ

第三十六條 臺灣酒造稅規則第四十一條ノ二ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、醱酒、清酒其ノ他半製品現存スルトキハ應ハ酒類製造者ノ申請ニ依リ相當ノ期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ此ノ規則ノ規定ヲ適用ス

第三十七條 酒類製造者其ノ製造場所在地ニ居住セサルトキハ代理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第二章 酒母、醱酒、清酒及酒醎ノ製造

第三十八條 第一條、第二條及第八條第二項ノ規定ハ酒類製造者ニ非スシテ酒母、醱酒、清酒又ハ酒清ヲ製造セムトスル者及酒醎ヲ製造セムトスル者ニ之ヲ準用ス

第四條第三項第七條、第八條第一項及第九條ノ規定ハ酒類製造者ニ非スシテ酒母、醱酒、清酒又ハ酒清ヲ製造セムトスル者及酒醎ヲ製造セムトスル者ニ之ヲ準用ス

酒清ヲ製造スル者及酒甌製造者ニ之ヲ準用ス

第三十九條 第四條乃至第六條、第十條、第二十六條、第二十八條、第二十九條、第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ酒類製造者ニ非シテ酒母、醗、酒甌又ハ酒清ヲ製造スル者ニ之ヲ準用ス

第四十條 酒甌製造者ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 製造又ハ修理ノ依託ヲ受ケタル酒甌ノ箇數、受託ノ日、依託者ノ住所、氏名又ハ名稱及其ノ製造又ハ修理ノ日

二 販賣ノ爲製造シタル酒甌ノ箇數及其ノ製造ノ日

三 引渡シタル酒甌ノ箇數、引渡ノ日及其ノ引渡先

第三章 白釉、紅釉、麴ノ製造、引取、販賣及所持

第四十一條 酒類、酒母、醗、酒甌若ハ酒清製造者ニ非シテ白釉、紅釉若ハ麴ヲ製造セムトスル者又ハ之ヲ販賣セムトスル者ハ製造場又ハ販賣場ニ箇所毎ニ所轄廳ノ免許ヲ受クヘシ

第四十二條 第一條、第二條及第八條第二項ノ規定ハ前條ノ免許申請者ニ之ヲ準用ス
第四十三條 第三項、第七條、第八條第一項、第九條及第十條ノ規定ハ白釉、紅釉、麴ノ製造者又ハ其ノ販賣者ニ之ヲ準用ス

第四十四條 白釉、紅釉又ハ麴製造者ハ其ノ年三月一日ヨリ翌年二月末日迄ニ於テ製造スヘキ毎種類ノ見込石數若ハ斤數、製造着手ノ時期及製造方法ヲ記シ豫メ所轄廳ニ申告スヘシ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業着手前ニ申告スヘシ

第四十五條 白釉、紅釉若ハ麴製造者又ハ其ノ販賣者ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 原料ノ種類、數量、價格、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三 製造シタル白釉、紅釉又ハ麴ノ數量及其ノ製造ノ日
四 引取リタル白釉、紅釉又ハ麴ノ數量、價格、引取ノ日及引取先
五 引渡シタル白釉、紅釉又ハ麴ノ數量、價格、引渡ノ日及引渡先

麴小賣ノ場合ニ於テハ前項第五號引渡先ノ記載ヲ要セス
第四十六條 白釉、紅釉又ハ麴ヲ稅關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラムトスル者ハ廳ノ交付シタル引取認許證ヲ稅關ニ提出シ其ノ引取ヲ證明スヘシ

稅關ハ前項ノ引取認許證ト引換ニ非サレハ白釉、紅釉又ハ麴ヲ引渡スコトヲ得ス
第四十七條 白釉又ハ紅釉ハ廳ノ交付シタル引取認許證ヲ所持スル者ニ其ノ認許證ト引換ニ引渡スノ外讓渡シ、質入シ又ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケシテ其ノ製造場若ハ販賣場外へ移出スルコトヲ得ス

第四十八條 白釉、紅釉若ハ麴ヲ稅關若ハ保税倉庫ヨリ引取ラムトスル者又ハ白釉、紅釉ヲ他人ヨリ引取ラムトスル者ハ其ノ數量、引取ノ目的及引取先ヲ記シ所轄廳ニ申請シテ引取認許證ノ交付ヲ受クヘシ

第四十九條 白釉又ハ紅釉ヲ運搬スルトキハ其ノ引取先及引渡先ヲ證明スヘキ書類ヲ現品ニ添附スヘシ
第五十條 白釉若ハ紅釉ハ其ノ製造者販賣者運搬者又ハ酒類、酒母、醗、酒甌若ハ酒清製造者ニ非サレハ之ヲ所持スルコトヲ得ス

第五十一條 收稅官吏ハ隨時白釉、紅釉若ハ麴製造場又ハ其ノ販賣場ニ就キ白釉、紅釉、麴、其ノ原料製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ

收稅官吏ハ運搬中ニ在ル白釉、紅釉若ハ麴ヲ検査シ其ノ出所又ハ到達先ヲ質問スルコトヲ得
前二項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收稅官吏ハ其ノ検査物件若ハ船車ニ封印ヲ施シ又ハ之ニ代ルヘキ適當ナル處世ヲ施スコトヲ得

第五十二條 白釉、紅釉若ハ麴製造者其ノ製造ヲ廢止スルモ製造場内ニ白釉、紅釉、麴、製造用容器、

器具又ハ器械ノ現存スル間ハ收稅官吏ハ其ノ製造場ニ就キ建築物若ハ其ノ現在品ヲ検査シ又ハ之ニ封印ヲ施スコトヲ得

第五十三條 收稅官吏カ必要ト認メテ白糶、紅糶、麴又ハ其ノ原料品ヲ指定シ其ノ讓渡、買入、消費

又ハ使用前検査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ白糶、紅糶又ハ麴製造者ハ其ノ検査ヲ受クヘシ

第五十四條 收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル事項ニ付テハ白糶、紅糶若

ハ麴製造者又ハ其ノ販賣者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

第五十五條 第五十八條、第六十一條及第六十二條ニ依リ處分又ハ處罰セラレタル者ニ對シテハ

廳ハ白糶、紅糶若ハ麴ノ製造又ハ其ノ販賣ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第五十六條 第五十條ノ規定ニ違反シタル者及第五十九條ノ規定ニ依リ處分又ハ處罰セラレヘキ者ノ所

持ニ係ル白糶、紅糶又ハ麴ハ本令ノ規定ニ依リ引取ラレル迄ノ期間收稅官吏之ニ封緘ヲ施スヘシ

第四章 罰則

第五十七條 第四條第三項、第五條第二項、第六條第三項、第十七條、第二十八條第一項、第三十條第

三十一條、第三十二條、第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以

上ノ科料ニ處ス

第五十八條 酒甌製造者又ハ白糶、紅糶、麴製造者又ハ其ノ販賣者帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五

十圓以下ノ罰金又ハ五圓以上ノ科料ニ處シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス

第五十九條 第四十九條及第五十條ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第六十條 第二十八條第二項、第二十九條及第五十四條ニ依リ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘキ場合

ニ之ヲ受ケザリシ者又ハ事實ヲ詐リテ承認ヲ受ケタル者ハ二十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科

料ニ處ス

第六十一條 免許ヲ受ケケシテ白糶、紅糶若ハ麴ヲ製造シタル者又ハ之ヲ販賣シタル者又ハ詐偽
其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ白糶、紅糶若ハ麴ヲ稅關若ハ保稅倉庫ヨリ引取リタル者ハ二百圓以下
ノ罰金ニ處ス

第六十二條 第四十七條ノ規定ニ違反シタル者及白糶、紅糶若ハ麴製造者又ハ其ノ販賣者ニシテ
白糶、紅糶若ハ麴ノ検査ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 本令ノ規定ニ依リ記載シタル帳簿ハ營業者又ハ其ノ相續人ニ於テ其ノ記載ヲ終リタ
ル日ヨリ起算シ三年間保存スヘシ之ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ
處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十月府令第八十三號臺灣白糶、紅糶及麴取締規則ハ之ヲ廢止ス

○臺灣總督府令第十六號(官報三月三十一日)

明治三十年三月府令第八號臺灣中央衛生會規則中左ノ通改正ス

明治四十二年三月十九日

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

第四條第一項中「十五人ヲ十八人」ニ改メ第三項中「技師六人」ヲ「警視技師通シテ七人」ニ、臺灣總督

府民政部警察本署長、臺灣陸軍軍醫部長ヲ、臺灣總督府內務局長、臺灣總督府陸軍部軍醫部長ニ改ム

〔參照〕

臺灣總督府令第八號臺灣中央衛生會規則(明治三十年三月三十日官報抄録)

第四條第一項及第三項

臺灣中央衛生會ハ會長一人委員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

委員ハ臺灣總督府局長、事務官、技師、技師六人、臺灣總督府民政部警察本署長、臺灣陸軍軍醫部長、臺北廳長、臺北醫院長及醫

○臺灣總督府令第十七號(官報三月三十一日)
臺灣國防用防禦營造物區域ニ關スル地圖取締規程左ノ通相定ム

明治四十三年三月二十三日

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

臺灣國防用防禦營造物區域ニ關スル地圖取締規程

- 第一條 本令ニ於ル地圖ヲ稱スルハ臺灣國防用防禦營造物區域ヲ測量、模寫、撮影、錄取シタル梯尺五萬分一以上ノ地圖ヲ謂フ但シ臺灣地租規則ニ依ルモノヲ除ク
- 第二條 地圖ハ要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ所持スルコトヲ得ス
- 前項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ記シ地圖及目錄地圖ノ名稱、番號、梯尺、及枚數ヲ添附シテ願出ヘシ
- 第三條 地圖所有者ハ毎年四月中ニ其ノ目錄ヲ調製シ之ヲ地圖ニ添附シテ所轄廳長ニ提出シ檢査ヲ受クヘシ

前項ノ目錄ハ其ノ年六月末日迄ニ當該廳長ヨリ要塞司令官ニ送付スヘシ

第四條 要塞司令官ハ軍事上必要ト認ムルトキハ地圖ヲ提出セシメ又ハ之ヲ取上クルコトヲ得

第五條 地圖盜難ニ遭ヒ又ハ紛失若ハ燒失シタルトキハ地圖所有者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ所轄廳長ニ届出當該廳長ハ之ヲ要塞司令官ニ通報スヘシ偶然ノ原由ニ依リ地圖ヲ領有シタルトキ亦同シ

第六條 地圖所有者ハ其ノ地圖不用ニ歸シタルトキハ之ヲ要塞司令官ニ納付スヘシ

第七條 本令ニ依リ要塞司令官ニ差出スヘキモノハ總テ所轄廳ヲ經由スヘシ

第八條 第二條第一項、第三條第一項、第五條及第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ十月以下ノ懲役又ハ四十圓以下ノ罰金若ハ拘留又ハ科料ニ處ス第四條ニ依リ地圖ヲ提出ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令發布前ヨリ地圖ヲ所持スル者ハ明治四十三年八月三十一日迄ニ第二條ノ許可ヲ受クヘシ

○臺灣總督府令第十八號(官報三月三十一日)

郵便振替貯金規則左ノ通相定ム

明治四十三年三月二十四日

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

郵便振替貯金規則

第一章 總則

第一條 振替計算ノ爲ニスル郵便貯金ハ之ヲ郵便振替貯金ト稱ス

第二條 郵便振替貯金ハ左ノ取扱ヲ爲スモノトス

一 加入者又ハ其ノ他ノ者ヨリ現金又ハ所定ノ證券ニ依リ拂込ヲ指定加入者ノ口座ニ受入ルルコト

二 加入者ノ請求ニ依リ加入者ノ口座相互間ニ於テ貯金ノ振替ヲ爲スコト

三 加入者ノ請求ニ依リ其ノ口座ノ貯金ヲ拂出シ當該加入者又ハ其ノ指定人ニ現金ノ拂渡ヲ爲スコト

第三條 郵便振替貯金ノ振替計算ヲ爲ス爲臺灣總督府通信局、郵便貯金局、大阪郵便貯金支局及統

監府通信管理局ニ加入者ノ口座ヲ設ク

郵便振替貯金ニ加入セムトスル者ハ自己ノ便宜ニ從ヒ前項所管廳ノ一箇所又ハ數箇所ニ口座ノ開設ヲ請求スルコトヲ得

第四條 口座所管廳ニ於テハ加入者ノ口座番號、氏名住所、職業等ヲ輯録シタル振替貯金加入者名簿ヲ發行シ加入者ノ請求ニ依リ別ニ告示スル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スモノトス

加入者前項ノ名簿ヲ買受ケムトスルトキハ其ノ旨ヲ所屬ノ口座所管廳ニ申込ムヘシ

第五條 加入者及其ノ他ノ關係人本規則ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テハ成規ニ依リ提出シタ

ル印鑑票同一ノ形式ニ依リ署名同一ノ印章ヲ使用スヘシ

第六條 社寺學校組合又ハ團體ニシテ法人ニ非サル者振替貯金ニ加入セムトスルトキハ其ノ代表者一名ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ代表者ヲ以テ一箇ノ加入者ト看做ス

前項ノ加入者本規則ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テハ其ノ代表者ニ於テ社寺學校組合又ハ團體ノ名稱ヲ肩書シ署名捺印スヘシ

第七條 加入者ハ一名ニ限リ參加署名人ヲ設定スルコトヲ得

參加署名人ヲ設定シタル加入者本規則ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テハ參加署名人モ亦其ノ肩書ヲ附シ署名捺印スヘシ

第八條 加入者ハ一名又ハ數名ノ代理署名人ヲ設定スルコトヲ得

第九條 加入者ハ一口座ニ付一箇ヲ限リ商號屋號及其ノ他ノ稱號ヲ別名トシテ之カ登記ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ別名登記ニ對シテハ料金一圓ヲ徴收ス

第十條 代人ニ於テ本規則ニ依ル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出シ且代人タルノ肩書ヲ附シ署名捺印スヘシ

前項ノ委任ハ通信官署ニ提出スヘキ書類ニ附記シテ之ヲ證明スルコトヲ得

第十一條 郵便振替貯金ニ關スル各種ノ料金又代金ハ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外口座所管廳ニ於テ之ヲ當該加入者ノ貯金ヨリ控除徴收ス但シ時宜ニ因リ郵便切手ヲ以テ徴收スルコトアルヘシ

第十二條 郵便振替貯金ノ利子ハ其ノ口座ニ於ケル月末現在高ニ對シ翌月ヨリ拂出ノ前月マテ之ヲ付ス但シ基本預金及一圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ付セス

郵便振替貯金ノ利子ハ毎年三月末日ヲ區切り之ヲ元金ニ加フ

第十三條 國庫金受拂ノ爲ニスル口座ノ貯金ニ對シテハ利子ヲ付セス

第二章 加入

第十四條 郵便振替貯金ニ加入セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル加入請求書ニ基本預金二十圓ヲ添ヘ且別名ノ登記ヲ受ケムトスル者又ハ用紙若ハ名簿ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ其ノ料金又ハ代金ニ相當スル郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ但シ官公署ニ於テ加入請求ノ場合ハ基本預金ノ拂込ヲ要セス

一 加入者ノ住所氏名

二 加入者ノ職業

三 振替貯金ノ口座ヲ開設スヘキ場所ノ指定

四 加入ノ際振替貯金ニ關スル用紙及加入者名簿ヲ買受ケムトスルモノナルトキハ其ノ名稱及所要數量

五 代表者參加署名人又ハ代理署名人ヲ設定スルモノハ其ノ住所氏名

六 商號屋號及其ノ他ノ稱號ヲ別名トシテ登記ヲ受ケムトスルモノナルトキハ其ノ名稱

前項ノ場合ニ於テ官署又ハ官吏カ國庫金受拂ノ爲ニ加入スルモノナルトキハ其ノ金額目又ハ使用ノ目的ヲ記載シタル當該官署ノ證明書ヲ加入請求書ニ添附スヘシ

第十五條 口座所管廳ニ於テ前條ノ請求ヲ承認シタルトキハ請求人名義ノ口座ヲ開設シ其ノ口座番號ヲ請求人ニ通知シ且印鑑票用紙ヲ送付ス

第十六條 請求人前條印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ相當事項ヲ記載シ署名捺印ノ上無

料書留通常郵便ニ依リ速ニ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ送付スヘシ但シ參加署名人又ハ代理署名人ヲ設ケタルモノナルトキハ其ノ印鑑票ノ裏面ニ加入者ニ於テ其ノ旨ヲ證明スヘシ

第三章 拂込及拂出

第一節 通則

- 第十七條 郵便振替貯金ノ拂込振替及拂出ハ拂込書及拂出書用紙ヲ使用スヘシ
- 第十八條 拂込書用紙ハ拂込ノ際郵便局所ニ於テ當該拂込人ニ無料ニテ之ヲ交付ス
- 第十九條 加入者ハ自己ノ口座ニ對スル拂込ニ專用スル爲メ其ノ口座番號及住所氏名ヲ印刷シタル拂込書用紙ノ買渡ヲ所屬ノ口座所管屬ニ請求スルコトヲ得
- 第二十條 前項拂込書用紙ノ價格ハ五十枚綴一冊ニ付金十錢トス
- 第二十一條 加入者ハ拂込書用紙ヲ私製スルコトヲ得
- 第二十二條 加入者ハ拂込書用紙ハ附録離形ニ適合シ且其ノ相當欄ニ加入者ノ口座番號及氏名ヲ印刷シタルモノナルコトヲ要ス
- 第二十三條 拂込書用紙ニハ其ノ裏面餘白ニ廣告又ハ其ノ他ノ事項ヲ印刷スルコトヲ得
- 第二十四條 拂出書用紙ハ普通拂出書及局待拂出書ノ二種トシ所屬ノ口座所管屬ニ於テ其ノ相當欄ニ加入者ノ口座番號及住所氏名ヲ印刷シ當該加入者ニ之ヲ買渡スモノトス
- 第二十五條 前項拂出書用紙ノ價格ハ各五十枚綴一冊ニ付金十五錢トス
- 第二十六條 拂込書及普通拂出書ニハ其ノ相當欄ニ拂込人及拂出人ニ於テ相手加入者又ハ指定受取人ニ對スル通信文ヲ記載スルコトヲ得
- 第二十七條 拂込書及拂出書ニ表示スル金高ハ其ノ字體ヲ正確ニ記載シ一二三及十ノ數字ハ壹貳參及拾ノ文字ヲ使用スヘシ
- 第二十八條 拂込書及拂出書ニシテ其ノ記載事項ヲ訂正シタルモノハ通信官署ニ於テ之ヲ受理セス但シ金高ヲ除クノ外其ノ訂正ノ箇所ニ拂込人又ハ拂出人ニ於テ相當證明ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第二十九條 口座所管屬ニ於テ加入者ノ口座ニ對シ受入又ハ拂出ヲ爲シタルトキハ其ノ受拂高及現在高ヲ表示スル受拂通知票ヲ調製シ之ヲ當該加入者ニ發送ス

- 前項ノ貯金現在高ニハ基本預金ヲ算入セス
- 第三十條 加入者ハ所屬ノ口座所管屬ヨリ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ノ貯金現在高ヲ超過シテ振替若ハ拂出ノ請求ヲ爲シ又ハ局待拂出書ノ振出ヲ爲スコトヲ得
- 第三十一條 現金ヲ以テ拂渡ヲ爲スヘキ拂出書一枚ノ金額ハ千圓ヲ超過スルコトヲ得
- 第三十二條 郵便振替貯金ノ口座ニ對シ拂込金ノ受入又ハ振替ニ依ル受拂ヲ爲シタルトキハ左ノ割合ニ依ル料金を一箇月分ツテ取極メ徵收ス
 - 一 口座受入料 一口ニ付二錢
 - 二 口座拂出料 一口ニ付二錢
- 第三十三條 現金拂渡ノ爲振替貯金ヲ拂出ストキハ其ノ拂出ノ際左ノ割合ニ依ル料金を徵收ス

十圓迄	五錢
五十圓迄	十錢
百圓迄	十五錢
二百圓迄	二十錢
三百圓迄	二十五錢
四百圓迄	三十錢
五百圓迄	三十五錢
六百圓迄	四十錢
八百圓迄	四十五錢
千圓迄	五十錢
- 第三十四條 國庫金受拂ノ爲ニシテ口座ニ對シテ前二項ノ料金を徵收セス
- 第三十五條 郵便振替貯金拂出證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ起算シ三十日トス

第三十條 郵便振替貯金拂出證書ハ銀行ニ對シ線引讓渡ヲ爲スコトヲ得
交換所組合銀行ハ當該交換所ニ參加セル通信官署ニ對シ手形交換ノ手續ニ準シ交換所所在地ノ
郵便局所ニ於テ拂渡スヘキ振替貯金拂出證書ノ交換拂ヲ請求スルコトヲ得

第二節 拂込

第三十一條 郵便振替貯金ノ口座ニ對シ拂込ヲ爲サムトスル者ハ拂込替用紙ニ拂込ヲ受クヘキ加
入者ノ口座番號氏名拂込金額及拂込人ノ住所氏名ヲ記載シ拂込金ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出
シ其ノ受領票ヲ受取ルヘシ

第三十二條 郵便局所ニ於テ前條ノ拂込金ヲ受領シタルトキハ其ノ拂込替用紙ヲ拂込ヲ受クヘキ口座
ノ屬スル所管廳ニ送付ス

口座所管廳ニ於テハ前項ノ拂込替用紙ニ依リ當該加入者ノ口座ニ拂込金ヲ登記シ拂込通知票ハ當日
ノ受拂通知票ト共ニ之ヲ加入者ニ送付ス

第三十三條 左ノ證券ハ之ヲ現金ニ代用シテ振替貯金ニ拂込ムコトヲ得但シ郵便取立金取立濟通
知書ニ依リ拂込ム場合ハ取立金送達料ニ相當スル郵便切手ヲ其ノ通知書ニ貼附スヘシ

一 郵便爲替證書

二 郵便取立金取立濟通知書

三 郵便振替貯金拂出證書

四 中央金庫ニ於テ拂渡スヘキ仕拂命令券

第三十四條 加入者ハ郵便取立金ノ拂渡ヲ受クヘキ郵便局所ニ對シ豫メ自己ノ口座ニ其ノ取立ノ
振替拂込ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ自己ノ口座ニ專用スヘキ拂込替用紙ノ相當數量
ヲ當該郵便局所ニ差出シ置クヘシ
前項ノ郵便局所ニ於テハ郵便取立金到着ノ際加入者ノ請求ヲ待タズ直ニ之ヲ當該口座ニ振替拂

込ノ手續ヲ爲シ其ノ取立金送達料ハ所屬ノ口座所管廳ニ於テ當該加入者ノ貯金ヨリ控除徴收ス
第三十五條 拂込人ハ拂込金ノ口座登記前ニ限リ其ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

拂込人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ拂込先加入者ノ口座番號氏名拂込金額拂込局所名拂
込人ノ氏名及取消ノ旨ヲ郵便又ハ電報ニ依リ當該口座所管廳ニ通報スヘシ

第三十六條 拂込人前條取消ノ通報ヲ郵便局所ニ依リ託セムトスルトキハ相當事項ヲ記載シタル拂
込取消通報請求書ニ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ三錢電報ニ依ルモノハ三十錢ノ割合ニ依リ郵
便切手ヲ添ヘ拂込郵便局所ニ差出スヘシ

第三十七條 口座所管廳ニ於テ拂込金取消ノ通報ヲ受ケタルトキハ其ノ拂込金ヲ口座ニ登記セス
拂込郵便局所ヲ經テ之ヲ拂込人ニ還付ス
前項ノ場合ニ於テ當該拂込金既ニ口座登記後ナルトキハ單ニ其ノ旨ヲ拂込人ニ通知ス

第三節 振替

第三十八條 加入者ハ相手加入者ノ口座所管廳ノ如何ニ拘ハラス其ノ口座ニ對シ貯金ノ振替ヲ請
求スルコトヲ得

第三十九條 加入者自己ノ口座ノ貯金ヲ拂出シ之ヲ他ノ加入者ノ口座ニ振替ヘムトスルトキハ普
通拂出替用紙ニ金額振替拂込ヲ受クヘキ加入者ノ口座番號及氏名等ヲ記載シ署名捺印ノ上無
料普通通郵便ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ送付スヘシ

第四十條 口座所管廳ニ於テ振替請求ニ係ル拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ當該印鑑票ニ就キ
氏名及印影ノ正當ナルコトヲ認メ其ノ口座ヨリ貯金拂出ノ手續ヲ爲シ更ニ指定加入者ノ口座ニ
之ヲ受入レ拂出通知票ハ當日ノ受拂通知書ト共ニ之ヲ拂込ヲ受ケタル加入者ニ送付ス

第四十一條 郵便振替貯金ニ加入セル銀行ハ特ニ指定セラレタル銀行ニ於ケル自行ノ當座勘定口

ニ其ノ貯金ノ振替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ普通拂出書ノ指定受取人欄ニ相手銀行ノ名稱及「當座勘定口」ノ文字ヲ記載シ署名捺印ノ上第三十九條ノ例ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ送付スヘシ

第四十二條 口座所管廳ニ於テ前條ノ拂出書ヲ受ケタルトキハ第四十條ノ例ニ依リ貯金拂出ノ手續ヲ爲シタル上指定銀行ノ區別ニ從ヒ各銀行ノ請求ヲ取纏メ其ノ總額ニ對シ指定銀行ニ仕拂フヘキ振替貯金拂出證書ヲ發行シ各銀行ヨリ提出セル拂出通知票ト共ニ之ヲ當該指定銀行ニ送付ス

前項拂出證書ニ對シテハ證書一枚ノ金額ニ制限ヲ附セス

第四十三條 前條ノ拂出證書ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ從ヒ當該指定銀行ニ對シ振替ノ方法ニ依リ之カ支拂ヲ爲ス

指定銀行ニ於テ前項ニ依リ支拂ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該各銀行ノ當座勘定口ニ振替受入ルルモノトス

第四十四條 第三十五條乃至第三十七條ノ規定ハ振替取消ノ場合ニ之ヲ準用ス、

第四節 現金拂

第四十五條 加入者自己ノ口座ノ貯金ヲ拂出シ自ラ其ノ現金ヲ受領シ若ハ他人ヲ指定シテ之カ拂渡ヲ受ケシメタルトキハ普通拂出書用紙ニ金額、受取人ノ住所氏名及拂渡郵便局所名ヲ記載シ且金額欄ノ下部餘白ニ「現金拂」ノ文字ヲ附記シ署名捺印ノ上無料普通通常郵便ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第四十六條 口座所管廳ニ於テ前條拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第四十條ノ例ニ依リ貯金拂出ノ手續ヲ爲シタル上振替貯金拂出證書ヲ發行シ當該拂出通知票ト共ニ拂渡郵便局所ヲ經テ之ヲ

指定受取人ニ送達ス

第四十七條 受取人拂出證書ニ對スル現金ヲ受領セムトスルトキハ其ノ相當ノ部ニ署名捺印シ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出シ之ヲ引換ニ現金ヲ受取ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ受取人カ法人又ハ法人ニ非サル團體ナルトキハ其ノ名稱ヲ記載シ捺印スルカ又ハ其ノ代表者若ハ會計ヲ掌ル者ニ於テ相當肩書ヲ附シ署名捺印スヘシ

第四十八條 拂渡郵便局所ニ於テ指定受取人所在不明又ハ其ノ事由ニ因リ拂出證書ノ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ證書ヲ發行シタル口座所管廳ヲ經テ之ヲ拂出請求加入者ニ送達ス加入者前項ノ拂出證書ニ對スル現金ヲ受領セムトスルトキハ其ノ相當ノ部ニ署名捺印シ之ヲ所在ノ郵便局所ニ差出シ且拂出書用紙又ハ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ヲ呈示シ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ

第四十九條 現金拂ヲ請求シタル加入者ハ振替貯金拂出證書ノ現金拂渡前ニ於テ其ノ拂渡ノ停止ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ口座番號拂出金額拂出書用紙番號拂出請求日附指定受取人ノ住所氏名及停止通知ノ郵便又ハ電報ニ依ル區別ヲ記載シタル拂渡停止請求書ニ署名捺印ノ上無料普通通常郵便ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ送付スヘシ

前項拂渡停止ノ請求ニ對シテハ拂出證書一枚ニ付其ノ停止通知ノ郵便ニ依ルモノハ三錢電報ニ依ルモノハ三十錢ノ割合ニ依ル料金ヲ徴收ス

第五十條 加入者ハ拂渡停止ノ請求ヲ口座所管廳ニ送達セシムル爲其ノ電報通知ヲ郵便局所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ請求書ニ其ノ旨ヲ附記シ尙其ノ料金トシテ拂出一口ニ付三十錢ノ割合ニ依ル郵便切手ヲ添ヘ之ヲ當該郵便局所ニ差出シ且拂出書用紙又ハ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ヲ呈示シ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ

第五十一條 口座所管廳ニ於テ拂渡停止ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求ノ區別ニ從ヒ郵便又ハ電報ニ依リ其ノ拂渡ノ停止ヲ當該拂渡郵便局所ニ通報ス拂渡郵便局所ニ於テ前項ノ通報ヲ受ケタル場合ト雖既ニ拂渡済ナルトキハ單ニ其ノ旨ヲ當該加入者ニ通知ス

第五十二條 前三條ノ規定ハ拂渡停止解除ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十三條 拂渡郵便局所ニ於テ拂渡資金ノ缺乏又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ拂出證書ニ對スル拂渡ヲ停止シタルトキハ當該證書ノ裏面ニ其ノ事由及豫定日數ヲ記載印シ之ヲ請求人ニ返付ス

第五十四條 拂渡郵便局所ニ於テ拂出證書ニ對シテ拂渡ヲ停止シタル場合ト雖拂渡ヲ爲シ得ルニ至リタルトキハ其ノ旨ヲ受取人ニ通知ス停止期間ノ延長ヲ要スルニ至リタルトキ亦同シ

第五十五條 拂渡郵便局所ニ於テ資金缺乏ノ爲拂出證書ニ對スル拂渡ヲ停止スヘキ場合ト雖其ノ請求人前項ノ假拂ヲ受クルトキハ其ノ受領證ヲ差出シ且拂出證書ヲ呈示シテ假拂金ノ記入及殘額ニ對スル拂渡停止ノ證明ヲ受クヘシ

第五十六條 加入者又ハ受取人ニ於テ拂出證書ニ指定セル拂渡局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ拂出證書ノ記號番號、日附、金額及新舊拂渡郵便局所名等ヲ記載シタル拂渡局所變更請求書ニ料金トシテ證書一枚ニ付三錢ノ割合ニ依ル郵便切手ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ所屬ノ口座所管廳ニ送付スヘシ

通信官署ニ於テ拂渡局所ノ變更ヲ承認シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第五十七條 加入者及受取人ハ左ノ場合ニ於テ振替貯金拂出證書ノ再度交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ證書一枚ニ付料金三錢ヲ納付スヘシ

一 拂出證書亡失シタルトキ

二 拂出證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三 拂出證書有効期間ヲ經過シタルトキ

第五十八條 加入者又ハ受取人拂出證書ノ再度交付ヲ請求セムトスルトキハ證書ノ記號番號、日附、金額、加入者ノ口座番號、氏名及請求ノ事由等ヲ記載シタル請求書ニ料金ニ相當スル郵便切手ヲ貼附シ署名捺印ノ上原證書アルモノハ之ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ

前項ノ請求ニ對シテハ口座所管廳ニ於テ原證書ニ對シテ未タ拂渡ヲ爲ササルコトヲ確メタル上再度振替貯金拂出證書ヲ發行シ書留郵便ニ依リ之ヲ請求人ニ送達ス

第五十九條 再度振替貯金拂出證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス

第六十條 加入者拂出金戻入ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ拂込書ノ金額ノ下部餘白ニ「戻入」ノ文字ヲ記載スルノ外總テ證券ニ依ル拂込ト同様ノ手續ヲ爲スヘシ但シ證書亡失シタルモノ及毀損汚斑シテ不判明トナリタルモノハ別ニ證書ニ表示セル事項ヲ記載シタル戻入請求書ヲ拂込書ニ添屬スヘシ

拂出金ノ戻入ハ之ヲ拂込ト看做シ取扱フ

第五節 局待拂

第六十一條 臺灣總督府通信局ニ屬スル加入者ハ臺北郵便局ニ於テ郵便貯金局ニ屬スル加入者ハ東京郵便局ニ於テ大阪郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ大阪郵便局ニ於テ又統監府通信管理局ニ屬スル加入者ハ京城郵便局ニ於テ指定受取人ヲシテ即時現金ノ拂渡ヲ受ケシムヘキ局待拂拂出書ヲ振出スコトヲ得

第六十二條 加入者局待拂拂出書ヲ振出サムトスルトキハ局待拂拂出書用紙ニ相當事項ヲ記載ス

名捺印シ且金額ノ總額ヲ豫防スル爲拂出書用紙ニ設備セル數字ニ依リ拂出金額ノ圓位以上ヲ再示シ直接之ヲ受取人ニ交付スヘシ

第六十三條 局待拂出書ニ對スル現金ヲ受領セムトスル者ハ拂出書ノ裏面ニ署名捺印シ之ヲ指定郵便局ニ差出スヘシ

局待拂出書ニ對シテハ指定郵便局ニ於テ振出加入者ノ氏名印影及貯金高等ヲ調査シタル上受取人ニ即時現金ノ交付ヲ爲ス

第六十四條 局待拂出書ニシテ其ノ振出ノ日附ヨリ起算シ七日間ヲ經過シタルモノハ郵便局ニ於テ之ヲ受理セス

第四章 異動變更

第六十五條 本章ノ規定ニ依リ加入者ヨリ差出スヘキ各種ノ異動變更ニ關スル居書ニハ口座番號ヲ附記シ署名捺印シ且關係人アルトキハ之ニ連署スヘシ

關係人死亡又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサルトキハ戶籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添附シ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第六十六條 加入者又ハ其ノ他ノ關係人氏名ヲ變更シタルトキハ加入者ニ於テ其ノ居書ニ氏名變更ノ事實ヲ證明スヘキ戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第六十七條 加入者若シテ其ノ他ノ關係人氏名ヲ變更シタルトキハ加入者ニ於テ其ノ居書ニ氏名變更ノ事實ヲ證明スヘキ戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第六十八條 加入者若シテ別名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ所屬ノ口座所管廳ニ届出ツ

第六十九條 加入者其ノ代表者參加署名人若ハ代理署名人ヲ變更シ又ハ新ニ參加署名人若ハ代理署名人ヲ設ケタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ所屬ノ口座所管廳ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ口座所管廳ニ於テ印鑑票用紙ヲ請求人ニ送付ス請求人前項印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ第十六條ノ例ニ依リ新ニ印鑑票ヲ調製シ差出スヘシ

第七十條 加入者參加署名人又ハ代理署名人ヲ廢シタルトキハ其ノ届書ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第七十一條 加入者又ハ其ノ他ノ關係人印章ヲ改メタルトキハ印鑑票用紙ノ交付ヲ所屬ノ口座所管廳ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且拂出書用紙又ハ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ヲ呈示シ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ

第六十九條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條 郵便振替貯金ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ讓渡スコトヲ得

第七十三條 郵便振替貯金ノ讓渡ハ口座所管廳ニ於テ當該口座ノ名義ヲ書替ヘタル時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

第七十四條 郵便振替貯金ノ讓受人ハ當該口座ニ對スル未納料金ノ納付其ノ他讓渡人ノ通信官署ニ對スル一切ノ義務ヲ承繼スルコトヲ要ス

第七十五條 郵便振替貯金ヲ讓渡サムトスルトキハ加入者ニ於テ讓受人ノ連署シタル振替貯金讓渡請求書ヲ作製シ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第七十六條 口座所管廳ニ於テ前條ノ請求ヲ承認シタルトキハ料金一圓ヲ徴收シタル上當該口座ノ名義ヲ書換ヘ其ノ旨ヲ前加入者及讓受人ニ通知シ且讓受人ニ對シテハ印鑑票用紙ヲ送付ス讓受人前項印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ第十六條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十七條 相續ニ依リ振替貯金ヲ承繼シタル者ハ速ニ口座ノ名義書換ヲ所屬ノ口座所管廳ニ請

求スヘシ

第七十八條 相續人口座ノ名義書換ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ相續ノ事實ヲ證明スヘキ戸籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添ヘ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ但シ被相續人現ニ生存スル場合又ハ他ニ同順位ノ相續人アル場合ニ於テハ被相續人又ハ同順位ノ相續人請求書ニ連署スヘシ前項ノ場合ニ於テ郵便局所ノ承認スル保證人ヲ立ツルトキハ戸籍ニ依ル證明又ハ關係人ノ連署ヲ省略セシムルコトアルヘシ

第七十九條 口座所管廳ニ於テ相續ニ依リ口座ノ名義ヲ書換ヘタルトキハ其ノ旨ヲ相續人ニ通知シ且印鑑票用紙ヲ送付ス
相續人前項印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ第十六條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五章 脱退及除名

第八十條 加入者振替貯金ヨリ脱退セムトスルトキハ脱退請求書ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出ス

加入者前項ノ請求ヲ爲セル後ハ貯金ノ振替現金拂ノ請求及局待拂出書ノ振出ヲ爲スコトヲ得ス

第八十一條 口座所管廳ニ於テ加入者ヨリ脱退ノ請求ヲ受ケタルトキハ當該口座ヲ決算シ基本預金及貯金殘高ニ對シテハ振替貯金拂出證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

前項貯金殘額一圓以上ナルトキハ第二十八條第二項ノ割合ニ依ル料金を徴收ス但シ其ノ殘額十圓ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對シ五百圓迄毎ニ金十五錢ヲ加徴ス

第八十二條 貯金現在高ナクシテ拂出書ヲ振出シ又ハ振替貯金事業ノ信用ヲ害スル虞アリト認めタル加入者ニ對シテハ口座所管廳ニ於テ其ノ加入承認ヲ取消スコトアルヘシ加入者料金ノ納付ヲ怠リタル場合亦同シ

附則
本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(附録離形)

振替貯金

拂込票				監査票			
姓名 住所 氏名	加入者 姓名	口座 番号	※	姓名 住所 氏名	加入者 姓名	口座 番号	局 所印
※	※	※	※	一金			
口座 所管 日付	局付 受印				局付 受印		受付 番號
府督總海臺							

※印を附シある部は拂込人にて記載せらるヘシ

書 込 拂

票 領 受				票 知 通 込 拂			
名 人 拂 込 氏	一 金	名 者 加 氏 入	番 口 號 座	名 所 人 拂 込 氏 住 込	※ 一 金	名 者 加 氏 入	番 口 號 座
			所 局 付 受 印 附 日				所 局 付 受 印 附 日
				口 座 所 附 日 印			
				府 督 總 貯 金			

※印を附しある部は拂込人に於て記載せらるべし

用紙 西洋紙 縦五寸三分横一尺一寸
 寸法 縦五寸三分横一尺一寸
 印刷 藍色 又は赤色 又は黒色
 振替貯金券は通知票裏面

欄 載 記 文 信 通

--

○臺灣總督府令第十九號(官報三月三十一日)
 明治三十七年十一月府令第八十五號電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス
 本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

東港 嘉義間	五十錢	東港 橋仔頭間	三十錢
東港 新營庄間	四十錢	東港 打狗間	二十錢
東港 新港間	四十錢	東港 鹽寮間	二十錢
東港 海裡間	四十錢	東港 鳳山間	二十錢
東港 臺南間	三十五錢	東港 阿猴間	十五錢

○關東都督府令第二號(官報三月三日)
 關東都督府通信官署徽章通信日附印及郵便切手類摸造取締規則左ノ通定ス
 明治四十三年二月十九日

關東都督府通信官署徽章通信日附印及郵便切手類摸造取締規則
 第一條 關東都督府通信官署徽章ハ關東都督ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス
 第二條 關東都督府通信官署ニ於テ使用スル通信日附印ニ紛ハシキ印影ヲ描出スヘキモノ又ハ之

ニ紛ハシキ印影ヲ有スルモノハ關東都督ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造、販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得ス

第三條 未使用又ハ使用済ノ帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行ニ係ル現行郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノハ關東都督ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ印刷、製造、販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得ス

第四條 第一條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス

第二條及第三條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本規則ハ明治四十三年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第三號(官報 三月十八日)

地方費ヲ以テ支辨スル經費ノ一部ハ渡切トナシ其ノ部局及種目ハ別ニ之ヲ定ム

前項ノ經費渡切手續ニ付テハ明治四十年八月府令第四十三號警察官署經費渡切規則ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年三月十一日

關東都督 子爵大島義昌

○統監府令第六號(官報 四月二日)

明治四十一年府令第三十三號郵便私書函使用規則中左ノ通改正ス

明治四十三年三月二十六日

統監 子爵曾禰荒助

第七條 私書函使用料ハ一箇年ヲ左ノ四期ニ分チ之ヲ前納スヘシ但シ使用者官公署ナルトキハ之ヲ後納ト爲スコトヲ得

第一期 自六月三十日

第二期 自七月三十一日

第三期 自十二月三十一日

第四期 自三月三十一日

前項ノ使用料ハ私書函番號及其ノ使用期間ヲ記載シタル使用料納付書ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ當該郵便局所ニ差出スヘシ

第九條 第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ算出上一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

統監府令第三十三號郵便私書函使用規則(明治四十一年九月二十六日抄録)

第七條 私書函使用料ハ一箇年ヲ左ノ四期ニ分チ其ノ一期分ヲ前納スヘシ但シ當該會計年度ニ屬スル使用料二期分以上ヲ一時ニ前納スルコトヲ得

第一期 自六月三十日

第二期 自七月三十一日

第二期 自九月三十日

第三期 自二月三十一日

第四期 自三月三十一日

第四期 自三月三十一日

前項ノ使用料ハ使用者官公署ナルトキハ之ヲ後納トスルコトヲ得

第九條 第一項

期間ノ中途ニ於テ私書函ノ使用ヲ始ムルモノハ其ノ期間ニ限リ月割額ヲ以テ使用料ヲ徴收ス

○統監府令第七號(官報 四月五日)
明治四十二年統監府令第六十九號郵便振替貯金規則中左ノ通改正ス

明治四十三年三月三十日

統監 子爵曾禰荒助

第二十八條 郵便振替貯金ノ受拂ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ料金ヲ徵收ス

一 振替貯金ノ拂込金ニ對シテハ拂込ノ際一口ノ金高ニ應シ左ノ割合ニ依ル料金ヲ郵便切手ヲ

以テ當該拂込人ヨリ徵收ス但シ韓國口座ノ加入者ニ限リ自己ニ拂込マルヘキ振替貯金ニ對スル本料金ヲ一箇月分宛取繼メ自己ノ貯金ヨリ控除徵收ノ請求ヲ爲スコトヲ得

- 一圓迄 一錢
 - 五圓迄 二錢
 - 十圓迄 四錢
 - 五十圓迄 六錢
 - 百圓迄 八錢
 - 五百圓迄 十錢
 - 千圓迄 十二錢
 - 五千圓迄 十四錢
 - 一萬圓迄 十六錢
- 一萬圓ヲ超ニルトキハ其ノ超過額一萬圓迄毎ニ四錢ヲ加徵ス
- 二 振替貯金ノ口座ニ對シテ拂込金ノ受入ヲ爲シタルトキハ一口ニ付一錢又振替ニ依ル受拂ヲ爲シタルトキハ其ノ受入又ハ拂出各一口ニ付二錢ノ割合ニ依ル料金ヲ一箇月分宛取繼メ當該加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ス
- 三 現金拂渡ノ爲ニスル振替貯金ノ拂出ニ對シテハ一口ノ金高ニ應シ左ノ割合ニ依ル料金ヲ拂

出ノ際當該加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ス

- 十圓迄 五錢
- 五十圓迄 十錢
- 百圓迄 十五錢
- 二百圓迄 二十錢
- 三百圓迄 二十五錢
- 四百圓迄 三十錢
- 五百圓迄 三十五錢
- 六百圓迄 四十錢
- 八百圓迄 四十五錢
- 千圓迄 五十錢

帝國國庫金受拂ノ爲ニスル振替貯金ノ取扱ニ對シテハ前項ノ料金ヲ徵收セス
第三十四條第二項中「手續ヲ爲シ其ノ下ニ」拂込料金及「ヲ加フ」

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

統監府令第六十九號郵便振替貯金規則(明治四十二年十一月十一日官報抄録)
第二十八條 郵便振替貯金ノ口座ニ對シテ拂込金ノ受入又ハ振替ニ依ル受拂ヲ爲シタルトキハ左ノ割合ニ依ル料金ヲ一箇月分ヲ取繼メ徵收ス
一口座受入料 一口ニ付二錢
一口座拂出料 一口ニ付二錢
現金拂渡ノ爲ニスル振替貯金ヲ拂出ストキハ其ノ拂出ノ際左ノ割合ニ依ル料金ヲ徵收ス

十圓迄	五 錢
五十圓迄	十 錢
百圓迄	十五 錢
二百圓迄	二十 錢
三百圓迄	二十五 錢
四百圓迄	三十 錢
五百圓迄	三十五 錢
六百圓迄	四十 錢
八百圓迄	四十五 錢
千圓迄	五十 錢

帝國國庫金受拂ノ爲ニスル口座ニ對シテハ前二項ノ料金ヲ徵收セズ

第三十四條 加入者ハ郵便取立金ノ拂渡ヲ受テヘキ郵便局所ニ對シテ自己ノ口座ニ其ノ取立金ノ振替拂込ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ自己ノ口座ニ專用スヘキ拂込用紙ノ相當數量ヲ當該郵便局所ニ差出シ置クヘシ

前項ノ郵便局所ニ於テハ郵便取立金到着ノ際加入者ノ請求ヲ待タズ直ニ之ヲ當該口座ニ振替拂込ノ手續ヲ爲シ其ノ取立金送達料ハ所屬ノ口座所管職ニ於テ償取加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ス

○統監府令第八號(官報四月五日)

日清郵便規則左ノ通定ス

明治四十三年三月三十日

統監 子爵曾禰荒助

第一章 總則

第一條 日本、在清國日本郵便官署(通稱省所管ノモノ)區内及關東都督府管内ニ宛テ又ハ日本、在清國日本郵便官署區内及關東都督府管内ヨリ著シタル郵便物ハ日清郵便物ト稱シ本規則ニ定ムルモノノ外郵便規則其ノ他内國郵便ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條 左記ノ物品ヲ日清郵便禁制品トス
一 内國郵便禁制品

二 關稅其ノ他ニ關スル法令ニ依リ輸出入ヲ禁スル物品
第三條 日本又ハ清國ニ於テ輸出入ヲ許ササル物品ハ輸出入ノ爲郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得ス

前項ノ物品ハ之ヲ告示ス
第四條 郵便物ニシテ關稅又ハ内國稅ヲ課スヘキモノハ小包郵便ニ依ルニ非サレハ之ヲ差出スコトヲ得ス

第五條 韓國政府ノ特許ヲ要スル紅蔘及其ノ他ノ物件ヲ郵便物トシテ差出ストキハ其ノ特許證又ハ特許證ノ謄本ヲ呈示シ郵便官署ノ承認ヲ受クヘシ若シカ承認ナキモノヲ郵便官署ニ於テ發見スルトキハ其ノ輸出前ニ係ルモノハ之ヲ差出人ニ還付シ其ノ輸出後ニ係ルモノハ韓國稅關ヨリ郵便官署ニ返付セラレタル場合ニ限リ之ヲ差出人ニ還付ス

第二章 郵便物ノ種別

第一節 通常郵便物
第六條 在清國日本郵便官署區内又ハ關東都督府管内(關東州租借地ヲ除ク)ヨリ著シタル郵便葉書ハ郵便規則ニ定ムル條件ヲ具備セザルモ萬國郵便條約ニ定ムル條件ヲ具備スルトキハ之ヲ第二種郵便物トシテ取扱フ

第二節 小包郵便物

- 第七條 小包郵便物ハ重量一貫五百匁ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第八條 小包郵便物ハ價格表記ノ取扱ヲ爲スモノノ外書留小包郵便物トシテ之ヲ取扱フ
- 第九條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

二百匁迄	四百匁迄	六百匁迄	九百匁迄	一貫二百匁迄	一貫五百匁迄
三十 錢	三十五 錢	四十 錢	五十 錢	六十 錢	七十 錢

第十條 小包郵便物ノ差出人ハ其ノ包有品ノ名稱數量及價格ヲ品種別ニ送票ニ記載スヘシ

第三章 郵便物ノ特殊取扱

第十一條 在清國日本郵便官署區内ニシテ郵便官署所在地ニ鄰接セサル地又ハ關東都督府管内ニ宛テタル郵便物ハ別配達ト爲スコトヲ得ス

第十二條 別配達小包郵便物ニシテ關稅又ハ内國稅ヲ課シタルモノニ付テハ其ノ到着通知書ノ別配達ヲ爲ス

第十三條 小包郵便物ノ價格表記料ハ左ノ如シ

通貨 表記金額十圓迄毎ニ 金十錢
其ノ他ノ物品表記金額十圓迄毎ニ 金五錢

第十四條 關稅又ハ内國稅ヲ課シタル代金引換小包郵便物ノ留置期間ハ關稅又ハ内國稅ノ納付期間ニ依ル

第四章 郵便物ノ交付

第十五條 特ニ指定シタル在清國日本郵便官署所在地宛郵便物ハ總テ當該官署ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

前項ノ留置期間ハ三十日トス

第五章 郵便物ノ轉送還付

第十六條 内國郵便物、外國郵便物又ハ日清郵便物ハ第二條乃至第五條及第七條ニ定ムル條件ヲ具備スルモノニ限リ韓國、日本、關東州租借地及在清國日本郵便官署區内又ハ關東都督府管内(關東州租借地ヲ除ク)ノ相互間ニ轉送又ハ還付スルコトヲ得

内國小包郵便物ニ付前項ノ轉送ヲ請求スルトキハ請求者ニ於テ第十條ニ定ムル事項ヲ關係郵便官署ニ告知スヘシ

第十七條 轉送又ハ還付ノ爲關稅又ハ内國稅ヲ課セララルルニ至リタル小包郵便物ニ關シテハ第七章ノ規定ヲ準用ス

第六章 郵便物ノ取戻若ハ名宛變更、代金引換ノ取消若ハ金額變更又ハ現金取立ノ取消

第十八條 郵便物ノ取戻若ハ名宛變更、代金引換ノ取消若ハ金額變更又ハ現金取立ノ取消ノ電信ニ依ル請求ニ關スル料金ハ左ノ如シ

郵便物ノ發着區間	郵便物ノ取戻又ハ代金引換若ハ現金取立	郵便物ノ名宛變更又ハ代金引換ノ金額變更
韓國ト日本トノ間	一圓五十錢	二圓七十錢
韓國ト關東都督府管内芝罘、牛莊、天津及北京ノ各日本郵便局(支店)トノ間	五十錢	九十錢
內トノ間		
韓國下在清國日本郵便官署芝罘及牛莊ノ各局ヲ除ク(區内トノ間)	郵便物ノ名宛地宛私報ニ要スル料金實費	郵便物ノ名宛地宛私報ニ要スル料金實費

第七章 小包郵便物ノ通關

第十九條 日本、在清國日本郵便官署區内又ハ關東都督府管内宛小包郵便物ヲ差出ストキハ郵便官署ニ於テ其ノ郵便物包有品ノ價格ノ百分ノ五ニ當ル金額ヲ輸出稅トシテ韓國稅關ニ代リ徵收ス但シ條約其ノ他ノ規定ニ依ル免稅品及價格十圓未滿ノ包有品ニ對シテハ輸出稅ヲ徵收セス

第二十條 日本、在清國日本郵便官署區内又ハ關東都督府管内ヨリ到着ノ小包郵便物ニシテ關稅又ハ内國稅ヲ課シタルモノハ之ヲ郵便官署ニ留置キ到着通知書ヲ受取人ニ交付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ十日内ニ郵便官署ニ稅金ヲ納付シテ其ノ郵便物ヲ受取ルコトヲ得

第二十一條 關稅ヲ納付シテ韓國内ヨリ輸出シタル小包郵便物ヲ郵便ニ依リ返送セラレタル場合ニ於テ既納稅金ノ拂戻ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ郵便官署ニ差出スヘシ

第二十二條 關稅ヲ納付シテ韓國内ニ輸入シタル小包郵便物ヲ一般ノ貨物ニ關シ日韓條約ニ規定

スル期間内ニ郵便ニ依リ再輸出スル場合ニ於テ既納税金ノ拂戻ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ郵便官署ニ差出スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ小包郵便物ハ其ノ包裝原形ノ儘ナルコトヲ要ス

第二十四條 關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲ス者ハ同時ニ其ノ事由ヲ關係郵便官署ニ申出ツヘシ其ノ異議ノ判定アリタルトキハ其ノ書類ヲ該郵便官署ニ呈示スヘシ

第二十五條 前條ノ場合ニ於テ郵便物留置期間ノ經過ハ郵便官署ヘノ申出ヨリ異議ノ判定ノ確定迄之ヲ停止ス

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第九號(官報四月五日)

統監府中學校規則左ノ通定ム

明治四十三年三月三十日

統監 子爵曾禰亮助

統監府中學校規則

第一條 統監府中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 統監府中學校ニ第一部及第二部ヲ置ク

第三條 各部ノ修業年限ハ五箇年トス但シ二箇年以内ノ補習科ヲ置クコトアルヘシ

第四條 第一部ノ學科目及其ノ程度ハ明治三十四年文部省令第三號中學校令施行規則ノ定ムル所ニ依ル但シ外國語ハ英語トス

第五條 第二部ノ學科目及其ノ程度ハ第三學年以下ニ在リテハ前條ノ規定ニ依リ、第四學年以上ニ在リテハ學科目ハ修身、國語及漢文、英語、韓語、歷史、地理、理科、法制及經濟、實業要項、簿記、體操トシ其ノ程度ハ統監ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

第六條 補習科ノ學科目ハ各部ノ學科目中ニ就キ學校長之ヲ定ム

補習科ノ學科目ハ之ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得

第七條 教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ統監ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期	自四月一日	第二學期	自九月一日	第三學期	自一月一日
	至八月三十一日		至十二月三十一日		至三月三十一日

前二項ノ規定ハ補習科ニ適用セス

第九條 毎日ノ教授終始ノ時限ハ學校長之ヲ定ム

第十條 休業日左ノ如シ

一 祝日大祭日

一 日曜日

一 夏季休業日

一 冬季休業日

一 春季休業日

第十一條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常ノ變災アルトキハ學校長ハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ措置後直ニ其ノ事情ヲ具シ統監ニ報告スヘシ

第十二條 紀元節、天長節及二月一日ニハ職員及生徒ハ學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第十三條 生徒ノ服制ハ學校長之ヲ定ム

第十四條 學級ノ編制ニ關シテハ明治三十四年文部省令第三號中學校令施行規則第二十一條及第二十二條ヲ準用ス但シ文部大臣ノ職權ハ統監之ヲ行フ

第十五條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ關員アルトキハ臨時入學セシムルコトアルヘシ

前項ノ規定ハ補習科ノ生徒ニ適用セス

第十六條 第一學年ニ入學ヲ許スヘキ者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十二年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十七條 第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業セサル者ニ付テハ試験ニ依リテ其ノ學力ヲ檢定ス

第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許可ス尋常小學校ヲ卒業シタル者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ

第十八條 前條ノ試験ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ於テ之ヲ行フ但シ前條第三項ノ場合ニ於テハ統監ノ認可ヲ經テ一學科目又ハ數學科目ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リテ檢定ス

第二十條 補習科ニ入學ヲ許スヘキ者ハ中學校ヲ卒業シタル者タルヘシ

第二十一條 中學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一箇年以内ニ於テ入學ヲ志願シタルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限リ試験ニ依ラスシテ入學ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 生徒ノ入學ニ關シテハ學校長ハ第十五條乃至第二十一條ノ規定ニ依ルノ外志願者ノ身體及品行ヲ考查シテ之ヲ許否ヲ定ムヘシ

第二十三條 他ノ中學校ヨリ轉學ヲ志願スル生徒アルトキハ學校長ハ關員アル場合ニ限リ轉學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試験ヲ用井シテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第二十四條 第五學年ニハ第二十一條及第二十三條ニ依リ再入學又ハ轉學ヲ許可スルノ外新ニ生徒ノ入學ヲ許サス

第二十五條 第一部生徒ニシテ他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ承認ヲ與ヘ其ノ生徒ノ在學證明書及學業成績表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ

第二十六條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

第二十七條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第二十八條 學校長ハ全學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

學校長ハ補習科ヲ修了セリト認メタル者ニ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第二十九條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該ル者ヲ除名ス

一 性行不長ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
三 引續キ一箇年以上關席シタル者
四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇年以上關席シタル者
五 授業料ノ滞納二箇月以上ニ渉ル者

六 第三十條及學校長ノ定メタル細則ニ依リ入退學ノ手續ヲ履行セサル者

第三十條 生徒退學セムトスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第三十二條 授業料ハ一人一箇月金二圓トス

第三十三條 授業料ハ毎月十六日以後ニ於テ學校長ノ定ムル期日ニ之ヲ徵收ス

前項期日前ニ退學轉學スル者又ハ期日後ニ入學スル者ノ授業料ハ其ノ當日ニ之ヲ徵收ス

第三十四條 夏期休業日又ハ學校ノ都合ニ依リ休業引續キ一箇月ニ涉ルトキハ其ノ月ノ授業料ヲ徵收セス

十五日以前ニ退學轉學スル者又ハ十六日以後ニ入學スル者ノ授業料ハ其ノ月ニ限り半額ヲ徵收ス

第三十五條 生徒疾病又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ全月缺席シ若ハ第二十九條ニ依リ除名セラルルコトアルモ其ノ月ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

第三十六條 本令施行ノ爲必要ナル細則ハ學校長之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ施行ス

明治四十三年三月三十一日京城居留民團立京城中學校ニ在學スル生徒ハ之ヲ統監府中學校ニ引續キ相當學年ニ編入ス

○統監府令第十號(官報 四月六日)

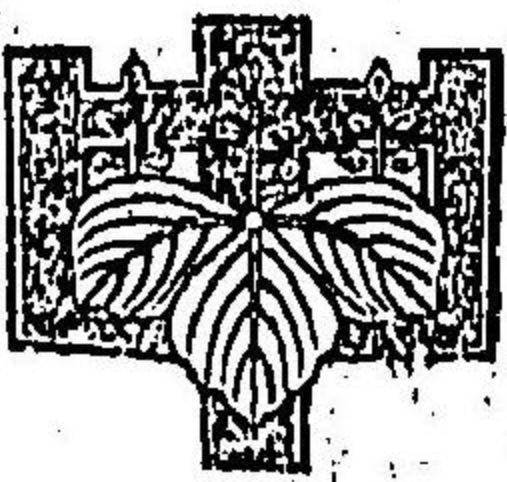
明治三十九年統監府令第二十三號統監府及所屬官署職員ノ襟章中左ノ通改正ス

明治四十三年三月二十日 一表中韓國政府僱聘職員ノ次ニ左ノ如ク加フ

統監 子爵會禰荒助

統監府中學校職員 一 金色(中)字ノ中部ニ銀色桐華ヲ附シタル
一 襟章圖中韓國政府僱聘職員ノ次ニ左ノ如ク加フ

統監府中學校職員



附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第十一號(官報 四月六日)

明治四十年統監府令第十三號ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

統監 子爵會禰荒助

〔參照〕

明治四十年(三月二十九日)統監府令第十三號ハ統監府及所屬官署職員ノ加俸額ニ關スル件ナリ

○統監府令第十二號(官報 四月六日)

明治四十二年統監府令第四十七號中第一項ヲ左ノ通改ム

統監府監獄職員中委任待遇者ノ加俸額ハ本俸ノ十分ノ五、判任待遇者ノ加俸額ハ本俸ノ十分ノ八トス但シ六級俸以下ノ判任待遇統監府教師、統監府教師及統監府藥劑師ハ十八圓トス

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十三年三月三十一日

統監 子爵曾禰荒助

〔参照〕

統監府令第四十七號明治四十二年一月二十三日(抄録)

第二項

委任及判任待遇統監府監獄職員ノ加修限ニ付テハ明治四十年統監府令第十三號第一條ノ規定ヲ準用ス但シ六級俸以下ノ判任待遇統監府教師統監府教師及統監府藥劑師ハ十八圓トス

○統監府令第十三號(官報 四月十六日)

韓國内發著小包郵便物ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十三年四月九日

統監 子爵曾禰荒助

韓國内發著小包郵便物ニ關シテハ左記事項ノ外内國郵便ニ關スル規定ニ依ル

- 一 小包郵便物ハ價額表記ノ取扱ヲ爲スモノノ外書留小包郵便物トシテ之ヲ取扱フ
- 二 小包郵便物ノ重量ハ一貫五百匁ヲ超過スルヲ得ス
- 三 小包郵便物ノ料金左ノ如シ
同一郵便區内 五 錢
同一郵便區外 二百匁迄 四百匁迄 六百匁迄 九百匁迄 一貫二百匁迄 一貫五百匁迄
十 錢 十五 錢 二十 錢 三十 錢 四十 錢 五十 錢
- 四 小包郵便物ノ郵便局所ニ於ケル留置期間ハ十日トス但シ交通不便ノ地ニ宛テタルモノニ限リ特ニ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ
- 五 郵便所郵便區内ニ宛テタル小包郵便物ハ最寄郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ俟テ之ヲ交付ス差出人ニ郵便物ヲ還付スル場合亦同シ
- 六 郵便法第三十三條ニ依ル郵便物損害賠償ノ金額左ノ如シ

小包郵便物ヲ亡失又ハ毀損ノトキハ一箇ニ付重量百匁又ハ其ノ端數毎ニ金二十錢トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第十四號(官報 四月二十三日)

明治四十三年法律第四十號ニ依リ管轄權ヲ有スヘキ統監府裁判所ヲ左ノ通定ム

明治四十三年四月十六日

統監 子爵曾禰荒助

一 咸興地方裁判所清津支部

一 京城控訴院

○統監府令第十五號(官報 四月二十九日)

統監府判事統監府檢事特別任用試験規則左ノ通定ム

明治四十三年四月二十二日

統監 子爵曾禰荒助

統監府判事統監府檢事特別任用試験規則

第一條 統監府判事、統監府檢事特別任用試験ハ、明治四十二年勅令第二百五十五號附則第三項ニ揭ケタル資格アル者ニ就キ之ヲ行フ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

一 懲役、禁錮又ハ舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

第三條 統監府判事、統監府檢事特別任用試験ハ、統監府判事、統監府檢事特別任用試験委員之ヲ行フ

第四條 試験ノ期日及場所ハ統監府司法廳長官之ヲ定メ官報及統監府公報ヲ以テ之ヲ公告ス

第五條 試験委員ハ十八人以上トシ中一ハシ委員長トス

第六條 委員長及委員ハ統監府司法廳高等官及統監府判事、統監府檢事ノ中ヨリ試験舉行毎ニ統

監之ヲ命ス

試験委員附屬ノ書記ハ統監府司法廳屬又ハ統監府裁判所書記ノ中ヨリ試験舉行毎ニ統監府司法廳長官之ヲ命ス

第七條 委員長ハ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス

第八條 試験志願者ハ志願書ニ左ノ書面ヲ添ヘ之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ

一 履歷書

二 受験資格ニ關スル證明書

第九條 試験志願者ハ手数料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ但シ其ノ手数料ハ收入印紙ヲ用非之ヲ志願書ニ貼付スヘシ

手数料ハ志願書ヲ取下ケ又ハ試験ヲ受ケサルトキト雖之ヲ還付セズ

第十條 試験ヲ受ケムトスル者ニハ先ツ身體検査ヲ行ヒ其ノ合格者ニ就キ學術試験ヲ行フ

第十一條 學術試験ハ筆記、口述ノ二種トス

口述試験ハ筆記試験ニ合格シタル者ニ限り之ヲ行フ

第十二條 筆記試験ハ憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、行政法及國際法ノ各科目ニ就キ之ヲ行フ

口述試験ハ前項ノ科目中二科目以上ニ就キ之ヲ行フ

第十三條 試験合格者ノ氏名ハ官報及統監府公報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十四條 委員長ハ試験ノ結果ヲ統監ニ報告スヘシ

第十五條 委員長、委員及附屬ノ書記ニハ手當ヲ給ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第十六號(官報四月二十九日)
韓國人辯護士試験規則左ノ通定ム

明治四十三年四月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

韓國人辯護士試験規則

第一條 韓國人辯護士試験ハ韓國人辯護士試験委員之ヲ行フ

第二條 試験ノ期日及場所ハ統監府司法廳長官之ヲ定メ統監府公報及韓國ノ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三條 韓國人ニシテ試験ヲ受ケムトスル者ハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ帝國又ハ韓國ノ學校ニ於テ三學年以上法律學科ヲ修メタル者タルコトヲ要ス

第四條 辯護士規則第四條ニ該當スル者ハ試験ヲ受ケルコトヲ得ス

第五條 試験委員ハ十八人以上トシ中一人ヲ委員長トス

第六條 委員長及委員ハ統監府司法廳高等官及統監府判事、統監府檢察ノ中ヨリ試験舉行毎ニ統監之ヲ命ス

試験委員附屬ノ書記ハ統監府司法廳屬又ハ統監府裁判所書記ノ中ヨリ試験舉行毎ニ統監府司法廳長官之ヲ命ス

第七條 委員長ハ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス

第八條 試験志願者ハ志願書ニ左ノ書面ヲ添ヘ之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ

一 履歷書

二 受験資格ニ關スル證明書

第九條 試験志願者ハ手数料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ但シ其ノ手数料ハ收入印紙ヲ用非之ヲ志願書ニ貼付スヘシ

手数料ハ志願書ヲ取下ケ又ハ試験ヲ受ケサルトキト雖之ヲ還付セス
第十條 試験ハ筆記、口述ノ二種トス

口述試験ハ筆記試験ニ合格シタル者ニ限り之ヲ行フ
第十一條 筆記試験ハ民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、行政法及國際法ノ各科目ニ就キ之ヲ行フ

口述試験ハ前項ノ科目中三科目以上ニ就キ之ヲ行フ

第十二條 試験合格者ノ氏名ハ統監府公報及韓國官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十三條 試験合格者ニハ合格證書ヲ授與ス

第十四條 委員長ハ試験ノ結果ヲ統監ニ報告スヘシ

第十五條 委員長、委員及附屬ノ書記ニハ手當ヲ給ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第二十號（官報四月九日）

明治三十七年十一月府令第八十五號電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年三月二十七日

水返脚頂雙溪間	二十五錢	水返脚淡水間	二十錢
水返脚基隆間	二十五錢	水返脚三角湖間	二十五錢
水返脚金包里間	二十五錢	水返脚桃園間	二十五錢
水返脚燕北間	二十五錢	水返脚大嶺間	三十五錢
水返脚新店間	二十五錢		
		臺灣總督 伯爵佐久間左馬太	
			錢 錢 錢 錢

○臺灣總督府令第二十一號（官報四月九日）

明治三十七年七月府令第五十七號臺北仁濟院、臺南慈惠院及澎湖普濟院規則中左ノ通改正ス

明治四十三年三月二十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺北仁濟院、臺南慈惠院及澎湖普濟院規則ヲ臺灣慈惠院規則ニ改ム

第一條 各院ノ名稱、位置及設立區域左ノ如シ

名稱	位置	設立區域
臺北仁濟院	臺北大加蚋堡龍脚	臺北廳、宜蘭廳、桃園廳、新竹廳
臺南慈惠院	臺南鳳凰南市	臺南廳、阿緬廳、臺東廳、花蓮港廳
澎湖普濟院	澎湖廳東西澳宮街	澎湖廳
彰化慈惠院	臺中廳東榮彰化街	臺中廳、南投廳
嘉義慈惠院	嘉義廳嘉義西榮嘉義街	嘉義廳

附則

明治三十七年七月府令第五十八號明治三十九年十月府令第六十二號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

臺灣總督府令第五十七號臺北仁濟院、臺南慈惠院及澎湖普濟院規則明治三十七年七月九日官報抄錄
第一條 各院ノ位置及設立區域左ノ如シ

臺北仁濟院	北臺北廳	基隆廳	宜蘭廳	深坑廳	桃園廳	新竹廳
臺南慈惠院	南臺南廳	臺東廳	鳳山廳	阿緬廳	恒春廳	臺東廳
澎湖普濟院	宮澎湖廳					

明治三十七年七月九日官報抄錄
臺灣總督府令第五十八號彰化慈惠院開設ノ件、同三十九年十月十六日官報抄錄
同第六十二號八嘉
推恩慈惠院開設ノ件ナリ

○臺灣總督府令第二十二號(官報四月九月)
明治四十三年三月三十一日

臺灣總督 伯露佐久間左馬太

第二十八條 振替貯金ノ受拂ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ料金ヲ徵收ス

一 振替貯金ノ拂込ニ對シテハ拂込ノ際一口ノ金高ニ應シ左ノ割合ニ依ル料金ヲ郵便切手ヲ以テ當該拂込人ヨリ徵收ス

- 一 圓迄 一 錢
 - 五 圓迄 二 錢
 - 十 圓迄 四 錢
 - 五十圓迄 六 錢
 - 百 圓迄 八 錢
 - 五百圓迄 十 錢
 - 千 圓迄 十二 錢
 - 五千圓迄 十四 錢
 - 一萬圓迄 十六 錢
- 以上一萬圓迄ヲ増ス毎ニ料金四錢ヲ加徵ス
- 二 振替貯金ノ口座ニ對シ拂込金ノ受入ヲ爲シタルトキハ一口ニ付一錢又振替ニ依ル受拂ヲ爲シタルトキハ其ノ受入又ハ拂出各一口ニ付二錢ノ割合ニ依ル料金ヲ一箇月分ツツ取繼メ當該加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ス
- 三 現金拂渡ノ爲ニスル振替貯金ノ拂出ニ對シテハ一口ノ金高ニ應シ左ノ割合ニ依ル料金ヲ拂出ノ際當該加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ス

十 圓迄	五 錢
五十圓迄	十 錢
百 圓迄	十五 錢
二百圓迄	二十 錢
三百圓迄	二十五 錢
四百圓迄	三十 錢
五百圓迄	三十五 錢
六百圓迄	四十 錢
八百圓迄	四十五 錢
千 圓迄	五十 錢

國庫金受拂ノ爲ニスル振替貯金ノ取扱ニ對シテハ前項ノ料金ヲ徵收セシ
第三十四條第二項中「手續ヲ爲シ」ノ下ニ「拂込料金及」ヲ加フ

〔參照〕

臺灣總督府令第十八號郵便振替貯金規則(明治四十三年三月三十一日)抄錄
第二十八條 郵便振替貯金ノ口座ニ對シ拂込金ノ受入又ハ振替ニ依ル受拂ヲ爲シタルトキハ左ノ割合ニ依ル料金ヲ一箇月分ツツ取繼メ徵收ス

- 一 口座受入料 一口ニ付二錢
- 二 口座拂出料 一口ニ付二錢
- 現金拂渡ノ爲振替貯金ヲ拂出ストキハ其ノ拂出ノ際左ノ割合ニ依ル料金ヲ徵收ス
- 十 圓迄 五 錢
- 五十圓迄 十 錢
- 百 圓迄 十五 錢
- 二百圓迄 二十 錢

三百圓迄 二十五錢
 四百圓迄 三十錢
 五百圓迄 三十五錢
 六百圓迄 四十錢
 八百圓迄 四十五錢
 千圓迄 五十錢

國庫金受拂ノ爲ニスル口座ニ對シテハ前二項ノ料金を徴收セシメ
 第三十四條 加入者ハ郵便取立金ノ拂渡ヲ受クヘキ郵便局所ニ對シテ豫メ自己ノ口座ニ其ノ取立ヲ振替拂込ヲ請求スルコト
 ヲ得此ノ場合ニ於テハ自己ノ口座ニ專用スヘキ拂込書用紙ヲ相當枚數ヲ當該郵便局所ニ差出シ置クヘシ
 前項ノ郵便局所ニ於テハ郵便取立金到着ノ際加入者ノ請求ヲ待タズ直ニ之ヲ當該口座ニ振替拂込ノ手續ヲ爲シ其ノ取立
 金送附料ハ所屬ノ口座所管課ニ於テ當該加入者ノ貯金ヨリ控除徴收ス

○臺灣總督府令第二十三號(官報四月九日)

明治三十九年六月二十九日 臺灣總督府令第四十五號ハ臺灣特設電話加入規則ノ料金額ナリ

明治三十九年六月二十九日 臺灣總督府令第四十五號ハ臺灣特設電話加入規則ノ料金額ナリ

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

地名 電話交換
 料金額
 南 投 三十六圓

〔参照〕

明治三十九年六月二十九日 臺灣總督府令第四十五號ハ臺灣特設電話加入規則ノ料金額ナリ

○臺灣總督府令第二十四號(官報四月九日)

織物消費稅法施行規則左ノ通相定ム

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條 本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者ト稱スルハ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スルモノ

ノミヲ製造シ又ハ製造セムトスル者ヲ包含セス

第二條 織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所轄屬ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有シテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ販賣場ヲ定メ販賣場所轄屬ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其ノ居所所轄屬ニ其ノ旨申告スヘシ

第三條 製造場ハ其ノ敷地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得

第四條 織物製造者ハ製造場毎ニ製造場ノ圖面及製造用器具機械ノ目錄ヲ調製シ所轄屬ニ提出ス

第五條 織物製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ移轉先ノ所轄屬ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ販賣場ヲ定メ移轉先ノ

所轄屬ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有セサル者其ノ居所ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄屬ニ申

告スヘシ

第六條 織物製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ製造ニ著手スル毎ニ著手及終了ノ時期

ヲ豫メ所轄屬ニ申告スヘシ

第七條 第二條若ハ前條ニ依リ申告シタル事項又ハ第四條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載

シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄屬ニ申告スヘシ

第八條 織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄屬ニ申告スヘシ

織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡セムトスルトキハ讓受人ト連續シ所轄屬ニ申告スヘシ

第九條 織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄屬ニ申告ス

ヘシ

第十條 外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所轄廳ニ申告シ承認ヲ受クヘシ但シ輸出ノ目的ヲ以テ製造セラルル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄廳ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ所轄廳ハ承認ノ省略ヲ爲スコトヲ得製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄廳ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ所轄廳カ織物又ハ其ノ製品ノ運搬、搬置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非ラサレハ消費税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 消費税ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費税ノ免除ヲ得ムトスル者ハ輸出ノ際其ノ旨輸出港税關ニ申告スヘシ但シ郵便ニ依リ輸出スル場合ニ於テハ其ノ都度所轄廳ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

前項ニ依リ輸出シタル者其ノ織物又ハ其ノ物品ノ原料タル織物ニ付消費税ヲ納付シタルコトヲ證明スヘキ書類ヲ添付シ郵便ニ依リ輸出シタルモノハ所轄廳ニ其ノ他ハ輸出港税關ニ出願シタルトキハ消費税ニ相當スル金額ヲ交付ス但シ織物ニ印紙若ハ納稅濟證ヲ貼用シ又ハ納稅濟證印ノ押捺ヲ爲シタル織物ヲ輸出シタルモノニ付テハ消費税ヲ納付シタルコトヲ證明スルコトヲ要セス

第十二條 製造者ニシテ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスル者ハ所轄廳ノ承認ヲ受クヘシ

第十三條 織物消費税法第七條ニ依リ織物ヲ引取ラムトスル者ハ其ノ旨所轄廳ニ申告シ承認ヲ受クヘシ

第十四條 織物消費税法第九條第一項ニ依リ價格ノ申告ハ所轄廳ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ價格ニハ税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ル織物ニ付テハ輸入税額ヲ算入スヘシ

第十五條 織物消費税法第四條第一項但書ニ依リ織物ニ印紙ヲ貼用シテ消費税ノ納付ニ代ヘムトスル者ハ其ノ旨所轄廳ニ申告シ承認ヲ受クヘシ

第十六條 織物ニ印紙ヲ貼用スル場合ニ於テハ織物ニ其ノ價格及製造者住所氏名ヲ表記シ之ニ相當スル印紙ヲ貼用シ織物面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スヘシ但シ印紙貼用者ハ結目ナキ紙ヲ以テ紙片ヲ織物ニ縫著シ紙片ニ價格及住所氏名ヲ表記シ其ノ絲ノ結束シタル場所ニ相當印紙ヲ貼用シ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スルコトヲ得

第十七條 消費税ヲ納付シ又ハ消費税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル織物ニ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨所轄廳ニ申告スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄廳ハ織物又ハ織物ニ縫著シタル紙片ニ納稅濟ノ旨ヲ記載シタル切符ヲ貼付シ又ハ納稅濟ノ證印ヲ押捺スヘシ

前項ニ依リ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受ケタル織物ニ加工セムトスル場合ニ於テ所轄廳ノ承認ヲ受ケタルトキハ加工後更ニ納稅濟證印ノ押捺又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 金庫所在地以外又ハ金庫閉鎖後ニ於テハ收稅官吏ハ消費税金ノ領收ヲ爲スコトヲ得

第十九條 擔保物ノ種類ハ金錢及所轄廳ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル

第二十條 擔保トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄廳ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄廳ハ直ニ消費税ヲ徵收ス

第二十一條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費税納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費税免除ノ確

定シタルトキハ所轄廳ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ税金ニ充ツ
前項ノ場合ニ於テ擔保物有價證券ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充ツ
前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第二十三條 織物製造者又ハ織物消費稅法第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ハ少クトモ
左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三 製造シタル種類、數量及製造ノ日

四 他ニ引渡シタル種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十四條 織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル種類、數量、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 販賣シタル種類、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十五條 本令ニ依リ所轄廳ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケヘキ場合ニ於テ製造場ニ出張シタル
收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ廳ニ申告シ又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十六條 收稅官吏ハ織物ノ製造者、販賣者又ハ織物消費稅法第十三條但書ノ場合ニ於ケル製
品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十七條 本令中廳ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル織物ニ關シテハ稅關之ヲ
行フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法施行規則ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス
○臺灣總督府令第二十五號(官報四月十八日)
官設埤圳水利組合規則左ノ通相定ム

明治四十三年四月一日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

官設埤圳水利組合規則

第一條 官設埤圳ニ依ル水利ノ施設及官設埤圳ノ維持ヲ爲ス爲官設埤圳灌溉區域毎ニ水利組合ヲ
設置ス

水利組合ハ臺灣總督之ヲ設置ス

第二條 水利組合ハ官設埤圳規則第六條ニ依ル土地ノ業主、佃戶及典主ヲ以テ組合員トス

第三條 水利組合ノ設置アリタルトキハ廳長ハ組合員中ヨリ委員五名以上ヲ選任シ規約ヲ議定セ
シメ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 水利組合ハ臺灣總督府土木部長又ハ廳長ヲシテ之ヲ管理セシム

第五條 規約ニ定ムヘキ事項左ノ如シ

一 名稱及事務所

二 組合會ノ組織權限

三 費用ノ賦課徵收並收支ノ方法

四 夫役現品ノ賦課及其ノ代納ニ關スル規定

五 違約處分ヲ爲サムトスルトキハ之ニ關スル規定

六 前各號ノ外必要ナル事項

第六條 規約ヲ變更セムトスルトキハ組合會ノ議決ヲ經テ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ規約ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 水利組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ費用及夫役ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八條 水利組合ノ會計年度ハ臺灣總督府特別會計年度ニ依ル

管理者ハ每會計年度ノ歳入出豫算ヲ調製シ前年度二月末日限臺灣總督ノ認可ヲ受ケ其ノ決算ハ翌年度五月末日限臺灣總督ニ報告スヘシ

豫算ノ追加又ハ變更ハ其ノ都度臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ハ組合會ノ議決ヲ經テ其ノ承諾ヲ經ルヲ要ス

第九條 費用ヲ徵收スルトキハ管理者ニ於テ各納入ニ對シ納入告知書ヲ發シ其ノ納入アリタルトキハ領收證ヲ交付スヘシ但シ第二項ノ場合ハ街庄社區長ニ於テ領收證ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ費用徵收ニ關シテハ街庄社區長ニ其ノ事務ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ規約ノ定ムル所ニ依リ徵收金百分ノ三以內ヲ當該街庄社區長ニ交付スルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第二十六號(官報四月十八日)

明治三十四年四月府令第二十號官幣大社臺灣神社神職俸給規則中別表ヲ左ノ通改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ六級俸以下ノ俸給ヲ受クル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ六級又ハ月俸三十五圓ノ者ハ四十三圓七級又ハ月俸二十圓以下ノ者ハ現俸ニ七圓ヲ加ヘタル額月俸二十七圓以下ノ者ハ現俸ニ六圓ヲ加ヘタル俸給額ヲ受クルモノトス

明治四十三年四月一日 臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

(別表)

俸給表

官 司 廟 宜 主 典	年 俸	月 俸	俸
上級俸	下級俸	一級俸	二級俸
三級俸	四級俸	五級俸	六級俸
七級俸	八級俸	九級俸	十級俸
十一級俸	十二級俸		
千五百圓	千二百圓	九百圓	七百圓
六百圓	五百圓	四百圓	三百圓
二百圓	一百圓	五十圓	三十圓

○臺灣總督府令第二十七號(官報四月二十二日)

明治四十二年十月府令第七十八號地方法院及出張所管内登記所名稱位置管轄區域中名稱、位置ノ部「深坑」ヲ「新店」ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

明治四十三年四月十五日

○臺灣總督府令第二十八號(官報四月二十七日)

明治三十七年十一月府令第八十五號電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス

本令ハ明治四十三年四月十九日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

明治四十三年四月十七日

草鞋敷北間	草鞋敷南間	草鞋敷西間	草鞋敷東間	草鞋敷里間	草鞋敷林間	草鞋敷竹間	草鞋敷花間	草鞋敷鹿間	草鞋敷員林間	草鞋敷北斗間
六十錢	三十錢	二十五錢	二十五錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十五錢
草鞋敷北間	草鞋敷南間	草鞋敷西間	草鞋敷東間	草鞋敷里間	草鞋敷林間	草鞋敷竹間	草鞋敷花間	草鞋敷鹿間	草鞋敷員林間	草鞋敷北斗間
二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十五錢

草鞋藪溪洲庄間	二十五錢	埔里社彰化間	三十錢	西螺新營庄間	二十五錢	西螺北港間	二十五錢
南投鹿港北間	六十五錢	埔里社鹿港間	三十五錢	西螺北港南間	二十五錢	西螺鹿港間	二十五錢
南投苗粟間	三十五錢	埔里社北港間	三十五錢	西螺鹿港北間	二十五錢	西螺彰化間	二十五錢
南投葫蘆墩間	三十五錢	埔里社溪洲庄間	三十五錢	西螺彰化中間	二十五錢	西螺彰化南間	二十五錢
南投彰化間	三十五錢	埔里社北港南間	三十五錢	西螺彰化北間	二十五錢	西螺彰化北港間	二十五錢
南投林圯埔間	三十五錢	埔里社溪洲庄南間	三十五錢	西螺彰化北港北間	二十五錢	西螺彰化北港南間	二十五錢
南投鹿港南間	三十五錢	埔里社溪洲庄北間	三十五錢	西螺彰化北港北港間	二十五錢	西螺彰化北港北港南間	二十五錢
南投員林間	三十五錢	埔里社溪洲庄南港間	三十五錢	西螺彰化北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港間	二十五錢
南投北港間	三十五錢	埔里社溪洲庄南港北間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港間	二十五錢
南投溪洲庄間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投苗粟南間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投苗粟北間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投溪洲庄南間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投苗粟南港間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投苗粟北港間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投溪洲庄北間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投苗粟南港北間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投苗粟北港北間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北港間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投溪洲庄北港間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投苗粟南港北港間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北港北港間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投苗粟北港北港間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投溪洲庄北港北間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北港北港北港間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港間	二十五錢
南投苗粟南港北港北間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北港北港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢
南投苗粟北港北港北間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	二十五錢
南投溪洲庄北港北港北間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北間	二十五錢
南投苗粟南港北港北港北間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北間	二十五錢
南投苗粟北港北港北港北間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北間	二十五錢
南投溪洲庄北港北港北港北間	二十五錢	埔里社溪洲庄南港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北港北間	三十五錢	西螺彰化北港北間	二十五錢	西螺彰化北港北間	二十五錢

○臺灣總督府令第二十九號(台報 四月二十七日)
臺灣小學校兒童身體檢查規程左ノ通相定ム
明治四十三年四月十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣小學校兒童身體檢查規程
第一條 小學校ニ於テハ學校醫ヲシテ毎年四月十月ノ二回兒童ノ身體檢查ヲ施行セシムヘレ
第二條 身體檢查ハ左ノ各號ニ就キ施行スヘシ

- 一 身長
- 二 體重
- 三 胸圍
- 四 脊柱
- 五 體格
- 六 眼疾
- 七 耳疾
- 八 齒牙
- 九 疾病

前項ノ外身體檢查上必要ト認メタル事項ハ特ニ檢查ヲ行フヘシ
十月ニ於テ施行スル檢查ニ在リテハ身長體重及疾病ノ三號ニ止ムルコトヲ得
第三條 身體檢查ヲ施行シタルトキハ別記第一號樣式ニ依リ身體檢查票ヲ調製スヘシ
第四條 身體檢查ヲ施行シタルトキハ學校長ハ別記第二號樣式ニ依リ統計表ヲ調製シ翌月内ニ廳長ニ報告スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)
(第一號樣式)

何小學校兒童身體檢查票		名 氏			月 年 生		
檢查時年齡	年 月	年 月	年 月	月	年	月	生
身 長							
體 重							
胸 圍							
脊 柱							
體 格							
眼 疾							
耳 疾							
齒 牙							
疾 病							
檢 查 年 月	明治	年	月				
檢 查 醫 生							
備 考							

一 身長及胸圍ハ「センチメートル」體重ハ「キログラム」ヲ以テ一位トシ以下四捨五入法ヲ用非テ小數二位ヲ作ルヘシ

(第二號樣式)

何小學校兒童身體檢查統計表(男女)										期 別		年 月 檢 査				
年 齡	身 長		體 重		胸 圍		脊 柱		體 格		眼 疾	耳 疾	齒 疾	疾 病	員 人 總 數	備 考
	最 大	最 小	最 大	最 小	最 大	最 小	最 大	最 小	最 大	最 小						
何 年																
何 年																
平 均																
最 大																
最 小																

一 本表ノ年齡ニ於テ何年ト稱スルハ一箇月ヨリ十二箇月ニ至ル迄ヲ云フ例ヘハ七年ト稱スルハ六年一箇月以上滿七年迄ヲ指スカ如シ

二 脊柱ハ正、左彎、右彎、後屈及前彎ニ區別シ記入スヘシ

三 體格ハ強健、中等及薄弱ノ三等ニ區別シ記入スヘシ

四 齒牙ハ齲齒ノ有無ヲ記入スヘシ

五 疾病ハ現在ノ疾病ヲ記入スヘシ

六 本票ハ各兒童在學中一票ニ記入シ得ル様之ヲ調整スヘシ

○臺灣總督府令第三十號(官報四月二十七日)
臺灣小學校兒童身體檢查規程左ノ通相定ム

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣公學校兒童身體檢查規程

公學校ニ於テ兒童身體檢查ヲ施行スルトキハ明治四十三年四月府令第二十九號臺灣小學校兒童身體檢查規程ニ依ルヘシ但シ女兒ニ關シテハ第二條身體檢查事項ニ「天然足ト纏足トノ別」ノ一號ヲ加ヘ身體檢查票及身體檢查統計表ノ疾病ノ次ニ纏足「解纏足」ノ各欄ヲ設クヘシ
女兒ニハ全ク身體檢查ヲ施行セス又ハ其ノ檢查事項ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ蕃人ノ子弟ヲ就學セシムヘキ公學校ニハ之ヲ適用セス

○臺灣總督府令第三十一號(官報四月二十七日)

臺灣總督府國語學校並同附屬學校ニ於テハ明治四十三年四月府令第二十九號臺灣小學校兒童身體檢查規程及明治四十三年四月府令第三十號臺灣公學校兒童身體檢查規程ニ準シ毎年二回生徒並兒童ノ身體檢查ヲ施行シ之ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年四月十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第三十二號(官報四月二十七日)

臺灣總督府中學校ニ於テハ明治四十三年四月府令第二十九號臺灣小學校兒童身體檢查規程ニ準シ毎年二回生徒ノ身體檢查ヲ施行シ之ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年四月十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第三十三號(官報四月二十七日)

臺灣總督府高等女學校ニ於テハ明治四十三年四月府令第二十九號臺灣小學校兒童身體檢查規程ニ準シ毎年二回生徒ノ身體檢查ヲ施行シ之ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年四月十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第三十四號(官報四月二十七日)

明治四十二年四月府令第十八號臺灣總督府經費渡切規則中左ノ通改正ス

明治四十三年四月二十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條中一二等郵便局出張所ノ次ニ左ノ如ク加フ

測候所

燈臺

税關監視署

第二條中第二號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ燈臺ニアリテハ浮標巡視其ノ他用務處辨ノ爲常時ニ要スル渡船並貯舟備入料ヲ含ム

第三條中一二等郵便局出張所ニアリテハ當該一二等郵便局長ヲ一二等郵便局出張所測候所燈臺ニアリテハ通信局長税關監視署ニアリテハ税關長ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年勅令第二百二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第十八號臺灣總督府經費渡切規則(明治四十二年四月二十三日)抄録
第一條 明治四十二年勅令第六十一號ニ依リ渡切經費ノ交付ヲ受クヘキ官署左ノ如ク指定ス

- 登記所
- 一、二等郵便局出張所
 - 二、渡切郵便局出張所
 - 三、新炭油類、マツチ類、蠟燭、生炭、ランプ油、火屋、布巾、薪中、薪
 - 四、離會内外ノ掛除草取其ノ他雜役等ノ當時ニ要スル一切ノ薪八料
 - 五、渡切郵便局出張所ニ依リ月割額ニ區別シ登記所ニアリテハ其ノ所管ノ地方法院長一、二等郵便局出張所ニアリテハ當
 - 六、一、二等郵便局長ニ於テ事務總管ノ認可ヲ得テ之ヲ定メ各官署ニ令達スヘシ其ノ年間及月割額ヲ變更セムトスルトキ亦
 - 同シ

○關東都督府令第四號(官報四月十六日)
關東都督府高等女學校規則左ノ通定ム

明治四十三年三月三十一日

關東都督 子爵大島義昌

關東都督府高等女學校規則

- 第一條 關東都督府高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲ス所トス
- 第二條 修業年限ハ五箇年トス
- 第三條 生徒ハ之ヲ寄宿舎ニ收容ス但シ特別ノ事情アリテ外宿セムトスル者ハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 學科目ハ修身、國語、歴史及地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トス
- 第五條 英語教育、手藝ハ隨意科目トシテ之ヲ加フルコトヲ得
- 第六條 生徒身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得
- 第七條 教科書及各學年ニ於ケル各學科課程、每週教授時數ハ關東都督ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム
- 第八條 學校長ハ各學年ニ於テ教授スヘキ各學科ノ教授要目ヲ定ムヘシ

第七條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 休業日ハ左ノ如シ

- 一 祝日、皇后陛下御誕辰ノ日
- 二 大祭日
- 三 日曜日
- 四 陸海軍紀念日
- 五 始政紀念日

前項ノ外休業日ヲ要スルトキハ學校長ニ於テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十二年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ但シ尋常小學校ノ課程ヲ卒業サル者ニ就キテハ試験ニ依リテ其學力ヲ檢定ス

第十條 第一學年入學志願者中尋常小學校ノ課程ヲ卒業シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許ス但シ其ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試験ニ依リテ入學者ヲ選抜スヘシ

第十一條 第二學年以上ニ入學スルコトヲ得ル者ハ相當年齡ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒業シタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十二條 前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リテ之ヲ檢定ス

第十三條 高等女學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一箇年以内ニ於テ入學ヲ志願シタルトキハ學校長ハ試験ニ依ラシテ原學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

第十四條 他ノ高等女學校ヨリ轉學ヲ志願スル生徒アルトキハ學校長ハ關員アル場合ニ限リ之ヲ得

許可スルコトヲ得

前項ノ規程ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試験ヲ行ハシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第十三條 學校長ハ入學ヲ許可スヘキ者ノ身體及品行ヲ調査スヘシ

第十四條 他ノ高等女學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ承認ヲ與ヘ共ノ生徒ノ在學證書及成績表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ

第十五條 生徒退學セムトスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第十七條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第十八條 學校長ハ修業年限ノ終リニ於テ高等女學校ノ學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第十九條 學校長ハ生徒又ハ學級其ノ他生徒團ノ成績ヲ表彰スルコトヲ得

第二十條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 成業ノ見込ナシト認メタル者

二 出席常ナラサル者

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ關東都督ニ報告スヘシ

第二十一條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

懲戒ハ罷責、停學、放校ノ三トス

第二十二條 授業料ハ一人一箇月金一圓トス但シ一家内ノ生徒二人以上在學スルトキハ上級ノ者一人ヲ全額トシ他ハ總テ半額トス

寄宿舎費ハ學校長之ヲ定ム

第二十三條 授業料ハ毎月十六日ニ於テ其ノ月分ヲ徴收ス但シ納期日休業日ニ當ルトキハ繰下ケ退學又ハ死亡ノ場合ハ隨時之ヲ徴收ス

休業又ハ閑席全月ニ涉リタルトキハ其ノ月分ノ授業料ヲ徴收セス

第二十四條 本令施行ニ關シ必要ナル規程ハ關東都督ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

附則

第二十五條 第一學年及第二學年ノ生徒ハ當分ノ内之ヲ募集セス

第二十六條 本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第五號(官報四月十六日)

滿洲內郵便規則左ノ通定ム

關東都督 子爵大島義昌

滿洲內郵便規則

第一條 關東都督府管内相互間ニ發著スル郵便物ハ本規則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外明治三十三年九遞信省令第四十二號郵便規則其ノ他遞信省ニテ定メタル内國郵便ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條 關稅其他ニ關スル法令ニ依リ輸出入ヲ禁スル物品ハ之ヲ郵便禁制品トス

第三條 清國ニ於テ輸出入ヲ許ササル物品ハ之ヲ租借地内ヨリ租借地外ヘ又ハ租借地外ヨリ租借地内ヘ宛差出スコトヲ得ス

第四條 郵便物ニシテ關稅ヲ課セラルヘキモノハ小包郵便ニ依ルニ非サレハ之ヲ差出スコトヲ得ス

第五條 租借地外相互間ニ發著スル第三種及第四種郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

第三種郵便物 十三又又ハ其ノ端數毎ニ

第四種郵便物

書籍印刷物 業務用書	二十六又迄	金一錢
類書 叢書 圖 博物	六十六又迄	金二錢
學上ノ標本	百三十三又迄	金五錢
商標見本及雛形	二百六十六又迄	金十錢
	三百又迄	金十五錢
	三十六又迄	金三十錢
	六十六又迄	金六十錢
	百又迄	金一百二十錢

第六條 小包郵便物ハ重量一貫五百又ヲ超過スルコトヲ得ス
 第七條 小包郵便物ハ價格表記ノ取扱ヲ爲スモノノ外書留小包郵便物トシテ之ヲ取扱フ
 第八條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

一、租借地内ト租借地外間及租借地内相互間	二百又迄	四角又迄	六角又迄	九角又迄	一貫二百又迄	一百五十又迄
二、租借地外相互間	百二十又迄	二百四十又迄	四百八十又迄	七百二十又迄	一貫三百二十又迄	一貫五百又迄
三、租借地内ノ同一郵便官署區内	十五錢	二十錢	三十錢	四十錢	五十錢	八十錢
四、租借地外ノ同一郵便官署區内	四角八十	一角三	一角三	一角三	一角三	一角三

第九條 小包郵便物ノ差出人ハ其ノ包有品ノ名稱數量及價格ヲ品種別ニ送票ニ記載スヘシ但シ租借地内相互間及租借地外相互間ニ發著スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十條 小包郵便物ノ價格表記料ハ左ノ如シ
 通 貨 表記金額十圓迄毎ニ金十錢
 其他ノ物品 表記金額十圓迄毎ニ金五錢
 第十一條 第九條但書ノ郵便物ニシテ租借地内外相互間ニ轉送ヲ要スルモノハ其ノ請求者ニ於テ第九條本文ニ定ムル事項ヲ關係郵便官署ニ告知スヘシ
 第十二條 轉送又ハ還付ノ爲關稅ヲ課セラルヘキ小包郵便物ニ關シテハ第十四條ノ規定ヲ準用ス
 第十三條 電信ニ依ル郵便物ノ取戻、名宛變更、代金引換ノ取消、金額變更及現金取立ノ取消請求ニ對スル料金ハ左ノ如シ

一 郵便物ノ取戻又ハ代金引換若ハ現金取立ノ取消 金五十錢
 二 郵便物ノ名宛變更又ハ代金引換ノ金額變更 金九十錢
 第十四條 租借地内ヨリ租借地外ニ宛タル小包郵便物ニシテ清國稅關ニ於テ關稅ヲ課シタルモノハ之ヲ郵便官署ニ留置キ其ノ通知書ヲ差出人ニ交付ス差出人ハ通知書ノ日付ヨリ五日以内ニ税金ヲ添ヘ其ノ通知書ハ郵便官署ヘ差出スヘシ
 差出人ハ豫メ前項ノ小包郵便物ヲ稅關ニ提示シ稅關ヨリ交付シタル通關許可證ヲ添付シテ之ヲ郵便官署ニ差出スコトヲ得

第十五條 前條第一項ノ場合ニ於テ差出人カ税金ヲ納付セサルトキハ小包郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス
 第十六條 關稅ヲ納付シテ租借地外ニ輸入シタル小包郵便物ヲ一般ノ貨物ニ關シ日清間ノ條約ニ定ムル期間内ニ郵便ニ依リ差出地ニ宛テ再輸出スル場合ニ於テ既納税金ノ拂戻ヲ受ケムトスル

者ハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ郵便官署ニ差出スヘシ
但シ輸入ノ際第十四條第二項ニ依リタルモノニ付テハ該請求書ハ之ヲ稅關ニ差出スヘシ
第十七條 前條ノ場合ニ於テハ小包郵便物ハ其ノ包裝原形ノ儘ナルコトヲ要ス
附則

本規則ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第六號(官報四月十八日)

郵便切手類及收入印紙賣捌規則左ノ通定ス

明治四十三年四月一日

關東都督 子爵大島義昌

郵便切手類及收入印紙賣捌規則

第一條 本規則ニ於テ郵便切手類ト稱スルハ政府發行ノ郵便切手、郵便切手帖、郵便葉書、郵便繪葉書、郵便封皮、郵便封緘紙、郵便切手貯金蓋紙及萬國郵便條約ニ依ル國際返信切手券ヲ謂ヒ收入印紙ト稱スルハ明治三十一年勅令第四百十號ニ依ル收入印紙ヲ謂フ

第二條 本規則ニ於テ所轄局所ト稱スルハ郵便局、同出張所、郵便區内ニ在ル賣捌所及無集配郵便所ニ對シテハ當該郵便局同出張所ヲ謂ヒ郵便所、郵便區内ニ在ル賣捌所ニ對シテハ通信管理局ヲ謂フ

第三條 郵便切手類(國際返信切手券ヲ除ク)及收入印紙ハ郵便局、電信局、出張所、取扱所及郵便所(以下單ニ稱ス)ニ於テ之ヲ賣捌ク但シ官廳用又ハ私設電信電話ニ依ル公衆通信取扱所ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ國際返信切手券ノ賣捌及引換ヲ爲ス局所ハ別ニ告示ス

第四條 前條ノ外必要ナル場所ニ在ル賣捌所ヲ置キ郵便切手類及收入印紙ノ賣捌ヲ爲サシム
一 郵便切手類及收入印紙賣捌所
二 郵便切手類賣捌所

三 收入印紙賣捌所

第五條 郵便切手類及收入印紙ハ前二條以外ノ場所ニ於テ賣捌クコトヲ得ス

第六條 郵便切手類及收入印紙ハ定價ヲ以テ賣捌ク

第七條 郵便切手類及收入印紙ノ汚損毀損シタルモノ又ハ效用ヲ缺クヘキ其アルモノハ賣捌クコトヲ得ス

第八條 郵便切手類及收入印紙ノ賣捌時間ハ局所ニ於テハ郵便又ハ電報受付時間ニ依ル但シ時間ヲ定メス受付ヲ爲スヘキ郵便物又ハ電報ヲ差出ストキハ本項ノ時間ニ拘ラス之ニ要スル郵便切手類ヲ賣捌クヘシ

賣捌所ニ於テハ左ノ時間中ハ郵便切手類及收入印紙ノ賣捌ヲ拒絕スルコトヲ得ス但シ特ニ賣捌時間ヲ短縮スル必要アルモノハ豫メ所轄局所長ノ承認ヲ受クヘシ
自三月一日至十月三十一日 午前六時ヨリ午後十時マテ
自十一月一日至二月末日 午前七時ヨリ午後十時マテ

第九條 局所及賣捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類及收入印紙ハ豫メ日日ノ賣捌高ヲ見積リ常ニ相當ノ種類及員數ヲ備ヘ置クヘシ

第十條 郵便所及賣捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類及收入印紙ノ買受方ハ左ノ各號ニ依ル
一 有集配郵便所ニ於テハ關東都督府通信管理局(以下單ニ通信管理局ト稱ス)長ノ指定スル局所ヨリ買受クヘシ

二 無集配郵便所及賣捌所ニ於テハ其ノ地ノ郵便集配受持局所ヨリ船舶内ノ賣捌所ニ於テハ其ノ船舶アル地ノ郵便集配受持局所ヨリ買受クヘシ
土地ノ狀況其ノ他特殊ノ事由ニ依リ前項第二號ニ依ルヲ不便トスルトキハ通信管理局長ニ於テ買受クヘキ局所ヲ指定スヘシ

第十一條 郵便所及賣捌所ニ賣渡ス郵便切手類及收入印紙ハ定價ニ對シ左ノ割引ヲ爲スヘシ
一 有集配郵便所

郵便切手類ハ千分ノ五十

收入印紙ハ千分ノ四十

二 無集配郵便所及賣捌所

郵便切手類ハ千分ノ三十五

收入印紙ハ千分ノ三十

第十二條 郵便切手類及收入印紙ハ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ國稅徵收法ニ依リ財產ヲ公賣ニ付スルトキニ限り定價ニ對シ百分ノ十ノ割引ヲ以テ通信管理局ニ於テ之ヲ買戻スコトアルヘシ但シ汚斑毀損シタルモノ又ハ效用ヲ缺クヘキ虞アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 郵便所又ハ賣捌所カ買受ケタル郵便切手類及收入印紙ニシテ汚斑毀損シタルモノ又ハ效用ヲ缺クヘキ虞アルモノ若ハ賣捌不向ノモノアルトキハ其ノ買受ヲ爲シタル局所ニ交換ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ依リ交換ヲ請求スル者ハ其ノ交換ヲ受クヘキ郵便切手類及收入印紙ノ種類ヲ選擇スルコトヲ得

郵便所若ハ賣捌所ノ廢止又ハ郵便所長ノ退職若ハ死亡ノ場合ニ於テ殘存セル郵便切手類及收入印紙ハ通信管理局ニ買戻ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 前條第一項ノ郵便切手類及收入印紙ハ定價ニ對シ百分ノ十ノ割引ヲ以テ交換ヲ爲スヘシ但シ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ起因スルモノハ額面ヲ以テ交換ヲ爲スコトアルヘシ
前條第三項ノ郵便切手類及收入印紙ハ第十一條ノ割引額ニ相當スル金額ヲ控除シ之ヲ買戻スヘシ

第十五條 前條第一項ノ場合ニ於テ割引計算上交換價格ニ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ五厘以上ハ五厘ヲ以テ計算シ五厘未滿ハ切捨トス

第十六條 郵便切手類及收入印紙ノ賣捌ヲ爲サムトスル者ハ別記第一號様式ニ依リ申請書ヲ郵便集配受持局所(有集配ノ郵便所區内ニ於テ賣捌ヲ爲サムトスル者ハ當該郵便所ヲ經テ)ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

收入印紙ノ賣捌ハ左ニ該當スル者ニ限ル

- 一 陸海軍人其ノ他公務ノ爲ニ受ケタル傷痕又ハ疾病ヲ以テ法律ニ依リ恩給ヲ受クル者
- 二 法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

第一項ノ申請書ニハ相當ノ資格證明書ヲ添付スヘシ

第十七條 郵便切手類及收入印紙賣捌人(以下單ニ賣)ハ自費ヲ以テ別記第二號様式ニ依リ賣捌所標札ヲ調製シ公衆ノ見易キ場所ニ掲出スヘシ但シ船舶内ノ賣捌所ハ郵便切手類及收入印紙ノ賣捌ヲ表示スヘキ適宜ノ標札ヲ掲出スルコトヲ得

第十八條 局所ノ郵便區内ニ賣捌所十箇所以上アルトキハ郵便切手類及收入印紙ノ買受組合ヲ設ケ總代人ヲ置キ其ノ買受ヲ爲スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ通信管理局長ニ於テ其ノ必要ナレト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

買受組合ニ關スル規定ハ通信管理局長之ヲ定ム

第十九條 郵便局郵便區内ノ郵便所ハ前條ノ買受組合ニ加入スルコトヲ得

第二十條 郵便所及賣捌所ノ郵便切手類及收入印紙買受回數ハ總代人ヨリ請求スルモノハ毎日一回其ノ他ノモノハ一箇月五回以内トス

前項ノ制限ニ依リ難キ事情アルトキ又ハ臨時多數ノ賣捌アリタルトキハ所轄局所長ニ於テ其ノ買受回數ヲ増加スルコトヲ得

第二十一條 郵便所總代人又ハ賣捌人ニ於テ郵便切手類及收入印紙ノ買受ヲ爲サムトスルトキハ別記第三號様式ニ依リ買受請求書ヲ代金ト共ニ所定ノ局所ニ差出スヘシ

第二十二條 局所郵便區市外ノ賣捌人ニ於テ豫メ所轄局所長ノ承認ヲ得タルトキハ其ノ所轄局所ノ通信夫ニ郵便切手類及收入印紙ノ買受ヲ依託スルコトヲ得但シ特ニ指定シタル局所ノ市外ニ在ルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ賣捌人ハ當該局所長ト買受依託ノ條件及其ノ責任ニ關スル事項ヲ協定シ通信管理局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 賣捌人ハ豫メ買受ヲ爲スヘキ局所ニ印鑑ヲ届出ツヘシ改印又ハ紛失ノトキ亦同シ但シ買受組合ヲ設ケタルモノハ總代人ノ外本條ノ届出ヲ要セス

第二十四條 賣捌人姓名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ直ニ所轄局所ニ届出ツヘシ

賣捌人賣捌所ヲ移轉セムトスルトキハ三十日以前ニ所轄局所ニ申請スヘシ其ノ移轉地カ他局所區内ニ屬スルトキハ三十日以前ニ廢業ノ届出ヲ爲スヘシ

第二十五條 賣捌人廢業セムトスルトキハ三十日以前ニ所轄局所ニ届出ツヘシ

賣捌人死亡シタルトキ又ハ自ラ廢業ノ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ家族又ハ親族ニ於テ直ニ廢業ノ届出ヲ爲スヘシ

逃亡又ハ居所不明ノトキ亦同シ

第二十六條 賣捌所又ハ賣捌人ヲ不適當ト認ムル場合ニ於テハ所轄局所ニ於テ賣捌ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十七條 所轄局所ニ於テ第二十四條第二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ其ノ移轉地ヲ適當ト認ムルトキハ許可證ヲ書替交付シ不適當ト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消スヘシ

第二十八條 賣捌人ハ賣捌所ニ設置シアル郵便函又ハ其ノ近傍ニ設置シアル郵便函ヲ保護スヘシ

前項ノ郵便函ニ被害又ハ毀損アリタルトキハ直ニ所轄局所ニ報告スヘシ

第二十九條 賣捌人ハ賣捌所ニ充テタル家屋ニ於テ所轄局所ノ適當ト認ムル箇所ニ郵便函ノ取付ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十條 賣捌人郵便函ノ位置ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ所轄局所ニ申出ツヘシ

第三十一條 本規則ニ依リ有集配郵便所區内ノ賣捌人ヨリ其ノ所轄局所ニ差出スヘキ書類ハ總テ當該郵便所ヲ經由スヘシ

第三十二條 第五條乃至第七條ニ違反シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 賣捌人本規則ニ違反シタルトキハ所轄局所ニ於テ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

附則
本規則ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規則施行前郵便切手類及收入印紙賣捌ノ許可ヲ受ケタル者ハ仍其ノ效力ヲ繼續ス

現在ノ總代人ハ本規則施行ノ爲資格ヲ失フコトナク又其任期ヲ中斷セラルルコトナシ但所轄局所長ニ於テ現在ノ組合區域ヲ變更スルトキハ此ノ限ニ在ラス

(別記)
(第一號様式)
郵便切手類及收入印紙賣捌申請書

右ハ現住所(又ハ何地)ニ於テ(郵便切手類及收入印紙)(郵便切手類)(收入印紙)賣捌度候間許可相成度候也

年 月 日

(何)(局)(所)(御中)

本籍 職 業 氏 名
現住所 氏 名

明治四十三年四月 府令 關東都督府第六號 郵便切手額及收入印紙實額規則

(第二號樣式)

二尺五寸

分五寸七

口 (何十)賣捌所

(第三號樣式)

年月日

(何)(局)(所)御中

郵便切手額(收入印紙)買受請求書

何地郵便所長
何地買受組合總代人 氏

名印

種類	數量	額面金額	買受代金	種類	數量	額面金額	買受代金
切手	葉書
何銀	何銀
何銀	何銀
小計	小計
封皮	何々
何銀	何銀
合計	合計

○關東都督府令第七號(官報四月十八日)
關東都督府警部警部補特別任用考試規程左ノ通定ム

明治四十三年四月一日

關東都督 子爵大島義昌

關東都督府警部警部補特別任用考試規程

- 第一條 關東都督府警部警部補特別任用令ニ依ル實務成績ノ考查及學術ノ試驗ハ本規程ニ依ルヘ
- 第二條 考試委員ハ委員長一名委員數名ヲ以テ組織ス
委員長ハ關東都督府警視總長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ關東都督府事務官警視翻譯官中ニ就キ關東都督之ヲ命ス
- 第三條 實務成績ハ左記事項ニ就キ之ヲ考查ス
 - 一 勤務ノ勉否
 - 二 姿勢禮式服裝其ノ他紀律ノ整否
 - 三 職務執行ノ當否
 - 四 文書報告ノ整否
 - 五 法規講習及應問ノ成績

明治四十三年四月 府令 關東都督府第七號 關東都督府警部警部補特別任用考試規程

六 操練ノ熟否
 七 武術ノ熟否
 八 清語其ノ他外國語ノ熟否
 以上各號ノ外尙其ノ性行及特殊技能ヲ調査ス

第四條 民政署長又ハ事務官ハ其ノ所屬ノ巡查全員ニ對シ其ノ實務ニ就キ監督ノ任ニ在ル者ノ意見ヲ徵シ毎月ノ成績ヲ翌月初ニ於テ別記様式ノ考查表ニ記入シ六箇月(七月ヨリ六月ニ至ル)ヲ一期トシ前半期分ヲ七月十五日後半期分ヲ翌年一月十五日迄ニ考試委員長ニ送付スヘシ
 考查表ハ機密ノ取扱トシ他署ニ轉シタル者アルトキハ其ノ所屬ノ民政署長又ハ事務官ニ送付スヘシ

第五條 學術試験ハ實務成績ノ優等ナル者ニ對シ左記科目ニ就キ之ヲ行フ
 一 憲法 行政法及國際法
 二 刑法
 三 刑事訴訟法
 四 警察法規
 五 算術

以上ノ外清語又ハ其ノ他ノ外國語ニ就キ試験スルコトアルヘシ

第六條 學術試験ハ筆記及口述トシ口述試験ハ筆記試験ニ合格シタル者ニ對シ之ヲ行フ

第七條 考試委員長ハ民政署長又ハ事務官ニ筆記試験問題ヲ送り其ノ答案ノ徵收ヲ委託スルコトヲ得

第八條 學術試験ノ評點ハ一科目百點ヲ以テ滿點トシ各科目平均六十點以上ヲ合格トス但シ一科目二十點未滿ノモノアルトキハ合格ト爲スコトヲ得ス

第九條 考試合格者ニハ別記様式ノ證書ヲ付與ス

第十條 關東都府府巡查在職滿三年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ關東都府警察官練習所甲科ノ課程ヲ修了シタル者ハ本規程ニ依ル學術試験ニ合格シタル者ト看做シ實務成績ノミヲ考查シ考試合格證書ヲ付與スルコトヲ得

附則
 本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十九年九月府令第十三號關東都府警部特別任用ニ關スル考試規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(別記様式)(用紙美濃半紙)

考 查 表		明治 年 月 月	
拜命年月日	精勤證書授與年月日	何署(支署)(出張所) 月 日	何署(支署)(出張所) 月 日
		何署(支署)(出張所) 月 日	何署(支署)(出張所) 月 日
賞 別 度 數		何署(支署)(出張所) 月 日	何署(支署)(出張所) 月 日
考 査 ノ 評 點 數	七月(八月)三月四月五月六月平均點數	何署(支署)(出張所) 月 日	何署(支署)(出張所) 月 日
勤務ノ勉否		何署(支署)(出張所) 月 日	何署(支署)(出張所) 月 日
委勢禮式服裝其ノ他紀律ノ整否		何署(支署)(出張所) 月 日	何署(支署)(出張所) 月 日
職務執行ノ當否		何署(支署)(出張所) 月 日	何署(支署)(出張所) 月 日
文書報告ノ整否		何署(支署)(出張所) 月 日	何署(支署)(出張所) 月 日

明治四十三年四月 府令 關東都督府第七號 關東都督府警部特別任用考試規程

考 備	德行及特殊技能	平均評點數	清問其ノ他外 他種ノ難否	武術ノ難否	操練ノ難否	法規講習及 應問ノ成績

肥儀例
一、成績評點ハ成績普通ナルモノヲ六十點トス
一、摘髮欄ニハ各考査事項ニ付評點ノミニシテ説明シ得サルモノヲ記述スヘシ
一、性行及特殊技能欄ニハ性質品行嗜好癖等ノ性行及腰劍柔術馬術射撃能讀等ハ勿論衛生會計統計利率等ノ特殊技能ヲ記入スヘシ
用紙鳥ノ子 九寸

第 號
證 書
關東都督府警部補(巡查) 氏 名

分五寸一尺一

右者關東都督府警部特別任用令ニ依ル考試ニ合格
シタルコトヲ證ス
明治 年 月 日
考試委員長官位勳等 氏 名 印
考試委員官位勳等 氏 名 印
考試委員官位勳等 氏 名 印

○關東都督府令第八號(官報四月十九日)
明治四十一年四月二十四號ハ之ヲ廢止ス
明治四十三年四月一日

關東都督 子爵大島義昌

〔参照〕

明治四十一年四月十三日(官報四月二十二日)關東都督府令第二十四號ハ關東都督府民政部土木課大連出張所規程ナリ
○關東都督府令第九號(官報四月二十六日)

製鹽監視規則左ノ通定ス
明治四十三年四月一日
關東都督 子爵大島義昌
製鹽監視規則

第一條 製鹽業者鹽田所轄ノ民政學民政吏署又ハ其ノ出張所管内ニ現住セサルトキハ鹽ノ製造移

明治四十三年四月 府令 關東都督府第八號 第九號 製鹽監視規則

出ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ製鹽業者及管理人連署シ所轄署ニ申告スヘシ

第二條 製鹽業者災害其ノ他ノ事由ニ依リ移出前ニ鹽ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ所轄署ニ申告スヘシ

第三條 製鹽業者ハ帳簿ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 製造シタル鹽ノ數量及年月日
- 二 移出シタル鹽ノ數量年月日及納稅金額
- 三 讓渡シタル鹽ノ數量價格讓渡年月日及讓受人
- 四 讓受ケタル鹽ノ數量價格讓受年月日及讓渡人
- 五 災害其ノ他ノ事由ニ依リ亡失シタル鹽ノ數量

前項ノ規定ハ土人ノ製鹽業者ニ之ヲ適用セス

第四條 鹽ヲ内地ニ輸出セムトスル者ハ積込著手五日前ニ輸出スヘキ鹽ノ斤數其ノ所在地鹽堆毎ニ製鹽經過日數船積豫定期間使用船積數及運搬船名ヲ所轄署ニ申告スヘシ

第五條 監視員ハ必要アリト認ムルトキハ二箇所以上ノ鹽堆ヨリ同時ニ鹽ノ移出ヲ爲スコトヲ禁スルコトヲ得

第六條 内地輸出ノ爲鹽ヲ計量スルニハ左ノ各號ニ遵據スヘシ

- 一 枘器ハ所轄署長ノ檢定シタルモノヲ使用スヘシ
- 二 秤器ハ内地度量衡法ニ依リ製作シタル鹽付秤器ヲ使用スヘシ

第七條 内地輸出鹽船積ノ爲船積ニ鹽ヲ積込ミタルトキハ監視官吏ハ之ニ封印ヲ施シ本船へ積替ヲ爲スコトキ之ヲ除去スヘシ

第八條 内地輸出鹽船積ノ證明ヲ受ケムトスルモノハ輸出者ノ氏名住所鹽ノ數量(石數及斤數)産鹽船積終了シタルトキ又ハ一時船積ヲ中止スルトキハ監視官吏ハ船積ニ封印ヲ施スヘシ

地回送船名、發航地名、寄港地名、仕向地名及發航年月日ヲ記載シタル書面ニ該船積鹽ニ對スル鹽票及船荷證券ヲ添ヘテ所轄署ニ申請スヘシ

第九條 内地輸出鹽ヲ積載シタル船舶副荷積載ノ爲解封ヲ要スルトキハ所轄署ニ申告スヘシ前項ノ申告アリタルトキハ監視官吏ハ船積ノ解封ヲ爲シ副荷積込後更ニ封印ヲ施スヘシ

第十條 監視官吏職務ノ爲船舶ニ乗込ミタルトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第十一條 當該官吏ハ鹽田、船車其ノ他鹽ノ所在ト認ムル場所ニ臨檢シ又ハ運搬中ニ在ル鹽ノ出所及行先ヲ訊問スルコトヲ得

第十二條 監視官吏鹽稅ニ關スル犯則アリト認メタルトキハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件ヲ搜索シ又ハ差押ヲ爲スコトヲ得

第十三條 監視官吏犯則事實ヲ證明スヘキ物件ヲ差押タルトキハ差押目録ヲ作ルヘシ物件ノ所有者ハ差押目録ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 監視官吏犯則事實ヲ調査スル爲必要ト認ムルトキハ嫌疑者及參考人等ヲ訊問スルコトヲ得

第十五條 製鹽業者第三條ノ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ科料ニ處ス

第十六條 監視官吏ノ訊問ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス第四條ニ規定セル事項ニ關シ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者亦同シ

第十七條 製鹽業者鹽田使用ノ許可ヲ取消サレ又ハ其ノ業務ヲ廢止スルモ鹽田又ハ貯藏場ニ鹽ノ現在スル間ハ仍ホ本令ヲ適用ス

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第十七號(官報 五月十四日)

統監府監獄備人給與品及貸與品規程中左ノ通改正ス

明治四十三年五月七日

第一條中夏服ノ項ヲ左ノ如ク改ム

統監 子爵會禰荒助

夏服	セル	一組	四箇月			
	雲齋	二組	四箇月	二組	四箇月	二組
						四箇月

別表中上衣及袴ノ地質欄ヲ左ノ如ク改ム

袴	取者	監丁	黑色絨但シ夏ハ茶褐色セル(給仕ニ使用スル者ニ限ル)又ハ雲齋裏地ハ適宜
		馬丁	同
上衣	取者	監丁	黑色絨但シ夏ハ茶褐色セル(給仕ニ使用スル者ニ限ル)又ハ雲齋
		馬丁	同

附則

本令ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第十八號(官報 五月二十八日)

統監府監獄ニ於ケル事務ノ取扱ニ關シテハ明治四十一年司法省令第十八號監獄法施行規則ヲ準用ス但シ同規則中外國人トアルハ韓國人ニ非サル外國人ニ、外國語トアルハ韓國語ニ非サル外國語ニ、外國文トアルハ韓國文ニ非サル外國文ニ該當ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年五月二十一日

統監 子爵曾根克助

○統監府令第十九號(官報 五月二十八日)

假出獄ヲ許サレタル者ノ取締ニ關シテハ明治四十一年司法省令第二十五號假出獄取締規則ヲ準用ス但シ同細則中帝國外ニ關スル規定ハ韓國ニ之ヲ適用セス韓國人ニ付テハ本邦ハ之ヲ帝國外ト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年五月二十一日

統監 子爵曾根克助

○臺灣總督府令第三十五號(官報 五月二日)

明治三十九年二月府令第十號臺灣小學校助教臺灣公學校訓導係給規則中左ノ通改正ス

明治四十三年四月二十二日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第三條 臺灣小學校助教ノ月俸ハ十八圓以上四十五圓以下臺灣公學校訓導ノ月俸ハ十五圓以上四十圓以下トス

臺灣小學校助教 臺灣公學校訓導最上俸ヲ受ケ五箇年ヲ超エ職務熟練優等ナル者ニハ特ニ月額五圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第二條及第三條 削除

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第十號臺灣小學校助教臺灣公學校訓導係給規則(明治三十九年十月八日(ニリ)抄録)

第一條 助教(訓導)ノ月俸ハ別表ニ依ル

一級俸ヲ受ケ在職五箇年ヲ滿ヘ職務熟練ノ者ニハ助教ニ在テハ五十圓訓導ニ在テハ四十五圓迄ヲ漸次増給スルコトヲ得

第二條 助教ニ任命セラルル者ノ月俸ハ三級俸以下訓導ニ任命セラルル者ノ月俸ハ五級俸以下トス

助教訓導ニ再任ノ場合及官立公立學校校長 教育次官 助教 助教 助教 助教タル者又ハ其ノ官職ニ在リシ者助教 訓導ニ任命セラルル場合ハ前項ヲ適用セス但シ其ノ月俸ハ前項ノ月俸額ヲ超ニルコトヲ得ス

第三條 助教(訓導)ニシテ四級俸以下ノ月俸ヲ受クル者ハ在職六箇月三級俸以上ノ月俸ヲ受クル者ハ在職一箇年ヲ經過スルニテラサレハ昇級スルコトヲ得ス

○臺灣總督府令第三十六號(官報 五月十日)

郵便法 鐵道船舶郵便法 郵便爲替法 郵便貯金法及電信法施行ニ關スル遞信省令及告示中遞信大臣ノ職權ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ行ヒ遞信管理局ニ屬スル事項ハ特ニ規定スルモノノ外臺灣總督府民政部通信局之ヲ掌理ス

附則

明治四十二年十一月府令第八十七號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治四十二年十一月府令第八十七號ハ明治四十二年遞信省令第四十六號ニ依リ差出スル市內特別取扱郵便物本島ニ於ケル差出方ナリ

○臺灣總督府令第三十七號(官報 五月十日)

明治四十年三月府令第十四號中「一等郵便局」ヲ「遞信管理局」ニ改ム

〔參照〕

明治四十年三月二十三日臺灣總督府令第十四號ハ新聞電報規則ヲ臺灣ニ施行スル件ナリ

明治四十三年五月 府令 臺灣總督府第三十八號 第三十九號 第四十號 第四十一號

○臺灣總督府令第三十八號(官報五月十日)

明治三十三年九 遞信省令第四十八號私設電信規則中第二十四條ハ之ヲ臺灣ニ適用セス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第三十九號(官報五月十日)

明治四十二年十一月 府令第九十二號ハ之ヲ廢止ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第四十號(官報五月十七日)

明治四十二年十一月十六日 臺灣總督府令第九十二號ハ私設電信規則及私設電信規則第二十條ノ料金額及其納付手續

○臺灣總督府令第四十一號(官報五月十七日)

明治四十年五月 府令第三十二號臺灣總督府中學校規則第二十六條ノ二中第一部ヲ削ル

本令ハ明治四十二年度ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第四十二號(官報五月十七日)

臺灣總督府令第三十二號臺灣總督府中學校規則(明治四十年五月二十日)抄錄

第二十六條ノ二 第一部生徒中學術優等品行方正ナル者ノ授業料ハ之ヲ徵收セサルコトヲ得其ノ人員ハ每學年ノ始ニ於テ

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第五十二號臺灣總督府國語學校規則中左ノ通改正ス

明治三十五年七月 府令第五十二號臺灣總督府國語學校規則中左ノ通改正ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條第二十五條及第二十七條中「師範部」ヲ「小學師範部、公學師範部」ニ改ム

第二條中「國語學校師範部」ヲ「國語學校小學師範部」ハ、小學校ノ教員タルヘキ者「公學師範部」ニ改

第六條中「第一附屬學校」ヲ「附屬公學校」ニ、「師範部」ヲ「公學師範部」ニ、「第二附屬學校」ヲ「附屬女學

校」ニ改メ左ノ一項ヲ追加ス

附屬小學校ハ臺灣小學校ノ本旨ニ依リ兒童ヲ教育シ小學師範部生徒ヲシテ教育實習ヲ爲サシメ

兼テ本島ニ於ケル内地人兒童ノ普通教育方法ヲ研究スル所トス

第七條中「師範部」ニ甲科及乙科ヲ設ク甲科ヲ「公學師範部」ニ甲科及乙科ヲ置ク甲科又ハ「小學師範

部」ニ改ム

第十一條 小學師範部ノ教科目ハ修身、教育、國語、數學、理科、歷史地理、圖畫、手工、農業、商業、音樂、體

操、臺灣語トス

第十二條 公學師範部甲科ノ教科目ハ修身、教育、國語、臺灣語、理科、歷史地理、圖畫、手工、農業、商業、音

樂、體操トス

公學師範部乙科ノ教科目ハ修身、教育、國語、漢文、歷史地理、數學、理科、圖畫、音樂、手工、農業、商業、體

操トス

第十二條ノ二 第十一條及第十二條第一項教科目中農業、商業ハ其ノ一ヲ課シ第十二條第二項ノ

教科目中手工、商業ハ其ノ一ヲ課ス

第十五條中「師範部甲科」ヲ「小學師範部、公學師範部甲科」ニ、「同乙科」ヲ「公學師範部乙科」ニ改ム

第十七條第二項中「師範部甲科」ヲ「小學師範部、公學師範部甲科」ニ、「三十六時」ヲ「三十七時」ニ、「八時」ヲ

「十時」ニ、「師範部乙科」ヲ「公學師範部乙科」ニ改ム

第二十條 小學師範部ノ教科課程表ハ左ノ如シ

明治四十三年五月 府令 臺灣總督府第四十一號

小學師範部課程表

科目	第一學期			第二學期			第三學期		
	午前	午後	程度	午前	午後	程度	午前	午後	程度
修身	二		人倫道德ノ要旨、内地及本島ノ法制大意、修身教授法	二		同上			
教育	七		心理學、教育史、教育學及教授法、管理法及本邦教育法令	七		同上			
國語	三		音韻學及發音矯正法、日本語法、國語教授法	四		同上			六 同上
算術	二		算術傳記、算術教授法	二		同上			
理科	二		博物教授法、衛生及急救療法、理化實驗、理科教授法	二		同上			
歷史地理	二		本島、南洋、南洋ノ歷史地理、歷史地理教授法	一		同上			
圖畫手工	一		黑板畫、手工理論及實習	一		同上			
農業		三	農業大意及實習		三	同上			
商業		三	商業大意及實習		三	同上			
音樂		三	單音唱歌、樂典、樂器使用法		三	同上			
體育	一	二	遊戲、普通體操、兵式體操	一	二	同上			二 同上
英語	四		發音、日用會話	四		同上			八 同上
計	三三	三三		三三	三三		八	二	一〇

第二十一條

第一三學期ニ於テハ本表ノ外教育實習ヲ課ス
公學師範部ノ教科課程表ハ左ノ如ク

公學師範部甲科課程表

科目	第一學期			第二學期			第三學期		
	午前	午後	程度	午前	午後	程度	午前	午後	程度
修身	一		人倫道德ノ要旨、本島法制ノ大意、修身教授法	一		同上			
教育	四		心理學、教育史、教育學及教授法、管理法及本邦教育法令	六		同上			六 同上
國語	三		音韻學及發音矯正法、日本語法、國語教授法	四		同上			
英語	三		發音、口述、記述、作文	八		同上			二 同上
理科	一	二	本島ニ特有ナル博物、衛生及急救療法、理科實驗、理科教授法	二	二	同上			
歷史地理	二		本島ニ必要ナル歷史及地理教授法、歷史地理教授法						
圖畫手工		三	黑板畫、手工理論及實習		三	同上			
農業		三	農業大意及實習		三	同上			
商業		三	商業大意及實習		三	同上			
音樂		三	單音唱歌、樂典、樂器使用法		三	同上			
體育	一	二	遊戲、普通體操、兵式體操	一	二	同上			二 同上
計	二四	三三		二四	三三		八	二	一〇

第一三學期ニ於テハ本表ノ外教育實習ヲ課ス

公學師範部乙科課程表

科目	第一學年				第二學年				第三學年				第四學年			
	程度	程度	程度	程度	程度	程度	程度	程度	程度	程度	程度	程度	程度	程度	程度	
修身	一人倫道德ノ要	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
教育																
國語	一 語力、辨力、讀力、 作文、文法	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
漢文	一 讀本、時文、尺牘、 古文、時文、尺牘	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
地理史	一 本邦、地理	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
數學	一 算術	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
理科	一 物理化學ニ關スル 事項、動物、植物	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
圖畫	一 臨畫及寫生	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
音樂	一 單音、唱歌	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
手工																
農業																
商業																
體操	一 遊戯、普通體操	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
	二 遊戯、兵式體操	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	

一 第四學年ニ於テハ若干週教育實習ヲ課ス

二 第二十六條中「給費生」ヲ「小學師範部又ハ公學師範部甲科生ニ改メ三箇年間ノ下ニ」其ノ他ノ給費生ハ五箇年間ヲ加フ

三 第五章及第四十一條ヲ削リ第七章ヲ第五章ニ第四十條ヲ第三十條ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條中五箇年ノ義務年限ハ明治四十三年四月以前ニ入學シタル者ニハ之ヲ適用セス

〔參照〕

- 臺灣總督府令第五十二號臺灣總督府國語學校規則(明治三十五年七月六日(舊曆)抄錄)
- 第二條 國語學校師範部ハ公學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス
- 第六條 第一附屬學校ハ臺灣公學校ノ本旨ニ據リ兒童ヲ教育シ師範部生徒ヲシテ實地授業ノ練習ヲ爲サシメ兼テ本島人兒童ニ對スル普通教育ノ方法ヲ研究スル所トス
- 第二附屬學校ハ本島人女子教員ヲ養成フ主トシ兼テ技藝教育ヲ施ス所トス
- 第三附屬高等女學校ハ内地人女子ニ高等普通教育ヲ施ス所トス
- 第七條 師範部ニ甲科及乙科ヲ設ク甲科ニ入學スヘキ生徒ハ年齡滿十歲以上二十五歲以下ノ内地人ニシテ中學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力アル者トシ乙科ニ入學スヘキ生徒ハ年齡滿十四歲以上二十三歲以下ノ本島人ニシテ修業年限六箇年ノ公學校卒業以上ノ學力アル者トス
- 第十一條 師範部甲科ノ教育目ハ修身、教育、國語、臺灣語、歷史、地理、理科、唱歌、手工、農業、商業、體操トス
- 師範部乙科ノ教育目ハ修身、教育、國語、漢文、歷史、地理、數學、理科、習字、圖畫、唱歌、手工、農業、商業、體操トス
- 第十五條 修業年限ハ師範部甲科ヲ二年同乙科ヲ四箇年國語部ヲ四箇年實業部農業科ヲ二箇年同電信科及鐵道科ヲ一箇年トス
- 第十七條第二項 每週教授時數ハ師範部甲科ニ在リテハ第一期三十七時第二期三十六時第三期八時トシ師範部乙科國語部實業部

電符科及鐵道科ニ在リテハ三十時トシ實業部農理科ニ在リテハ三十二時トス

第二十六條 師範部ノ教科課程表ハ左ノ如シ

受ケタル者ハ此限ニアラス

第四十一條 現ニ師範部士師科ヲ修ムル生徒ハ其ノ卒業スルマテ仍從前ノ規程ニ依ルコトヲ得

○臺灣總督府令第四十二號(官報五月十七日)

明治三十八年一月府令第五號中「第一附屬學校」ヲ「附屬公學校」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年五月七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

〔參照〕

臺灣總督府令第五號明治三十八年二月九日(官報)

臺灣總督府國語學校第一附屬學校ノ教則ニ關シテハ臺灣公學校規程ニ準據スヘシ

○臺灣總督府令第四十二號(官報五月十七日)

臺灣總督府國語學校附屬小學校規程左ノ通相定ム

明治四十三年五月七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣總督府國語學校附屬小學校規程

第一條 附屬小學校ニハ臺灣小學校規程第二條第一項第三條第八條第十條第十三條乃至第十八

條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條ヲ準用ス但シ第十五條第二項規定ノ事項ハ臺灣

總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行シ第二十四條規定ノ事項ハ國語學校長之ヲ專行ス

第二條 附屬小學校ハ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置ス

第三條 修業年限、教科目、教科用圖書及學級編制ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外臺灣小

學校ノ例ニ依ル

第四條 高等小學校ノ教科目ニハ手工ヲ加フ

國語學校長ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ前項教科目ノ外農業、商業、英語ノ一科目又ハ數科目ヲ課シ

又ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第五條 附屬小學校ハ單級尋常小學校ノ例ニ準シテ編制シタル學級、數學年ノ兒童ヲ以テ編制シ

タル學級及一學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ設クヘシ

附屬小學校ハ第二部教授ヲ行フヘシ

第六條 本令ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ國語學校長ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ之ニ依ラサル

コトヲ得

第七條 本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ國語學校長之ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第四十四號(官報五月十七日)

明治三十九年四月府令第二十五號臺灣總督府國語學校第二附屬學校規程中左ノ通改正ス

明治四十三年五月七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第八條中「師範部乙科」ヲ「公學師範部乙科」ニ改ム

第十條 削除

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年五月 府令 臺灣總督府第四十四號

〔參照〕

臺灣總督府令第二十五號臺灣總督府國語學校第二附屬學校規程明治三十九年四月五日抄錄
第八條 學年學期教授日數休業日入退學服務及試驗ニ關シテハ臺灣總督府國語學校師範部乙科ノ規程ヲ準用ス
第十條 各學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ左ノ書式ノ卒業證書ヲ授與ス(附式)

○臺灣總督府令第四十五號(官報五月十七日)

明治三十七年四月府令第四十三號臺灣小學校、臺灣公學校教員檢定及免許ニ關スル規程中左ノ通改正ス

明治四十三年五月七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第七條ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二號ヲ削リ第一號ヲ第二號ニ、第二號ヲ第三號ニ改ム

一 臺灣總督府國語學校小學校師範部ヲ卒業シタル者

第十八條中「師範部甲科」ヲ「公學師範部甲科」ニ改ム

第十九條中「師範部乙科」ヲ「公學師範部乙科」ニ、第二附屬學校「附屬女學校」ニ改ム

第二十二條第二項中「師範部」ヲ「小學校師範部若ハ公學師範部」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第四十三號臺灣小學校、臺灣公學校教員檢定及免許ニ關スル規程(明治三十七年四月十七日抄錄)

第七條 臺灣小學校教員無試驗檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第八條乃至第十五條ノ規定ニ對照シテ之ヲ行フ

一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

二 文部省又ハ道廳府縣ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ヲ有スル者

三 中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

四 其ノ他臺灣總督ニ於テ特ニ通任ト認メタル者

第十六條 臺灣公學校教員無試驗檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第十六條ノ三乃至第十八條ニ準據シテ之ヲ行フ

一 臺灣總督府國語學校第二附屬學校師範科及同師範部師範科ヲ卒業シタル者

二 臺灣總督府國語學校師範部甲科生徒ニ課スル臺灣語ノ程度ニ準ス

三 臺灣總督府國語學校第二附屬學校師範科生徒ニ課スル學科目及其ノ程度ニ準ス

四 臺灣總督府國語學校師範部乙科生徒、女子ニ在リテハ臺灣總督府令第四十六號(官報五月十七日)

○臺灣總督府令第四十六號(官報五月十七日)

臺灣總督府地方廳稅務吏試驗規則左ノ通相定ム

明治四十三年五月八日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條 本令ニ規定シタル試驗ニ合格シタル者ハ臺灣總督府地方廳稅務吏タルノ資格ヲ有ス

第二條 年齡滿二十年以上四十年以下ニシテ身體健全且ツ左ノ各號ニ該當セサル者ハ試驗ヲ受ケルコトヲ得

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第三條 試驗志願者ハ別記書式ニ依リ願書ニ履歷書ヲ添ヘ試驗期日十日前途ニ之ヲ試驗委員長ニ差出スヘシ

試驗ヲ行フヘキ場所及期日等ハ二箇月前ニ府報及臺灣ニ於テ發行スル新聞紙ニ之ヲ公告ス

第四條 試驗ヲ受ケムトスル者ハ手数料トシテ收入印紙金額一圓ヲ願書ニ貼附スヘシ

既納ノ手数料ハ之ヲ還付セズ

第五條 不正ノ方法ニ因リ試験ヲ受ケムトシタル者及試験ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ其ノ期

ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス若事後其ノ事實ヲ發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第六條 試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一 讀書

二 作文 書牘記事又ハ論說

三 筆寫

四 數學 筆算 珠算

五 稅務ニ關スル法令ノ大要

以上ノ科目ハ悉ク之ヲ課ス

一 經濟學ノ大意

二 土語

三 簿記 官用

四 內地及本島地理歴史

以上ノ科目ハ受験者ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシム

第七條 試験點數ハ各科目ヲ百點トシ其ノ得點各科目平均六十點以上ニシテ一科目四十點以上ノ者ハ之ヲ合格トス

第八條 試験合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

合格證書ノ有効期間ハ其ノ日附ヨリ滿二箇年トス

第九條 試験合格者ノ氏名ハ府報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十條 試験委員長ハ財務局長ヲ以テ之ニ充テ試験委員ハ若干人トシ臺灣總督之ヲ命ス

第十一條 受験者ノ體格検査ハ試験執行地ノ醫師ニ囑託シテ之ヲ行フ

第十二條 試験ニ關シ必要ナル手續ハ試験委員長之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

書式ノ一(用紙美濃紙)

稅務吏受験願

臺灣總督府地方廳稅務吏試驗相受度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

年月日

臺灣總督府地方廳稅務吏試驗委員長氏名殿

書式ノ二(用紙美濃紙)

履歷書

選擇科目 何々

本籍 何(縣)何(郡)何(村)何番地族籍職業
戸主又ハ其親柄)

現住所 何處何(縣)何庄何番戶(何某方)

氏名

年月日生

- 學事
- 一 何年何月何學校卒業
 - 一 何年何月何學校何學年修業
 - 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何々ニ就キ何々ヲ修ム等
- 職業
- 一 何年何月何々拜命
 - 一 何年何月御用濟解何々
 - 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何所ニ於テ何々ニ従事ス等
- 官職名
- 官職名
- 貸附
- 一 何年何月何々ニ付キ何々ノ貸ヲ受ク
 - 一 何年何月何々ノ罰ヲ受ク
 - 一 何年何月破産ノ宣告ヲ受ケ何年何月復權等
- 右ノ通相違無之候也

年月日

右 氏 名 〇

○臺灣總督府令第四十七號(官報五月十七日)
臺灣製糖及纖維工場胎權規則施行規則左ノ通相定ム

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣製糖及纖維工場胎權規則施行規則

第一條 工場財團及其ノ胎權ニ關スル登録書類ハ總テ管轄廳ヲ經由シ臺灣總督ニ提出スヘシ
登録ニ關スル書類ノ外臺灣製糖及纖維工場胎權規則並本令ニ依リ臺灣總督ニ提出スル書類ニ付テモ亦前項ニ同シ

第二條 工場財團ニ組入ルヘキモノニ應以上ノ管轄ニ屬スル場合ハ其ノ工場所在地ノ地方廳ヲ以テ管轄廳トス
二箇以上ノ工場ニ付キ財團ヲ設定スルトキハ其ノ主タル工場所在地ノ地方廳ヲ以テ管轄廳トス

第三條 第十一條第十七條及第十八條ノ處分ニ關スル事項ノ審査ヲ爲サシムル爲工場胎權審査委員會ヲ置ク

工場胎權審査委員會會長ハ民政長官ヲ以テ之ニ充テ會員ハ臺灣總督府高等官、臺灣總督府法院判官、臨時臺灣糖務局高等官、臺灣總督府鐵道部高等官中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

第四條 工場胎權審査委員會ハ會長之ヲ召集シ其ノ決議事項ヲ臺灣總督ニ具申ス

第五條 工場財團ニ對スル胎權ノ設定、變更、移轉及消滅ニ關スル登録稅ハ印紙ヲ以テ納付スヘシ但シ稅額三百圓以上ハ管轄廳ニ申出現金ヲ以テ納付スルコトヲ得

印紙ヲ以テ納付スル登録稅ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

登錄稅未納ノ書類ハ之ヲ却下ス

第六條 臺灣製糖及纖維工場胎權規則第四條ノ申請書ニハ工場財團ニ組入ルヘキモノノ目錄ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 負債ヲ要スル理由並償還方法說明書
- 二 會社組合等ノ團體ニ在テハ總會ノ決議書又ハ社員組合員ノ同意ヲ證スヘキ書類
- 三 土地建物ニ付テハ登記簿本又ハ其ノ所有ヲ證スヘキ書類
- 四 官廳ノ許可又ハ認可ヲ受クルニ非サレハ擔保ニ供スルコトヲ得サル物ニ付テハ其ノ許可又ハ認可書

五 工場圖面

第七條 工場財團ニ組入ルヘキモノノ目錄ハ美濃判大ノ料紙ヲ用井左ノ各項ニ遵據調製スヘシ

- 一 土地ニ付テハ座落、地番、等則、地目、甲數ヲ記載スヘシ但シ鐵道用地ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 工作物ニ付テハ其ノ種類、構造及建坪又ハ延長ヲ記載シ且ツ其ノ所在ノ土地ヲ表示スヘシ

- 三 機械、器具、電柱、電線、配置諸管、舟筏其ノ他ノ附屬物ニ付テハ其ノ種類、構造、簡政延長ヲ記載シ若製作者ノ氏名又ハ名稱、製造ノ年月日、記號、番號其ノ他同種類ノ他ノ物ト區別スルニ足ルヘキ特質アルトキハ其ノ特質ヲモ記載スヘシ但シ輕微ナル附屬物ノ記載ハ概括シテ之ヲ爲スコトヲ得
- 四 鐵道及軌道ニ就テハ區間、延長、軌間、軌條重量、線路、停車場ノ甲敷及橋梁、隧洞ノ各所在地、名稱、構造、經間、延長ヲ記載スヘシ
- 五 登記シタル船舶ニ付テハ船舶登記規則第十六條ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ
- 六 工業所有權ニ付テハ其ノ權利ノ種類、名稱、番號及原簿登錄ノ年月日ヲ記載スヘシ工業所有權ニ關スル實施權ニ付テハ實施權ノ範圍、木權ノ種類、名稱、番號、原簿登錄ノ年月日及其ノ權利者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ
- 七 用水權及土地使用權ニ付テハ第一號ニ掲ケタル事項ノ外其ノ權利ノ目的及範圍、存續期間、料金ノ有無及料金額、其ノ支拂時期、設定ノ年月日、業主ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ
- 第八條 工場財團目錄ニハ其ノ每葉ノ總目ニ契印スヘシ但シ申請人カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル
- 第九條 工場圖面ニハ左ノ事項ヲ表示シ申請人之ニ署名捺印スヘシ
 - 一 工場ニ屬スル土地及工作物ノ方位、形狀並間尺
 - 二 機械並重要ナル附屬物ノ配置
 - 三 工場ノ一部カ工場財團ニ屬セサル場合ニ於テハ財團ニ屬スル部分ト之ニ屬セサル部分トヲ明瞭ニ區分スヘシ
- 第十條 工場財團ニ組入ルヘキモノニ對スル異議ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ臺灣總督ニ提出

- スヘシ
- 一 物又ハ權利ノ表示
- 二 一定ノ申立及其ノ理由並證據方法
- 三 申立人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 第十一條 前條ノ申立アリタルトキハ臺灣總督ハ之ヲ申請人ニ通知ス申請人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ十四日以内ニ之カ答辯書ヲ提出スヘシ臺灣總督ハ異議申立ノ目的タル物又ハ權利ノ除却ヲ命ジ又ハ異議申立ヲ却下スルコトヲ得
- 第十二條 工場所有者ハ臺灣製糖及纖維工場胎權規則第三條第二項ノ期間滿了後一月以内ニ工場財團設定ノ登錄ノ申請ヲ爲スヘシ但シ期限後ト雖異議アリタル事件ニ付テハ第十一條第四項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一月以内ニ申請ヲ爲スコトヲ得
- 第十三條 前項ノ期間ヲ過キ工場財團設定ノ登錄ヲ申請セサルトキハ臺灣製糖及纖維工場胎權規則第五條ノ催告ハ其ノ效力ヲ失フ
- 第十四條 前項ニ依リ催告カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ旨府報及地方廳ノ揭示場ニ公示ス
- 第十五條 工場財團設定ノ登錄申請書ニハ第七條ノ目錄及工場圖面ヲ添付スヘシ
- 第十六條 知シ工業所有權ニ付テハ特許局ニ通知スヘシ
- 第十七條 前項ノ通知ヲ受ケタル登記官廳ハ職權ヲ以テ相當登記ヲ爲シ臺灣製糖及纖維工場胎權規則第六條ニ依リ效力ヲ失ヒタルモノニ付テハ其ノ登記ヲ抹消スヘシ
- 第十八條 第十五條 工場財團目錄ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ工場ノ所有者ハ遲滞ナク工場財團目錄ノ變更登錄ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ胎權者ノ同意ヲ要スル事項ニ付テハ其ノ申請書ニ胎權者ノ同意又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ添付スヘシ

第一項ノ申請ニ因リ變更登録ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ事項カ土地建物ニ關スルトキハ遲滞ナク登記官廳ニ通知シ工業所有權ニ關シテハ特許局ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記官廳ハ職權ヲ以テ相當登記ヲ爲スヘシ

第十六條 新ニ工場財團ニ組入レムトスル物又ハ權利ニ付テハ工場財團設定ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 工場所有者カ工場財團ニ屬スル工場ノ設計又ハ工事方法ヲ變更セムトスルトキハ胎權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ四十日ヲ下ルコトヲ得ス

胎權者カ異議ヲ申立タルトキハ工場所有者ハ臺灣總督ノ裁定ヲ申請スヘシ

前二項ノ規定ハ胎權者カ豫メ同意シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第十八條 工場所有者カ工場財團ニ屬スル工場ノ設計又ハ工事方法ノ變更ニ付キ許可又ハ認可ヲ申請シタル場合ニ於テ臺灣總督カ必要ト認ムルトキハ工場所有者ヲシテ胎權者ニ對シ異議アラハ申立ヲ爲スヘキ旨ヲ催告セシムルコトヲ得

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 臺灣製糖及纖維工場胎權規則第九條ノ場合ニハ職權ヲ以テ工場財團ノ登録ヲ抹消シ土地建物ニ付テハ登記官廳ニ通知シ工業所有權ニ付テハ特許局ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記官廳ハ職權ヲ以テ相當登記ヲ爲スヘシ

第二十條 胎權消滅ノ原因發生シタルトキハ遲滞ナク當事者ノ連署ヲ以テ胎權抹消ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ胎權者ノ連署ヲ得ルコト能ハサルトキハ確定判決又ハ胎權消滅ヲ證スヘキ書類ヲ提出シ工場所有者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得

胎權ノ移轉變更ノ場合ハ第一項ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ申請ニ因リ登録シタルトキハ二日以上府報及地方廳ノ揭示場ニ公示シ土地建物ニ付テハ登記官廳ニ通知シ工業所有權ニ付テハ特許局ニ通知スヘシ

通知ヲ受ケタル登記官廳ハ職權ヲ以テ相當登記ヲ爲スヘシ

第二十一條 工場財團登録簿ハ臺灣總督ノ命令ニ因リ廳長之ヲ爲ス

第二十二條 工場財團登録簿ハ別記様式ニ依ル

工場財團登録申請書ニ添付セル工場財團目錄ハ工場財團登録簿ニ登録ヲ爲シタルトキハ工場財團登録簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登録ト看做ス

第二十三條 登録ニ關スル書類ハ別記第一號乃至第六號書式ニ依リ提出スヘシ

第二十四條 地方廳ニ於テ登録ノ申請書ヲ受理シタルトキハ遲滞ナク之ヲ臺灣總督ニ進達スヘシ

臺灣總督ハ前項ノ書類ヲ調査シ登録スヘキモノト認メタルトキハ之ヲ廳長ニ送付シ其ノ登録ヲ命ス

廳長ハ工場財團登録簿ニ登録ヲ爲シタルトキハ直ニ其旨ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

前項ノ報告アリタルトキハ臺灣製糖及纖維工場胎權規則第十二條及本令第十四條第一項第十

五條第三項第十九條第一項第二十條第四項ノ手續ハ臺灣總督之ヲ爲ス

第二十五條 何人ト雖工場財團登録簿ノ閱覽又ハ謄本抄本ノ下付ヲ申請スルコトヲ得但シ左ノ

手数料ヲ納付スヘシ

一閱覽

一回ニ付

金二十錢

一閱覽

一 原本又ハ抄本 二枚ニ付 金二十錢
第二十六條 前條ノ手数料ハ共ノ申請書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
第二十七條 第十五條第一項ノ申請ヲ爲サヌ又ハ第二十條第一項ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記

(樣式)

第 號

工場財團登錄簿

廠 名

表示番號	甲區(財團)	登錄番號
	表示番號	登錄番號
表示番號	登錄	示表團財
	登錄	地在所團財
表示番號	登錄	事項

第一號書式

工場財團設定登錄申請書

- 一 工場財團所在地
 - 二 登錄ノ目的
 - 三 添附書類ノ表示
- 右登錄申請候也

年 月 日

臺灣總督宛

住所

申請人、、、、、、

第二號書式

工場財團目錄變更登錄申請書

- 一 工場財團ノ所在地
 - 二 登錄ノ目的
 - 三 登錄ノ原因及其ノ日付
 - 四 變更事項
 - 五 添附書類ノ表示
- 右登錄申請候也

年月日

臺灣總督宛

第三號書式

工場胎權設定登錄申請書

- 一 工場胎權所在地
- 二 登錄ノ目的
- 三 登錄ノ原因及其ノ日付
- 四 債權額
- 五 期限
- 六 利息及其ノ支拂期
- 七 權利者義務者ノ住所氏名
- 八 登錄稅
- 九 添附書類ノ表示

右登錄申請候也

年月日

臺灣總督宛

第四號書式

工場胎權移轉登錄申請書

- 一 工場胎權所在地
- 二 登錄ノ目的
- 三 登錄ノ原因及其ノ日付
- 四 權利者義務者ノ住所氏名
- 五 登錄稅
- 六 添附書類ノ表示

右登錄申請候也

住所

申請人

、、、、、、



住所

申請人

、、、、、、



年月日

臺灣總督宛

第五號書式

工場胎權變更登錄申請書

- 一 工場胎權所在地
- 二 登錄ノ目的
- 三 登錄ノ原因及其ノ日付
- 四 變更事項
- 五 登錄稅
- 六 添附書類ノ表示

右登錄申請候也

年月日

臺灣總督宛

第六號書式

工場胎權登錄抹消申請書

- 一 工場胎權所在地
- 二 登錄ノ目的
- 三 登錄ノ原因及其ノ日付
- 四 權利者義務者ノ住所氏名
- 五 登錄稅
- 六 添附書類ノ表示

右登錄申請候也

年月日

臺灣總督宛

住所

申請人

、、、、、、



住所

申請人

、、、、、、



住所

申請人

、、、、、、



○臺灣總督府令第四十八號(官報五月二十三日)
臺灣總督府土木部職員徽章佩用規程左ノ通相定ム

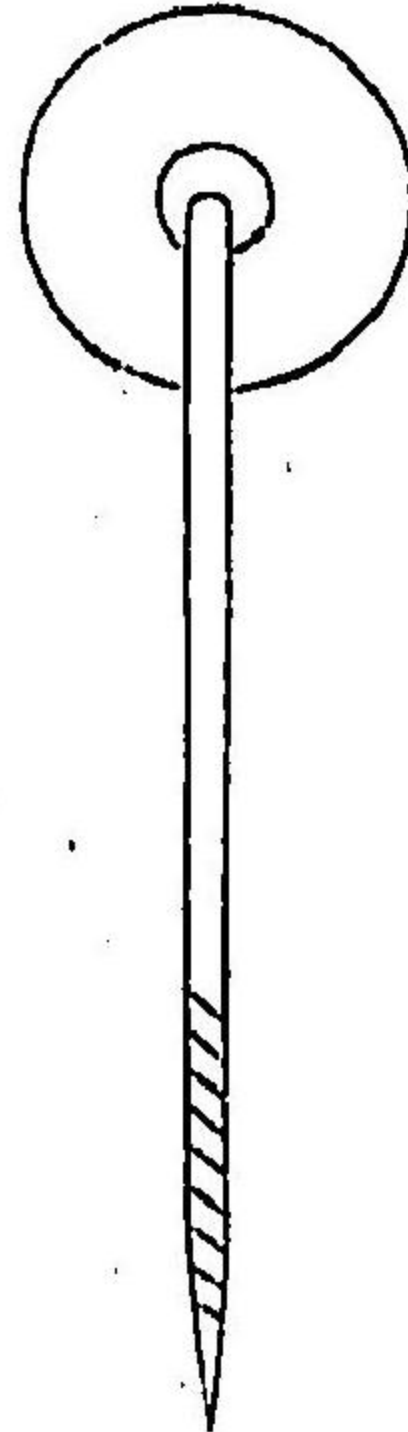
臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

明治四十三年五月十一日
臺灣總督府土木部職員徽章佩用規程
第一條 臺灣總督府土木部職員ニシテ電氣ニ關スル業務ニ従事スル者ニハ本令ニ依リ徽章ヲ佩用セシム

表 面



裏 面



圓形大サ直徑五分五厘中心台字ハ銀色ノ縁取内赤色電光及輪廓銀色其ノ空間ハ紺色
第三條 徽章ハ職務ヲ行フトキ之ヲ佩用スルモノトス
第四條 徽章ハ洋服ニ在リテハ上衣左胸部、和服ニ在リテハ袷劍尖ニ之ヲ附スヘシ
第五條 徽章ハ之ヲ佩用者ニ貸與シ現職ヲ離レタルトキハ直ニ返納セシムルモノトス
第六條 徽章ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ之ヲ辨償セシム但シ情狀ニ依リ之ヲ免除スルコトアルヘシ
附 則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第四十九號(官報五月二十六日)

廳長ヲシテ民事訴訟調停等ヲ取扱ハシムル律令施行細則中左ノ通改正ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

明治四十三年五月二十日

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ
爭訟價格百圓未満ノ事件ハ口頭ヲ以テ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ調書ヲ作り申請人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ
第七條第四項中「廳令ヲ」法令ニ改ム
第十條第二項ヲ左ノ如ク改ム

船舶ノ登記ニ關シテハ明治四十一年律令第十二號及其ノ附屬法令ヲ準用ス

第二十二條第二項中「恆春廳臺東廳ヲ」臺東廳花蓮港廳ニ改ム

○臺灣總督府令第五十號(官報五月二十六日)

明治四十一年十月府令第六十三號中「明治四十二年十月十二日告示第百八十八號ニ定メタル事務分掌區域ニ依リ」等郵便局長ヲ「臺灣總督府通信局長」ニ改ム

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

明治四十三年五月二十日

〔參照〕

臺灣總督府令第六十三號(明治四十一年十月二十七日告示)抄録

第一項
官廳又ハ國庫金若ハ地方税金ヲ取扱フ銀行業者臺灣島内ニ於テ電信爲替ニ依リ高價ノ金員ヲ送付セムトスルトキハ豫メ明治四十二年十月十二日告示第百八十八號ニ定メタル事務分掌區域ニ依リ一等郵便局長ノ認可ヲ受ケタルモノニ限リ電信爲替證書一枚ノ制限金額ヲ五千圓迄ニ高ムルコトヲ得

○關東都督府令第十號(官報五月十四日)
明治四十一年六月府令第三十八號藥品營業並藥品取締規則中左ノ通改正ス

明治四十三年四月二十九日

關東都督 子爵大島義昌

- 第一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
製藥者トハ藥品ヲ製造シ之ヲ販賣スル者ヲ謂フ
- 第二條第一項中「願出許可ヲ受クヘシ」ヲ「届出ヘシ」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
製藥者開業セムトスルトキハ藥品名製法及自己又ハ擔當技術者ノ履歷書ヲ添へ所轄民政署ヲ經由シ關東都督ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第三條中「製劑師」ノ次ニ「製藥者」ヲ加フ
- 第四條第一項中「中央試驗所」ヲ削リ第二項「封緘アル」以下ヲ「モノ並別ニ指定スル藥品ハ前項ノ検査ヲ要セス」ニ改ム
- 第五條中「新規ノ藥品ハ關東都督府中央試驗所」ヲ「新規ノ藥品ニシテ第七條ニ依リ毒藥劇藥トシテ定メラレタルモノハ關東都督府」ニ改ム
- 第十三條中「許可ヲ受ケス」ニテ「藥品ノ營業ヲ爲シタル者」ヲ「第二條ニ改ム
- 第十四條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ
- 第十五條 關東都督ハ製劑師製藥者製藥商賣藥商賣藥請賣商ニシテ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ其ノ業務ヲ營ムニ堪ヘスト認メタルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 第十六條 關東都督府ニ於テ貼附スル検査證ハ別記離形ニ據ル
- 第十七條 本令ニ依ル藥品検査手数料ハ每一件金一圓以上金十圓以下トシ検査封緘料ハ一箇ニ付金二錢トス

附則

本令ハ明治四十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前關東都督府中央試驗所ニ於テ検査封緘セル藥品ハ更ニ検査ヲ受クルニ及ハス

(別記離形)

検査證



検査證種類	寸法	横
第一號 輪圓	四寸九分五厘	一寸二分
第二號 同	四寸五厘	一寸五厘
第三號 同	三寸三分五厘	九分
第四號 同	二寸五分	八分
第五號 同	一寸五分	五分五厘

(参照)

- 關東都督府令第三十八號藥品營業並藥品取締規則(明治四十一年六月十六日(官報)抄録)
- 第二條第一項 製劑師開業セムトスルトキハ製劑師免狀及履歷書ヲ添へ所轄民政署ヲ經由シ關東都督府ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第三條第一項 製劑師製藥商製藥者又ハ死亡シタルトキハ五日以内ニ所轄民政署ヲ經由シ關東都督府ニ届出ヘシ
- 第四條 藥名ハ日本藥局力ニ記載セルモノハ其ノ所定ニ適合シ日本藥局力ニ記載セザルモノハ其ノ據ル所ノ外國藥局力ニ適合シ且關東都督府中央試驗所ノ検査ヲ經其ノ封緘アルモノニ非サレハ貯藏販賣授與スルコトヲ得ス
- 傳染病研究所ニ於テ製造シタル血清類及衛生試驗所ノ検査ヲ經其ノ封緘アル藥品ニハ前項ノ規定ヲ適用セス但シ必要ト

第五條 何レノ藥局方ニモ記帳セサル新規ノ藥品ハ關東都督府中央試驗所ノ検査ヲ經其ノ成績書ノ全文ヲ記帳シ且其ノ封
 緘アルモノニ非サレハ貯藏販賣授與スルコトヲ得ス
 第十三條 許可ヲ受ケスシテ藥品ノ營業ヲ爲シタル者又ハ第四條第五條第十條第十一條ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰
 金ニ處ス

○關東都督府令第十一號 (官報五月十四日)

明治四十年十月府令第五十五號關東都督府中央試驗所規程及明治四十一年六月府令第三十六號關東都
 督府中央試驗所試驗規程ハ明治四十三年四月三十日限り之ヲ廢止ス

明治四十三年四月二十九日

關東都督 子爵大島義昌

○關東都督府令第十二號 (官報五月十四日)

藥品營業並藥品取締規則ニ依ル藥品ノ検査ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十三年四月二十九日

關東都督 子爵大島義昌

藥品營業並藥品取締規則第四條第五條ノ検査ニ關シテハ當分ノ内南滿洲鐵道株式會社中央試驗所
 ニ當該吏員ヲ派シ其ノ事務ヲ取扱ハシム

附則

本令ハ明治四十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第十三號 (官報五月十四日)

明治四十一年六月府令第三十七號中左ノ通改正ス

明治四十三年四月二十九日

關東都督 子爵大島義昌

明治四十一年六月府令第三十七號中「中央試驗所」ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

明治四十一年六月二十六日府令七 關東都督府令第三十七號ハ關東都督府中央試驗所ノ保證又ハ試驗所等ノ文字記入ニ關スル
 件ナリ

○關東都督府令第十四號 (官報五月十四日)

關東都督府郵便所長採用規則左ノ通定ム

明治四十三年四月三十日

關東都督 子爵大島義昌

關東都督府郵便所長採用規則

第一條 關東都督府郵便所長ハ左記各號ノ資格ヲ具備スル者ヨリ之ヲ採用ス

一 滿二十年以上ノ男子

二 其ノ郵便所所在地ニ在住スル者

三 實價三百圓以上ノ不動産若ハ記名國債證券ヲ所有スル者又ハ關東都督府通信管理局長ニ於
 テ之ト同額以上ノ確實ナル資産ヲ有スト認メタル者但シ滿三箇年以上通信事務ニ從事シタ
 ル官吏ハ本號ノ資格ヲ要セス

四 中學校第三學年以上修業ノ者若ハ關東都督府通信管理局長ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリ
 ト認メタル者

第二條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ關東都督府郵便所長トナルコトヲ得ス

一 罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 懲戒處分ニ依リ免職セラレ滿二箇年ヲ經過セサル者

第三條 關東都督府郵便所長職實ニ其ノ職務ヲ奉シタル後老衰又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ
 職ヲ辭スルカ或ハ在職中死亡セシトキ其ノ嗣子又ハ相續人タル男子年滿十六年以上ニシテ第
 一條第二號乃至第四號ノ資格ヲ具備シ且第二條各號ニ抵觸セサル者ハ特ニ採用スルコトヲ得

第四條 非戸主ニシテ其ノ戸主實價三百圓以上ノ不動産若ハ記名國債證券ヲ所有スル者又ハ關東都督府通信管理局長ニ於テ之ト同額以上ノ確實ナル資産ヲ有スト認メタル者ノ保證アル場合ニ於テハ其ノ本人ノ資産第一條第三號ニ適合セサルモ特ニ採用スルコトヲ得

○關東都督府令第十五號(官報五月十四日)

關東都督府郵便所長手當金年額左ノ通定ム

明治四十三年四月三十日

關東都督 子爵大島義昌

等級	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
年額	六百圓	五百四十圓	四百八十圓	四百二十圓	三百六十圓	三百圓	二百四十圓	百八十圓

○關東都督府令第十六號(官報五月十七日)

通信官署經費渡切規則左ノ通定ム

明治四十三年五月七日

關東都督 子爵大島義昌

通信官署經費渡切規則

第一條 明治四十年^七勅令第二百六十一號ニ依リ特ニ指定シタル通信官署ノ局所長ニ交付スヘキ渡切經費ノ種目ハ左ノ如シ

- 一 器具機械費
- 二 式紙帳簿雜品費
- 三 圖書及印刷費
- 四 薪炭費
- 五 點燈費
- 六 通信運搬費

- 七 備人料
- 八 郵便所事務費
- 九 郵便所集配費
- 十 郵便所遞送費
- 十一 船舶車輛費
- 十二 賄費
- 十三 諸雜費

前項各號ノ渡切經費中當該通信官署ノ局所長ニ交付スヘキモノノ種目及其ノ細目ハ關東都督府通信管理局長之ヲ定ム

第二條 渡切經費ノ交付ヲ受ケタル通信官署ノ局所長ハ其ノ交付額ヲ以テ前條ニ依リ指定スル一切ノ費途ヲ負擔シ渡切經費ニ關スル簿冊ヲ設ケ一切ノ收支ヲ登記シ其ノ經理ヲ責ニ任スヘシ

第三條 渡切經費ニ關スル費途ノ仕拂ニ關シテハ官職名ヲ以テスルト否トニ拘ラス總テ當該通信官署ノ局所長自己ノ責任トシ政府其ノ責ニ任セシ

第四條 渡切經費ハ毎月十六日以後當該通信官署ノ局所長ニ之ヲ交付ス但シ時宜ニ依リ別途仕拂ヲ爲シ又ハ別途現品ヲ以テ交付スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ本條ノ交付額ヨリ其ノ費額ヲ控除ス

郵便所ノ渡切經費交付期日ハ關東都督府通信管理局長之ヲ定ム

第五條 渡切經費ヲ交付スヘキ通信官署ヲ開始シ若ハ新ニ指定シタル場合ニ於ケル當月分ノ渡切經費ハ日割計算ヲ以テ之ヲ交付ス渡切經費額ニ増減ヲ生シタルトキ亦同シ

渡切經費ヲ交付スヘキ通信官署ノ局所長ノ交迭又ハ死亡ノ場合ニ於ケル當月分ノ渡切經費ハ其ノ交迭又ハ死亡ノ日カ月ノ十五日以前ナルトキハ半額ヲ月ノ十六日以後ナルトキハ全額ヲ前任局所長ニ交付シ其ノ後任局所長ニ交付スヘキ渡切經費ハ任命ノ翌日ヨリ月末ニ至ル日數ニ依リ

之ヲ算定ス
渡切經費ヲ交付スヘキ通信官署ノ指定ヲ廢止シ又ハ其ノ通信官署ヲ廢止シタル場合ニ於ケル當
月分ノ渡切經費ハ其ノ廢止ノ日カ月ノ十五日以前ナルトキハ半額ヲ月ノ十六日以後ナルトキハ
全額ヲ交付ス

郵便所ニ交付スヘキ渡切經費ハ前二項ノ場合ニ於テ日割計算トス

第六條 郵便所長死亡又ハ失職ノ場合ニ於テ身元引受人代テ其ノ事務ヲ執行シタルトキハ其ノ間
渡切經費ハ身元引受人ニ之ヲ交付ス

前項ノ場合ニ於テ特ニ吏員ヲ派遣シ所長ノ事務ヲ執行セシメタルトキハ其ノ間渡切經費ノ全部
若ハ一部ヲ交付セス

第七條 渡切經費ヲ交付スヘキ通信官署ヲ指定シ若ハ渡切經費ノ種目細目ヲ増加シタル場合ニ於
テ其ノ當初準備ノ爲ニ要スルモノハ前各條ニ依リ交付スルモノノ外一時限リ別途仕拂ヲ爲シ又
ハ別途現品ヲ交付スルコトアルヘシ

第八條 天災事變又ハ事業ノ興廢伸縮若ハ規模變更等ノ場合ニ於テ渡切經費ヲ以テ支辨スヘキ費
途ニ著シキ異動ヲ生シタルトキハ渡切經費ノ交付額ヲ増減スルコトアルヘシ

第九條 渡切經費ハ土地ノ狀況又ハ特殊ノ事由ニ依リ必要アリト認ムルトキハ一時ニ數月分ヲ交
付スルコトアルヘシ

附則

本令ハ明治四十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年九月府令第四十九號ハ之ヲ廢止ス

〔参照〕

明治四十年九月五日府令 關東都府令第四十九號ハ通信官署局長ニ交付スヘキ渡切經費ノ種目方法等ニ關シ通信官令
等適用ナリ

○統監府令第二十號(官報六月四日)
出版規則左ノ通定ス

明治四十三年五月二十八日

統監 子爵曾禰荒助

出版規則

第一條 出版ニ關シテハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外出版法及豫約出版法ノ規定ヲ準用ス但シ
同法中内務大臣トアルハ統監ニ、内務省トアルハ統監府ニ、地方官職トアルハ理事廳理事官ニ該
當ス

第二條 出版法ニ依リ内務大臣カ發賣頒布ヲ禁シタル文書圖書ハ韓國ニ於テモ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

第三條 出版法中罰則ノ規定ニ該當スル者又ハ第二條ノ規定ニ違反スル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ
二百圓以下ノ罰金ニ、豫約出版法中罰則ノ規定ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第二十一號(官報六月十一日)

明治四十二年統監府令第二十八號 統監府裁判所ノ名稱、位置及管轄區域表中左ノ通改正ス

明治四十三年六月四日

統監 子爵寺内正毅

- 一 驪州區裁判所ノ項中「陽智」ヲ削リ水原區裁判所ノ項中「龍仁」ノ下ニ「陽智」ヲ加フ
- 一 金浦區裁判所ノ項中「富平」ヲ削リ仁川區裁判所ノ項中「仁川府」ノ下ニ「富平」ヲ加フ
- 一 通川、江陵及蔚珍區裁判所ノ三項ヲ削リ永興區裁判所ノ項ノ次ニ左ノ三項ヲ加フ

通川	江原道	通川、欽谷、高城
江陵	江原道	江陵、襄陽、杆城
蔚珍	蔚珍	蔚珍、平海、三陟

一 鴻山區裁判所ノ項中「扶餘、林川、韓山」ヲ削リ「江景區裁判所」ノ項中「石城」ノ下ニ「扶餘」ヲ「恩津」ノ下ニ「林川、韓山」ヲ加フ

一 鎮南浦、靑寧及松禾區裁判所ノ三項ヲ削リ成川區裁判所ノ項ノ次ニ左ノ三項ヲ加フ

鎮南浦 (三和府) 三和府、龍岡、江西、龍山

靑寧 黃海道 慈寧、安岳、倍川

松禾 松禾、長洲、殷栗

一 平山區裁判所ノ項中「兎山」ヲ削リ新溪區裁判所ノ項中「谷山」ノ下ニ「兎山」ヲ加フ

馬山 (昌原府) 昌原府、成安

密陽 密陽、靈山、昌寧

龍南 龍南、固城、巨濟

一 羅州區裁判所ノ項中「綾州」ヲ削リ光州區裁判所ノ項中「同福」ノ下ニ「綾州」ヲ加フ

一 順天區裁判所ノ項ヲ削リ羅州區裁判所ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

一 南原區裁判所ノ項ヲ削リ錦山區裁判所ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

順天 順天、光陽、慶水、突山、興陽

南原 南原、淳昌、任實、靈峯

附則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ハ受理裁判所引續キ之ヲ取扱フ

○統監府令第二十二號(宣稱六月十一日)
明治四十二年統監府令第二十九號中左ノ通改正ス

明治四十三年六月四日

統監 子爵寺内正毅

第一項中「清津」ノ下ニ「鎮南浦」ヲ「新義州」ノ下ニ「馬山」ヲ「木浦」ノ下ニ「全州及祥山」ヲ加ヘ「及全州」ヲ削ル

別表ヲ左ノ如ク改ム

別表

地方裁判所支部管轄表

支部ノ名稱

京城地方裁判所仁川支部

所管區裁判所
仁川區裁判所

京城地方裁判所春川支部

金浦區裁判所
江華區裁判所

京城地方裁判所春川支部

春川區裁判所
金城區裁判所

京城地方裁判所春川支部

鐵原區裁判所
平昌區裁判所

公州地方裁判所清州支部

原州區裁判所
清州區裁判所

公州地方裁判所清州支部

報恩區裁判所
永同區裁判所

公州地方裁判所清州支部

忠州區裁判所
陰城區裁判所

公州地方裁判所清州支部

堤川區裁判所

咸興地方裁判所元山支部

咸興地方裁判所清津支部

平壤地方裁判所鎮南浦支部

平壤地方裁判所新義州支部

- 元山區裁判所
- 永興區裁判所
- 通川區裁判所
- 江陵區裁判所
- 蔚珍區裁判所
- 清津區裁判所
- 鏡城區裁判所
- 城津區裁判所
- 會寧區裁判所
- 慶興區裁判所
- 鎮南浦區裁判所
- 靛寧區裁判所
- 松禾區裁判所
- 新義州區裁判所
- 義州區裁判所
- 龍川區裁判所
- 宣川區裁判所
- 定州區裁判所
- 寧邊區裁判所
- 江界區裁判所
- 楚山區裁判所

釜山地方裁判所馬山支部

釜山地方裁判所晉州支部

光州地方裁判所木浦支部

光州地方裁判所全州支部

光州地方裁判所群山支部

附則

本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 馬山區裁判所
- 密陽區裁判所
- 龍南區裁判所
- 晉州區裁判所
- 陝川區裁判所
- 居昌區裁判所
- 河東區裁判所
- 木浦區裁判所
- 海南區裁判所
- 長興區裁判所
- 濟州區裁判所
- 靈光區裁判所
- 全州區裁判所
- 鎮安區裁判所
- 錦山區裁判所
- 南原區裁判所
- 群山區裁判所
- 古阜區裁判所
- 興德區裁判所

本令施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ハ受理裁判所引續キ之ヲ取扱フ
○統監府令第二十三號(官報六月十一日)
在外指定學校規程左ノ通定ム

明治四十三年六月四日

統監 子爵寺内正毅

在外指定學校規程

- 第一條 在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法第一條ニ依リ指定ヲ受ケムトスルトキハ學校管理
理者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ統監ニ申請スヘシ
 - 一 學校ノ名稱
 - 二 學校ノ沿革
 - 三 學則
 - 四 職員ノ履歷書
 - 五 現在生徒學年別及學級別人員
 - 六 校地校舍及附屬舎ノ平面圖
 - 七 學校經費ニ關スル收入支出豫算
- 前項第一號第三號ノ變更ハ統監ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 學則ニ規定スヘキ事項概ネ左ノ如シ
 - 一 修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項
 - 二 學科課程、教授時數ニ關スル事項
 - 三 生徒ノ入學、退學、課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
 - 四 授業料、入學料等ヲ徵收スルトキハ之ニ關スル事項
 - 五 寄宿舎ヲ設ケルトキハ之ニ關スル事項

小學校ニ在リテハ前項第二號ノ事項ヲ規定スルヲ以テ足ル

第三條 第一條ノ申請ニ基キ指定ヲ爲スヘキ學校ハ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科
ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具フルモノニ限ル

第四條 第一條ニ依リ指定セラレタル學校ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ事由並生徒ノ處分方法ヲ
具シ統監ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 小學校、中學校、高等女學校ノ教科ヲ授ケル在外指定學校ノ教諭、助教諭、訓導及准訓導ハ各
相當ノ教員免許狀ヲ有スル者ヨリ之ヲ採用ス但シ高等女學校ニ在リテハ第二學年以下ノ教授ヲ
擔任セシムル爲小學校本科正教員タルコトヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヨリ之ヲ採用スルコトヲ
得

第六條 專門學校、實業學校ノ教科ヲ授ケル在外指定學校ノ教諭、助教諭ハ明治三十六年文部省令
第十三號公立私立專門學校規程第七條第一項及明治四十年文部省令第二十八號公立私立實業學
校教員資格ニ關スル規程第一條ノ資格ヲ有スル者ヨリ之ヲ採用ス

第七條 實業補習學校ノ教科ヲ授ケル在外指定學校ノ訓導、准訓導ハ統監ノ認可シタル者ヨリ之
ヲ採用スルコトヲ得

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ何等ノ名稱ヲ以テスルモ在外指定學校ノ職員ニ採用スルコ
トヲ得ス

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
- 三 懲戒ニ依リ免官若ハ免職ニ處セラレタル後二箇年ヲ經過セサル者
- 四 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者
- 五 清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法ニ依リ在留禁止ノ處分ヲ受ケ解禁後二箇年ヲ經過セサル者

者

六 性行不貞ト認ムヘキ者

第九條 在外指定學校職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然其ノ職ヲ失フモノトス

一 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第十條 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル在外指定學校ノ學校長教諭助教諭訓導舎監及書記ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所轄理事官ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得

一 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セザルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ職務ヲ行フニ妨ケアルトキ

三 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

四 教員養成ヲ目的トスル官立公立學校ニ入學スルトキ

第十一條 在外指定學校ノ學校長教諭助教諭訓導舎監及書記ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキハ當然休職者トス但シ陸軍六週間現役ニ服スル者ハ此ノ限リニ在ラス

第十二條 休職ノ期間ハ第十條第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第三號ノ場合ニ在リテハ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ同條第四號及第十一條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス

第十三條 休職ノ期間滿チタルトキハ當然退職者トス

第十四條 在外指定學校ノ職員ニシテ職務上ノ義務ニ違反シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ行爲アリタルトキハ所轄理事官ハ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ罷責減俸及免職トス

第十五條 在外指定學校職員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハムトスルトキハ理事官ハ期間ヲ定メ本人ヨリ手續書ヲ徵スヘシ但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限リニ在ラス

第十六條 懲戒ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第十七條 減俸ハ一箇月以上一箇年以下俸給月額三分ノ一以下ヲ減ス

第十八條 第十四條乃至第十七條ノ規定ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル在外指定學校ノ職員ニハ之ヲ適用セス

第十九條 理事官ハ第十四條ニ依リ懲戒處分ヲ行ヒタル者アルトキハ其ノ氏名職名及事由ヲ具シ統監ニ報告スヘシ

第二十條 在外指定學校職員ノ旅費其ノ他ノ給與ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外學校管理者之ヲ定メ所轄理事官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 在外指定學校ニシテ第三條ノ要件ヲ失ヒ又ハ學校管理者ニ於テ法令ニ違反シタルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第二十二條 本令ニ依リ學校管理者ヨリ統監ニ提出スヘキ書類ハ所轄理事官ヲ經由スヘシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ルコトナレ

第十四條 在外指定學校ノ職員ニシテ職務上ノ義務ニ違反シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ行爲アリタルトキハ所轄理事官ハ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ罷責減俸及免職トス

第十五條 在外指定學校職員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハムトスルトキハ理事官ハ期間ヲ定メ本人ヨリ手續書ヲ徵スヘシ但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限リニ在ラス

第十六條 懲戒ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第十七條 減俸ハ一箇月以上一箇年以下俸給月額三分ノ一以下ヲ減ス

第十八條 第十四條乃至第十七條ノ規定ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル在外指定學校ノ職員ニハ之ヲ適用セス

第十九條 理事官ハ第十四條ニ依リ懲戒處分ヲ行ヒタル者アルトキハ其ノ氏名職名及事由ヲ具シ統監ニ報告スヘシ

第二十條 在外指定學校職員ノ旅費其ノ他ノ給與ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外學校管理者之ヲ定メ所轄理事官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 在外指定學校ニシテ第三條ノ要件ヲ失ヒ又ハ學校管理者ニ於テ法令ニ違反シタルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第二十二條 本令ニ依リ學校管理者ヨリ統監ニ提出スヘキ書類ハ所轄理事官ヲ經由スヘシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ルコトナレ

第十四條 在外指定學校ノ職員ニシテ職務上ノ義務ニ違反シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ行爲アリタルトキハ所轄理事官ハ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ罷責減俸及免職トス

第十五條 在外指定學校職員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハムトスルトキハ理事官ハ期間ヲ定メ本人ヨリ手續書ヲ徵スヘシ但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限リニ在ラス

第十六條 懲戒ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第十七條 減俸ハ一箇月以上一箇年以下俸給月額三分ノ一以下ヲ減ス

第十八條 第十四條乃至第十七條ノ規定ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル在外指定學校ノ職員ニハ之ヲ適用セス

第十九條 理事官ハ第十四條ニ依リ懲戒處分ヲ行ヒタル者アルトキハ其ノ氏名職名及事由ヲ具シ統監ニ報告スヘシ

第二十條 在外指定學校職員ノ旅費其ノ他ノ給與ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外學校管理者之ヲ定メ所轄理事官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 在外指定學校ニシテ第三條ノ要件ヲ失ヒ又ハ學校管理者ニ於テ法令ニ違反シタルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第二十二條 本令ニ依リ學校管理者ヨリ統監ニ提出スヘキ書類ハ所轄理事官ヲ經由スヘシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ルコトナレ

第十四條 在外指定學校ノ職員ニシテ職務上ノ義務ニ違反シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ行爲アリタルトキハ所轄理事官ハ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ罷責減俸及免職トス

第十五條 在外指定學校職員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハムトスルトキハ理事官ハ期間ヲ定メ本人ヨリ手續書ヲ徵スヘシ但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限リニ在ラス

第十六條 懲戒ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第十七條 減俸ハ一箇月以上一箇年以下俸給月額三分ノ一以下ヲ減ス

第十八條 第十四條乃至第十七條ノ規定ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル在外指定學校ノ職員ニハ之ヲ適用セス

第十九條 理事官ハ第十四條ニ依リ懲戒處分ヲ行ヒタル者アルトキハ其ノ氏名職名及事由ヲ具シ統監ニ報告スヘシ

○統監府令第二十四號(官報六月十一日)

明治四十二年統監府令第三十一號別表中左ノ通改正ス

明治四十三年六月四日

統監 子爵寺内正毅

- 一 平壤監獄ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
平壤監獄南浦分監 同 平安南道鎮南浦
- 一 釜山監獄ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
釜山監獄馬山分監 同 慶尙南道馬山
- 一 光州監獄全州分監ノ項ヲ削リ光州監獄木浦分監ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ
光州監獄全州分監 同 全羅北道全州
光州監獄群山分監 同 全羅北道群山

附則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第二十五號(官報六月十八日)

在外指定學校職員ノ職務及服務ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十三年六月十一日

統監 子爵寺内正毅

- 第一條 在外指定學校ノ職員ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉體シ法律命令ニ從ヒ誠實ニ其ノ職務ニ服スヘシ
- 第二條 學校長ハ校務ヲ處理シ所屬職員ヲ監督ス
- 第三條 正教員ハ生徒ノ教育ヲ擔任ス
- 第四條 正教員以外ノ教員ハ正教員ノ職務ヲ助ク
- 第五條 舍監ハ生徒ノ訓育ヲ擔任ス
- 第六條 書記ハ庶務及會計ニ從事ス

第七條 職員ハ理事官ノ認可ヲ受ケテシテ擅ニ職務ヲ離レ又ハ職務上居住スヘキ地ヲ離ル、コトヲ得ス

第八條 職員ハ營利ヲ目的トスル會社ノ役員ト爲リ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行ヒ若ハ營利ヲ目的トスル業務ヲ爲スコトヲ得ス但シ理事官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限リニ在ラス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第二十六號(官報六月十八日)

特ニ指定スル郵便局ニ於テハ該郵便局ニ振宛テ且該郵便局ノ普通郵便區内ニ居住スル者ノ受取ルヘキ郵便爲替ニ對シ郵便爲替規則ニ依リ爲替金ノ居宅拂ヲ取扱フ

附則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年統監府令第六十八號ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年六月十一日

統監 子爵寺内正毅

〔參照〕

明治四十二年(十一月二十七日)統監府令第六十八號ハ郵便爲替規則中第六十條第二項ノ規定ヲ韓國ニ適用セサル件ナリ

○統監府令第二十七號(官報六月二十五日)

日韓通信事業合同五周年紀念ノ爲紀念郵便繪葉書ヲ發行シ左記ノ郵便局ニ於テ明治四十二年統監府令第十號郵便切手類及收入印紙賣捌規則ニ準シ之カ賣捌ヲ爲サシム

明治四十三年六月十八日

統監 子爵寺内正毅

- | | | | | | | |
|-------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|
| 京城郵便局 | 光化門郵便局 | 南大門郵便局 | 西大門郵便局 | 仁川郵便局 | 龍山郵便局 | 永登浦郵便局 |
| 水原郵便局 | 開城郵便局 | 公州郵便局 | 江界郵便局 | 洪州郵便局 | 大田郵便局 | 清州郵便局 |
| 忠州郵便局 | 木浦郵便局 | 光州郵便局 | 群山郵便局 | 全州郵便局 | 南原郵便局 | 釜山郵便局 |

高山郵便局	晉州郵便局	大邱郵便局	慶州郵便局	尙州郵便局	安東郵便局	春川郵便局
江陰郵便局	海州郵便局	平壤郵便局	鐵南郵便局	安州郵便局	新義州郵便局	義州郵便局
寧邊郵便局	定州郵便局	江界郵便局	元山郵便局	咸興郵便局	北青郵便局	清津郵便局
咸興郵便局	鏡城郵便局	會寧郵便局	羅南郵便局			

○臺灣總督府令第五十一號(官報六月十三日)

明治四十一年^{十二}府令第七十六號荷車取締規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

- 第十條 道路ヲ通行セサル荷車及在來ノ耕作用牛車ニハ本令ヲ適用セス
- 在來ノ耕作用牛車ニシテ道路ヲ通行セムトスルトキハ廳又ハ支廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第十一條 第一條第四條第五條第七條第八條及第十條第二項ニ違反シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
- 第十二條 本令施行ノ地域ハ廳長之ヲ定ム

〔參照〕

- 臺灣總督府令第七十六號荷車取締規則(明治四十一年^{十二}二月二十七日^{日官報})抄録
- 第十條 第一條第四條第五條第七條及第八條ニ違反シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
- 第十一條 本令施行ノ地域ハ廳長之ヲ定ム
- 第十二條 道路ヲ通行セサル荷車及在來ノ耕作用牛車ニハ本令ヲ適用セス
- 在來ノ耕作用牛車ニシテ道路ヲ通行セムトスルトキハ廳又ハ支廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

○臺灣總督府令第五十二號(官報六月二十七日)

所得稅法施行規則左ノ通相定ム

明治四十三年六月十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

- 第一條 所得稅法ニ定メタル稅務署長ノ職務ハ廳長之ヲ行フ

第二條 納稅義務アル法人ハ每事業年度後左ノ期間内ニ損益計算書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

一 一定時總會ヲ開クモノハ總會後七日

二 一定時總會ヲ開カサルモノ及所得稅法第二條ニ該當スルモノハ事業年度終了後六十日

第三條 所得稅法第二條ニ該當スル法人カ支店營業及資産ノ全部ヲ有セサルニ至リタルトキハ損益計算書ヲ添附シ直ニ所轄廳ニ申告スヘシ

第四條 納稅義務アル法人損益計算書ヲ提出セサルトキハ政府其ノ損益ヲ調査ス

第五條 所得金額ハ廳長之ヲ決定シ納稅義務アル法人ニ通知スヘシ

第六條 所得稅法第二條ニ該當スル法人ノ納稅地ハ支店所在地トシ支店ヲ有セサル者ハ營業ノ所在地トシ支店及營業ヲ有セサル者ハ資産ノ所在地トス

第七條 前條ノ法人カ支店、營業又ハ資産ヲ二箇以上ノ廳管内ニ於テ有スルトキハ其ノ一ニ就キ

納稅地ヲ定メ其ノ地ノ所轄廳ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲ササルトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第八條 前條ノ法人納稅地ヲ變更シタルトキハ新納稅地ノ所轄廳ニ申告スヘシ

第九條 納稅義務アル法人納稅管理人ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ

居所ヲ納稅地ノ所轄廳ニ申告スヘシ納稅管理人其ノ氏名住所又ハ居所ヲ變更シタルトキ亦同シ

納稅管理人ハ納稅地所轄廳ノ管内ニ住所又ハ居所ヲ有スル者タルヲ要ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治四十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ事業年度終了シ第二條ノ期間ヲ經過シ若ハ期間内ニ

在ル者ノ損益計算書提出期間ハ本令施行ノ日ヨリ二十日以内トス但シ二十日以内ニ第二條ノ期間

滿了セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

本令施行ノ際第七條及第九條ノ申告ハ本令施行後二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

○關東都督府令第十七號(官報六月二十一日)
明治四十一年七月府令第四十三號南滿洲鐵道株式會社設立在外指定學校職員ノ職務並服務及俸給ニ
關スル件中左ノ通改正ス

明治四十三年六月十一日

關東都督 子爵大島義昌

第二條中第二項以下ヲ左ノ如ク改ム

- 一 本科正教員十五圓以上百二十圓以下
- 二 專科正教員十圓以上六十圓以下
- 三 准教員十圓以上三十圓以下

附則

本令ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

關東都督府令第四十三號(明治四十一年七月三十一日抄録)

- 第二條 在外指定學校中小學校若ハ實業補習學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校職員ノ俸給ハ左ノ各項ニ依ル
- 一 本科正教員十五圓以上百圓以下
- 二 專科正教員十圓以上四十圓以下
- 三 准教員十圓以上二十圓以下

○關東都督府令第十八號(官報六月二十一日)

關東州ニ於ケル船舶ノ海上衝突豫防ニ關シテハ海上衝突豫防法ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年六月十三日

關東都督 子爵大島義昌

○統監府令第二十八號(官報七月二日)
居留民團法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月二十四日

統監 子爵寺內正毅

第八條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ居留民團規則ヲ以テ助役ノ定員ヲ二名トシ若ハ助役及會計役ヲ置カサルコトヲ得

第十二條第一項中「書記」ノ下ニ「及必要ノ技術員」ヲ第二項中「書記」ノ下ニ「及技術員」ヲ加フ

第十五條中「二十四人」ヲ「三十人」ニ改ム

第十六條中「公權ヲ有スル」ヲ削ル

第二十一條第一項中「二分ノ一」ヲ「二十人以下ニ在リテハ其ノ二分ノ一、二十四人以上ニ在リテハ其ノ三分ノ一」ニ改ム

第三十六條第二項中「輕禁錮」ヲ「禁錮」ニ改ム

(參照)

統監府令第二十一號居留民團法施行規則(明治三十九年七月十四日及七月)抄録

第八條第一項

居留民團ニ助役及會計役各一名ヲ置ク但シ居留民團規則ヲ以テ之ヲ置カサルコトヲ得

第十二條 居留民團ニ書記ヲ置キ民長之ヲ任免ス

書記ノ定數ハ居留民團規則ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 居留民團職員ノ定數ハ八人以上二十四人以下ニ於テ理事官之ヲ定ム

第十六條 居留民ニシテ公權ヲ有スル滿二十五年以上ノ男子一年以來其ノ居留民團稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ選舉權ヲ有ス但シ禁治產者及進禁治產者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條第一項

選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ投票ニハ職員定數ノ二分ノ一ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シ選舉人自ラ民長ニ之ヲ差出スヘシ

第三十六條第二項

前項ノ場合ニ於テ國稅徵收法第三十二條ニ當ル者ハ一年以下ノ輕禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○統監府令第二十九號 (官報 七月二日)
統監ハ居留民團ノ合併ニ因リ失職スヘキ居留民會議員ニ對シ期限ヲ指定シ合併後ノ居留民會議員トシテ在任セシムルコトアルヘシ

統監 子爵寺内正毅

○統監府令第三十號 (官報 七月二日)

明治四十一年統監府令第四十號官廳用、軍用及私設電信電話並特設電話維持規程中左ノ通改正ス

統監 子爵寺内正毅

明治四十三年六月二十五日
第二條第一項第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 電信電話線維持料

電信電話線維持料ハ通信管理局線路ニ併架シタル場合ト否トヲ問ハス一回線毎ニ左ノ如シ但

一丁未満ノ端數ハ之ヲ一丁トシテ計算シ單線式複線ノ部分ニ於ケル一丁未満ノ端數ハ之ヲ單線ノ線條延長ニ併算ス

一 單線式 (單線ノ部分) 線條延長一丁毎ニ 年額金一圓五十錢
二 複線式 (複線ノ部分) 線條延長一丁毎ニ 年額金一圓二十錢

二 複線式

線條延長一丁毎ニ 年額金一圓二十錢

附則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第三十一號 (官報 七月七日)

韓國政府ノ委託ニ係ル警察事務ニ關シテハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外當分ノ内韓國從來ノ規定ニ依ル

前項ノ規定中内務大臣及警視總監ノ權限ニ屬シタル事項ハ統監府警務總長、觀察使ノ權限ニ屬シ

タル事項ハ統監府警務部長、警察署長及警察分署長ノ權限ニ屬シタル事項ハ統監府警察署長之ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

統監 子爵寺内正毅

○統監府令第三十二號 (官報 七月七日)

司法警察官官制廢止ノ際現ニ統監府巡查ソ職ニ在ル者ハ同俸給額ヲ以テ統監府警察官署巡查ニ採用セラレタルモノトス

統監府警察官官制施行ノ際現ニ韓國巡查ノ職ニ在ル韓國人ハ同俸給額ヲ以テ統監府警察官署巡查補ニ採用セラレタルモノトス

統監 子爵寺内正毅

明治四十三年七月一日

○統監府令第三十三號 (官報 七月九日)

韓國著作權令施行規則中左ノ通改正ス

統監 子爵寺内正毅

明治四十三年七月二日

第一條 韓國ニ於ケル著作權登錄ニ關シテハ明治四十三年内務省令第二十三號ニ依ル但シ同令中内務大臣トアルハ統監府特許局長ニ、外國人トアルハ日本國及韓國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ニ、官報トアルハ統監府公報ニ該當ス

第三條中京城日報ヲ「統監府公報」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年七月五日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

統監府令第二十八號韓國著作權令施行規則(明治四十一年八月十五日)抄錄
第一條 韓國ニ於ケル著作權登錄ニ關シテハ明治三十二年內務省令第二十八號ニ依ル但シ同令中內務省トアルハ統監府特許局ニ內務大臣トアルハ統監府特許局長ニ該當ス
第三條 著作權者不明ノ著作物ノ發行又ハ發行ニ付テハ明治三十二年內務省令第二十七號ノ規定ニ依ル但シ同令中官報トアルハ京城日報ニ東京トアルハ京城ニ該當ス

○統監府令第三十四號(官報 七月九日)
統監府郵便所長手當金年額左ノ通定ム

明治四十三年七月二日
手當金年額

統監 子爵寺內正毅

級別	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
年	額	六百圓	四百八十圓	四百圓	三百六十圓	三百圓	二百四十圓	二百圓	一百六十圓	一百四十圓	一百二十圓	一百圓

○統監府令第三十五號(官報 七月十八日)

司法警察官官制廢止ノ際統監府巡查ノ職ニ在ル者即日統監府警察官署巡查ニ採用セラレタルトキハ勳績者トス

明治四十三年七月九日

統監代理 山縣伊三郎

○統監府令第三十六號(官報 七月十八日)
警務總監部令及警務部令公文式左ノ通定ム

明治四十三年七月九日

統監代理 山縣伊三郎

警務總監部令及警務部令公文式

第一條 警務總監部令及警務部令ハ其ノ警務總監部令又ハ警務部令ナルコトヲ明記シ警務總長又ハ警務部長之ニ署名シ公布ノ年月日ヲ記入シテ同日之ヲ公布スヘシ

第二條 警務總監部令ハ統監府公報ヲ以テ之ヲ布告シ警務部令ヲ布告スル方法ハ警務部長之ヲ定ム

第三條 警務總監部令ハ其ノ各官廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算シ滿七日ヲ經テ之ヲ施行シ警務部令ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿七日ヲ經テ之ヲ施行ス但シ其ノ部令中特ニ施行時期ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第三十七號(官報 七月十八日)

明治四十二年統監府令第六十九號郵便振替貯金規則中左ノ通改正ス

統監代理

明治四十三年七月九日

副統監 山縣伊三郎

第六十一條中「郵便貯金局ニ屬スル加入者ハ東京郵便局ニ於テ又同大阪郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ大阪郵便局ニ於テ」ヲ「郵便貯金局ニ屬スル加入者ハ東京中央郵便局又ハ逓信省構内郵便局ニ於テ、大阪郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ大阪中央郵便局ニ於テ」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年七月十一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

統監府令第六十九號郵便振替貯金規則(明治四十二年十二月二十一日官報)抄錄

第六十一條 統監府通管管理局ニ屬スル加入者ハ京城郵便局ニ於テ郵便貯金局ニ屬スル加入者ハ東京郵便局ニ於テ大阪郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ大阪郵便局ニ於テ臺灣總督府民政部通管局ニ屬スル加入者ハ臺北郵便局ニ於テ指定受取人ヲシテ即時現金ヲ拂渡ラ受ケシムヘキ屆持拂渡書ヲ提出スコトヲ得

○統監府令第三十八號 (官報 七月十九日)

警察ニ關スル規定中理事官ニ屬シタル職務ハ統監府警務部長(京城ニ在リテハ警務總長)之ヲ行フ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

統監代理
副統監 山縣伊三郎

明治四十三年七月十三日

○統監府令第三十九號 (官報 七月十九日)

統監府及所屬官署ノ執務時間中左ノ通改正ス

七月一日ヨリ九月二十日迄

午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル

附則

本令ハ明治四十三年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

統監代理

副統監 山縣伊三郎

明治四十三年七月十四日

○臺灣總督府令第五十三號 (官報 七月二日)

明治三十二年七月府令第五十四號臺灣總督府醫學學校規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月二十三日

第五條第二號ノ次ヘ一春期 四月十一日ヨリ 臺灣總督 伯備佐久間左馬太

同條第四號中「一月五日」ヲ「一月七日」ニ改ム

第十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第十五條以下順次繰下ク

第十五條 生徒ハ制定ノ服裝ヲナスヘシ

制服様式並著用心得ハ醫學校長之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第五十四號 (官報 七月七日)

砂糖消費税法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月二十六日

臺灣總督 伯備佐久間左馬太

第四條 消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスル者ハ移出場ヲ設ケ共ノ管理人若ハ營業人ト連署シタル申請書ヲ所轄廳ニ提出シテ承認ヲ受クヘシ

前項ノ移出場ニ砂糖、糖蜜、糖水ヲ移出セムトスルトキハ共ノ種類、記號、斤量、箇數及移出ノ日ヲ定メ其ノ都度收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ヲ移出シタルトキハ收税官吏ノ下付シタル移出承認書ヲ移出場所轄

廳ノ收税官吏ニ提出スヘシ

第七條 第五條ノ申告又ハ前條ノ申請アリタルトキハ廳ハ検査済證ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ノ種類

及斤量ヲ査定シ税金ヲ徴收スヘキモノハ之ヲ徴收シ擔保ヲ提供セシムヘキモノハ之ヲ提供セシ

メ引取承認書ヲ下付スヘシ

引取者ノ請求ニ依リ引取ノ日以前ニ於テ引取承認書ヲ下付シタルトキハ共ノ下付シタル日ヲ引

取ノ日ト看做ス

第八條 擔保物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 金錢

二 廳ニ於テ確實ト認ムル有價證券

三 臺灣ニ於ケル工場財團

擔保物ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外廳ノ指定スル所ニ依ル

第十條 擔保トシテ金錢有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ提出スヘシ但シ廳所轄内ニ倉庫ナキトキハ之ヲ供託セシメテ提供スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ領收證ヲ提供者ニ下付シ擔保物ハ之ヲ供託スヘシ

擔保トシテ工場財團ヲ提供シタル者アルトキハ廳ハ胎權設定ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 廳ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得擔保トシテ提供シタル有價證券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ所轄廳ハ擔保提供者ヲシテ直ニ之ニ代ハルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ

前二項ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ廳ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十二條 砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ所轄廳ニ提出スヘシ

一 輸出免狀又ハ之ニ代ハルヘキ書類

二 外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十四條 第二項中「證券ノ種類」ヲ「公賣財產ノ種類」ニ改ム

第十七條 第二項ヲ左ノ如ク改ム

製造者ハ前項ノ引取承認書ヲ以テ砂糖糖蜜糖水ノ引渡ヲ收稅官吏ニ證明スヘシ

第十八條 第一項第七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第八號ヲ第九號ニ改ム

八 搬出前砂糖ノ包裝ヲ改裝スルモノニ在リテハ其ノ改裝場ノ所在

第二十七條 引取濟ノ砂糖糖蜜糖水ヲ其ノ製造場内ニ藏置セムトスルトキハ藏置區分及藏置期間ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

檢査濟ノ砂糖糖蜜糖水ハ製造場内ニ於テ檢査未濟ノモノトシテ區分藏置シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニ非サレハ其ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第二十九條 砂糖消費稅法第八條ノ二但書ニ依リ砂糖糖蜜糖水ノ販賣業又ハ砂糖糖蜜糖水ヲ原料トスル物品ノ製造業ヲ兼營セムトスル者ハ所轄廳ニ申請シテ其ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及第三條ヲ準用ス

第三十一條 中「糖水ノ製造者」ノ下ニ「又ハ砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者」ヲ第三號及第四號中「糖水」ノ下ニ「又ハ砂糖糖蜜糖水ヲ原料トスル物品」ヲ加フ

第四十條 中「第二十九條ヲ削除ス

第四十一條 左ノ一項ヲ追加ス

第三十一條ノ帳簿記載様式ハ廳長之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第五十二號砂糖消費稅法施行規則(明治四十二年七月二十七日)抄録

第四條 砂糖糖蜜糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスル者ハ移出場ヲ定メ土地、建物ノ圖面ヲ添ヘ所轄廳ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ移出場ヲ以テ製造場ノ一部ト看做ス

前項ノ移出場ニ砂糖糖蜜糖水ヲ移出セントスルトキハ其ノ種類、重量、箇數及移出ノ日ヲ定メ其ノ都度收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ依リ砂糖糖蜜糖水ヲ移出シタルトキハ收稅官吏ノ下付シタル移出承認書ヲ移出場所轄廳ノ收稅官吏ニ提出スヘシ

第七條 第五條ノ申告又ハ前條ノ申請アリタルトキハ關ハ検査済證ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ノ種類及斤量ヲ査定シ引取承認書ヲ下付スヘシ

第八條 砂糖消費税法ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金銀及有價證券ニ限ル

第九條 擔保額ハ所轄關之ヲ指定スヘシ

第十條 擔保物ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄關ニ提出スヘシ

但シ關所在地ニ金庫ナキトキハ之ヲ供託セシメテ所轄關ニ提供スルコトヲ得

前項但書ニ依リ關ニ於テ擔保ノ提供ヲ受ケタルトキハ當該官吏ハ擔保領收證ヲ提供者ニ下付シ擔保物ハ之ヲ供託スヘシ

第十一條 擔保物ノ價格減少シタリト認メタルトキハ所轄關ハ擔保額ハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十二條 砂糖消費税法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ砂糖、糖蜜、糖水引取承認證後六箇月以内ニ輸出免狀又ハ之ニ代ハルヘキ書類ヲ添附シ所轄關ニ申請スヘシ

第十四條 擔保物ノ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告初日ヨリ少クテ三日ヲ經過シタル後之ヲ執行スヘシ

公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、證券ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第十七條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場ヨリ引取ラムトスル者ハ其ノ引取ノ際第七條ノ引取承認書ヲ製造者ニ交付スヘシ製造者ハ引取承認書ノ交付ヲ受ケタル後ニ非サレハ現品ノ引渡ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 第一項

一 砂糖、糖蜜、糖水ヲ本島外ニ搬出セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シ製造場所轄關ニ申請シ搬出證明書ヲ下付ヲ受ケヘシ但シ搬出期限ハ三箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

二 引取先

三 引取ノ年月日及引取者ノ住所、氏名又ハ名稱

四 搬出先

五 搬出港名

六 搬出期限

七 搬出スヘキ砂糖、糖蜜、糖水ノ搬出場所

八 搬出者ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十七條 査定済ノ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場内ニ搬置スルトキハ検査未済ノモノト區別シ收稅官吏ノ承認ヲ受ケタルニ非サレハ其ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第二十九條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者其ノ製造場區域内ニ於テ販賣業ヲ經營セムトスルトキハ其ノ旨所轄關ニ申告スヘシ但シ其ノ製造場ト販賣場トハ明確ニ區別シ之カ圖面ヲ添附スヘシ

第三十一條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ少クテモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、斤量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ其ノ價格引取ノ日及引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類、斤量及使用ノ日

三 製造シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、配製、斤量、箇數及製造ノ日

四 他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、配製、斤量、箇數、價格、引渡ノ日及引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第四十條 第二十八條、第三十四條第一項、第三十五條及第三十六條ノ届出ヲ計リ若ハ怠リタル者又ハ第十七條、第二十二條、第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十三條、第三十七條、第三十八條及第三十九條第二項ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十一條 申告書申請書及届書ハ別記第一號乃至第十三號ノ様式ニ依ルヘシ

○臺灣總督府令第五十五號 (官報 七月七日)

官設埤圳前仔埤圳ニ依リ水利ヲ受クヘキ土地ニ課スル水租ノ等級及租率左ノ通相定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年六月二十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

水租等級

一 筒年一甲ノ租率	二 級	二圓七十錢
三 圓四十錢	三 級	二圓

○臺灣總督府令第五十六號 (官報 七月七日)

廳又ハ支廳ニ留置スル囚人、刑事被告人及其ノ他留置人ノ食費ハ一食五錢以内トシ廳長ニ於テ適宜其ノ額ヲ定ムルコトヲ得

附則

本令ニ抵觸スル從來ノ規定ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年六月三十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第五十七號 (官報 七月七日)

明治三十七年十一月府令第八十五號電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス
本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年六月三十日

新竹宜蘭間	五十五錢	集集北間	六十五錢
新竹羅東間	五十五錢	集集斗六間	二十五錢
新竹三叉河間	二十五錢	集集南間	二十五錢
樹林林宜間	五十五錢	埔里社北間	七十五錢
樹林林三角初間	三十五錢	埔里社斗六間	三十五錢
樹林林大寮間	三十五錢	埔里社南間	六十五錢
南投斗六間	二十五錢		

○臺灣總督府令第五十八號 (官報 七月二十一日)

荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル鐵道運送品等ノ公告ニ關スル件左ノ通相定ム
明治四十三年七月七日

第一條 鐵道營業法第十三條ノ二ノ規定ニ依リ荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル運送品ニ關スル公告ハ品名種類箇數記號發送停車場到達停車場保管停車場ノ名稱及託送到達ノ日時等成ルヘク其ノ運送品ヲ知得スルニ足ルヘント思料スル事項並公告後六月内ニ共ノ權利者ノ申出ナキトキハ鐵道ニ於テ其ノ所有權ヲ取得スヘキ旨ヲ記シ三日以上之ヲ官報又ハ府報ニ掲載スルモノトス

第二條 鐵道ハ前條ノ公告ノ外前條ト同一ノ事項ヲ記シ發送停車場到達停車場及保管停車場ニ少クモ七日以上之ヲ揭示シ仍必要ト認ムルトキハ發送停車場到達停車場及保管停車場所在地又ハ其ノ附近ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ三日以上公告スヘシ

第三條 前二條ノ規定ハ鐵道營業法第十三條ノ二ニ規定スル託送手荷物及一時預リ品ニ之ヲ準用ス

○臺灣總督府令第五十九號 (官報 七月二十一日)

明治三十年三月府令第八號臺灣中央衛生會規則第四條第四項中「參事官」ノ下ニ「警視」ヲ加フ
明治四十三年七月十五日

〔參照〕

臺灣總督府令第八號臺灣中央衛生會規則(明治三十年三月廿七日)抄錄
第四條第一項及第四項
臺灣中央衛生會ハ會長一人委員十六人以內ヲ以テ之ヲ組織ス
委員中臺灣總督府局長事務官、參事官、技師、醫師、藥學家ハ臺灣總督之ヲ命ス

○關東都督府令第十九號 (官報 七月五日)

明治四十一年四月府令第二十八號旅順電氣使用規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月二十五日

關東都督 子爵大島義昌

第二十八條中白熱電燈點燈料ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

タンクステン電球ヲ使用スル白熱電燈點燈料	
燭 力	内燈一燈ニ付一箇月
三十二燭光	金 一圓七十錢
但シ電燈球ハ取付及取換ノトキハ相當代價ヲ以テ拂下ルモノトス	外燈一燈ニ付一箇月
附 則	金 一圓十錢

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス